

特 203

117



* 0046154000 *

2

0046154-000

特 203-117

労作主義地理教育

宇野誠一・著

高踏社

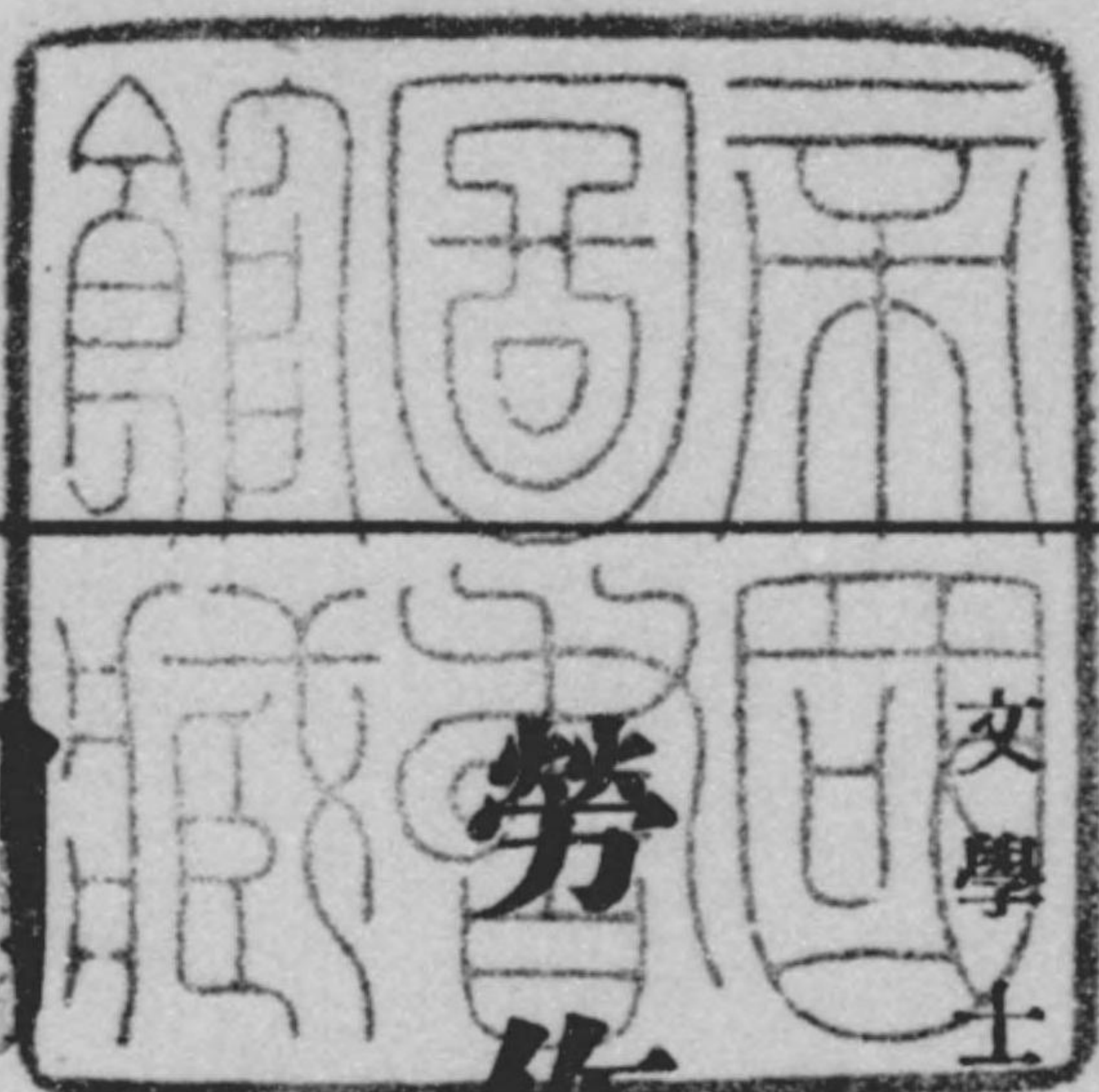
昭和9

AHF

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

409

特203
117



文學士

宇野誠一著

勞作主義地理教育

納本

東京高踏社發行



はしがき

吾等の待望せる理想の時代は遂に巡つて來た。あらゆる教育者は、我國に芽生し、育成し、結實すべき眞の日本教育に目醒むるに至つた。お、何と愉快なることではないか。我が教育界にとつて祝福すべきことである。

見よ。輓近我が教育實際界に於ては、一時踵をついで襲來せし教育新思潮は、今や全く停滞し、かくて教育實際家は、晨に一説を迎へ、夕に一説を送るといふイズムの送迎より救はれ、その思索は眞の日本主義の教育に嚮ふ、喜ぶべき雰圍氣を醸成した。

茲に於て初めて實際家は、自己本來の職務と責任に立歸りて、自らの歩むべき、正しき日本主義の教育道を凝視し、從來の輕佻浮薄なる新思潮を漁る所謂「初物喰ひ」の弊風より脱して、一意専心、日本主義教育の深究に邁進するに至つた。

此の傾向は教育の實際、殊に各科教授法の劃時代的の進歩を促し、未だ嘗て見ざる着實なる氣風を醸成し、教育實際界の黄金時代を現出したのである。

本書は此の喜ぶべき我が教育實際界の堅實なる進歩に、貢獻すべく企てられたるもので

あつて、教育の理論と實際に關して無益なる論議を省き、必要缺くべからざる重要問題を
 選びて懇切叮嚀に説述したものである。
 顧ふに教育のことたる、もとより経験を必須なる條件とすべきは勿論であるが、その仕
 事の性質上、理論の指導を受けずして暗中摸索的に進むことは出来ない。従つて教育者の
 日常苦心を拂ふ點は全くこの理論の體得にある。しかして更にこの理論を如何にして實際
 化すべきかは、すべての教育者の頭腦を絞る點である。本書はこの重大問題の解決に對し
 て、讀者に十二分の満足を與ふるものであることを信じて疑はないのである。
 一言述べて本書の序に代ふる次第である。

著 者 識

勞作主義地理教育 目次

前篇 勞作主義地理教授の實際	(一)	高等科の地理勞作學習	(一三)
地理の本質と勞作學習	(一)		
尋常科の地理勞作學習	(五)		
後篇 教案中心地理教授の實際	(一)		
一 地理學習指導案立案原理	(一)		
地理教育の計畫法	(一)	地理教授の診斷	(二)
地理學習態度の養ひ方	(七)	地理學習指導案の立て方	(二四)
二 地理基礎觀念指導案	(一七)		
宇宙觀念指導案	(一七)	縮尺觀念指導案	(二五)
天體觀念指導案	(一八)	距離觀念指導案	(二六)
地球觀念指導案	(一九)	面積觀念指導案	(二七)
水陸觀念指導案	(三)	高低觀念指導案	(二八)
方位觀念指導案	(三)	地圖附號教授案	(三〇)
經度緯度指導案	(四)	地球儀指導實際案	(三〇)
三 地理各教材指導實際案	(三)		
位置教材指導案	(三)	平野教材指導案	(四)
面積教材指導案	(三)	海岸教材指導案	(四)
人口教材指導案	(三)	氣候教材指導案	(四)
行政教材指導案	(三)	農業教材指導案	(五)
區域教材指導案	(三)	工業教材指導案	(五)
山脈教材指導案	(四)	鑛業教材指導案	(五)
河川教材指導案	(四)	林業教材指導案	(五)

水産教材指導案	(六〇)	嶺山市教授案	(八一)
牧畜教材指導案	(六一)	貿易都市教授案	(八二)
陸上交通教授案	(六二)	交通都市教授案	(八三)
海上交通教授案	(六三)	遊覽都市教授案	(八四)
空中交通教授案	(六四)	地誌教材指導案	(八五)
通信教材教授案	(六五)	地文教材指導案	(八六)
政治都市教授案	(六六)	挿繪指導實際案	(八七)
大都市教授案	(六七)	異動教材指導案	(八八)
商業都市教授案	(六八)	實地見學指導案	(八九)
工業都市教授案	(六九)	地理實習指導案	(九〇)

四 地理模範教授實際案

奥羽地方地勢教授案	(九)	地理讀物指導案	(一一三)
台灣地方氣候教授案	(一〇)	讀圖能力の養ひ方	(一一九)
關東地方産業教授案	(一一)	郷土地理の扱ひ方	(一二三)
九州地方交通教授案	(一二)	新しい地理學習のさせ方	(一二五)
近畿地方都邑教授案	(一三)	地理各學年の主眼點	(一二七)
地理自習指導案	(一四)	地理實習の指導の仕方	(一三〇)
地理豫習指導案	(一五)	地理直觀方便物の蒐集	(一三三)
地理復習實際案	(一六)	地理教授法の參考書	(一三五)
地理考查實際案	(一七)	地圖の選び方と使ひ方	(一三八)

五 地理教授法最近の進歩

教授法刷新の方向	(一八)	兒童に即すべき方法	(二二)
地に即すべき方法	(一九)		

勞作主義地理教育の實際

地理の本質と勞作學習

(一) 小學地理の本質

地理學の本質とは如何なるものであるか。地理の目的は如何といふことは、非常に大きい問題であり、茲で論述することは不可能事である。しかし之を要約して簡単に示せば、次のやうな答が得られる。

- (1) 地理は地球表面における人類の生活を研究する學問である。
- (2) 地理は人類と關係的に地球を研究するところの學問である。
- (3) 地理は地球上における人間活動の様式を研究するところの學問である。
- (4) 地理は地人關係を究明する一の獨立せる文化的科學である。

以上が大體における地理學の本質、目的とするところのものである。しかしながら小學校における地理の目的は決して専門的な地理學者を養成することではないから、抽象的、學問的に流れることはつしまなければならぬ。地理學上における常識としての知識、地理的識見、及びその知識の應用力を得させることに満足しなければならぬ。即ち次に小學地理

において取扱ふべき要項を擧げてみる。

- (1) 自然の人文方面に及ぼせる影響の研究。
- (2) 人間が人為的に如何に自然を征服利用しつつあるかの研究。
- (3) 地球表面における人類生活状態の研究。
- (4) 人類生活體としての地球の研究。

更に地理科の本質、目的とするところを施行規則についてみると、即ち地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ状態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ、又本邦國勢ノ大要ヲ理解セシメ、兼テ愛國心ヲ養成スルニ資スルヲ以テ要旨トス

と明らかにされてゐる。これを次に實質的方面と形式的方面とに分けて考へることが出来る。

(1) 實質的方面

(イ)地球表面に關する知識の一斑を知らしめること。

(ロ)人類生活の状態に關する知識の一斑を知らしめること。

以上の(イ)は自然地理方面にあり、(ロ)は人文地理方面である。この二者は分立され、單獨的に取扱ふべきものではないが、その何れにより重點をおくべきかといふと、勿論後者の人文地理方面である。

(ハ)本邦國勢の大要を理解せしめること。

小學校の地理においては、この點を最も重要視しなければならぬ。我が國の大勢を知らせるために日本地理を學習させる必要がおこり、更に世界地理を學習させることによつて世界の大勢を知らせ、我が國の世界的位置を眞に了得せしめる

のである。

(2) 形式的方面

(イ)愛國心の養成

よく知らせることは、愛させることの初めである。知らざるに愛することは出来ない。我が國の大勢をよく知らせることによつて、愛國の熱情が湧き立ち、それが色々の形となつて兒童の生活の上に現はれてくる。尤も島國民的な頑固な愛國心でなく、その缺點をもよく知り、その缺點の矯正に努める正しい愛國心を有する人間を涵養せんとするものである。

(ロ)觀察力、想像力、記憶力、推理力などを養成すること。

地理においては想像、類推によつて學習させるものであるから、第一にこの想像力と類推力との進展をはかることが大切である。正しい想像力は理想人格を形成するところの基礎であり、類推力は知識を實生活に應用活用せしめる基礎力となる。また近來の國史や地理科においては、反動的に記憶方面の輕んぜられる傾向があるが、記憶は依然として尊重されるべきものである。

(二)勞作と地理

以上において地理の本質、目的とするところは全體において理解了得されたことと思ふ。では地理科における勞作とは何か、要するに地理することそれ自身が即ち勞作といふことが出来る。地球表面における人類生活の様式、並に自然と文化との關係を把握すること自身が勞作である。この把握と認識とにより、より高い文化創造への勞力の基礎を與へることが勞作主義に立つ地理の眼目である。では勞作教育における地理の力點は何か、次にその二三を示してみよう。

- (1) 地理を生活させること 従來の地理科においては、地理を單なる死物、靜物として取扱つてきたやうに思ふ。故に

徒らに自然現象を取扱ひ、人事現象すらも自然現象の一たるかの如き態度を採り來たつたものである。しかしこの考の誤謬なることは言ふまでもないことである。地理は決して死物ではなくして生物である。常に生動し、刻々に生長し變化し活動しつゝあるものである。この地理を學習させるには、その生命の躍動の姿にまで突入させねばならぬ。即ち生命的に生活的に學習させねばならぬのである。

この地理を生活的に勞作學習させるには、先づその生活環境としての郷土の理解より、自己生活の地理的整理より出發させ、最後の歸趨點として郷土を意義づけるやうにしなければならぬ。

(2) 自發活動を重視すること 自發活動を重んずべきことはいふまでもない。兒童が自ら學習の目的を自覺して創造的に學習するところに勞作の眞精神がある。よしその結果が思はしくないとしても、その勞作の過程が尊いのである。勞作主義に立つ地理においては、決して功利的にその結果の如何のみに着眼するものではない。結果よりもその勞作の過程を尊重するものである。

(3) 作業を重んずること 單なる讀書學習では眞の實力はつかない。讀書學習は頭の學習であつて、全人間的學習ではないのである。讀書學習だけでは部分的な不具の教育といはざるを得ない。殊に勞作主義においてはこの讀書學習を排し作業による直観による勞作學習を重んずるのである。殊に地理においては、その教科の性質上勞作を要する部面が非常に多いのであるから、この勞作作業といふことを忘却してはならぬのである。勞力、汗、勞作によつて初めて讀圖力も養はれ、觀察をも増し、想像類推力も擴充されるであらう。

(4) 宗教的敬虔の態度を重んずること 吾人の祖先が開拓した文化の様相を知らしめることにより、その勞作の跡を追想せしめ、その努力の跡を考へさせ、茲に文化への宗教的感恩の心を涵養するのである。この感恩の心は、兒童自身が勞

作學習することによつて、初めて痛切に直接的に味はせられるであらう。又この感恩の心、敬虔の態度あつてこそ、文化建設への創造的努力も湧くものである。何れにしても勞作を伴はない學習といふやうなものはない。殊に地理科においては、兒童の勞作を尊重すべきである。

尋常科の地理勞作學習

(一) 地理基本觀念の養成

(1) 數理地理の基本觀念

(イ) 方位の觀念 地理學習の出發點はこれである。方位の觀念がなければ、地理の學習は出來ない。これも抽象的に方位を知らせるのでなく、實際生活につき實地につき、勞作によつて方位を知らせるやうにすべきである。又一時的ではなく、磁石を教室内において常に觀察させることが大切である。方位圖の如きも兒童自身に勞作描圖させる。

(ロ) 距離の觀念 メートル法をとる。これは算術科と連絡し、環境を利用して實驗實測させ、距離の觀念を確立させるべきである。これもすべて實地についての勞作を重んずべきは言を俟たない。

(ハ) 面積の觀念 算術學習と連絡すべきことは同様である。教室、運動場、學校園などの實測目測により直觀的に知らせる。

(2) 自然地理の基本觀念

(イ) 陸地の地理的要素と基本觀念 例へば山と山脈、山と谷、谷と大川と小川、川と平野との關係について、その基礎觀念を養成するのである。この基礎觀念を養成するには、只に教室内で抽象的に取扱ふだけではよろしくない。どうし

てもその實際について直観させ、實驗させ勞作せしめなければならぬ。實地につかすして眞の理解を與へることは不可能である。

(ロ)水陸兩方面の地理的要素 海岸・港灣・海・島・半島・岬・地峽・海峽などの觀念を養成するのである。これも實地について直観實驗させ、勞作せしめるべきであるが、地方によつてはその理想の達せられないところも多いであらう。したがつてこの場合においては、模型を作つて直観させるのである。

(ハ)氣候の觀念 この觀念は五年以前即ち尋常二年頃より涵養して行くやうにすべきである。即ち毎日黑板に晴雨を板書し、溫度に關しては教室内に寒暖計を設備し、溫度グラフを書かせたりする。運動場には風見を設け、揭示板を用意して氣候に關する事項を板書するやうにする。

(3) 人文地理の基本觀念

(イ)都會 どうして聚落が出来るか、どうしてその聚落が繁昌するかといふことを知らせねばならぬ。これには自己の郷土によつてその理解を實際的ならしめることが肝要である。而して聚落相互の關係などについても、實地に即して勞作學習させなければならぬ。

(ロ)交通 道路の通じてゐる有様や、何のために通じてゐるかといふことを考へさせ、その効果、社會的文化的意義を考察させるのである。これも郷土の交通について實際的に勞作させることは言を俟たない。

(4) 地人相互關係の基本觀念

(イ)平野と産葉と都會

(ロ)港灣と都會 海は水産物を供給する源泉であり、又運輸交通の媒介である。港灣と都會との間に如何なる相互關

係があるかといふことを考察させる。

(ハ)氣候と人文 氣候は人文の上に非常に多きな影響を及ぼすものである。畜に産業を交通を生活様式を異にするだけではない。その住民の精神、性格にまで影響を及ぼすものである。各郷土の氣候について、實際的に氣候と人文との關係を考察せしめねばならぬ。

(5) 讀圖の觀念

(イ)縮圖觀念 先づ教室の長さを實測させ、これを方眼紙に縮少して書かせるやうな作業を課する。この場合縮圖の割合は長さを基とするものであることを知らせる。この點を失念すると、廣さと誤解する者も出来る。教室だけでなく、校舎、校地などの縮圖をも描かせ、縮圖の基礎觀念を確立させるのである。これは地理の内の勞作として最も重んずべきところのものである。

(ロ)平面圖の觀念 實地から平面圖に入る前に、實地の模型を作らせる。學校附近の模型を兒童と共に勞作製作する。かくて實地と對照させ、郷土の地圖を比較させて、平面圖の觀念を與へるのである。

(ハ)符號の讀み方を確實に 符號の讀み方が確實に收得されてゐなければ、地圖をみても直接實地を想像することが出来ない。地圖においては符號が最も重要なものであるから、この指導を輕んじてはならぬ。兒童に郷土の地理を描かせ、符號を描きこませる勞作學習をさせる。

何れにしても、讀圖の觀念は勞作によらしめ實際的に指導することを肝要とする。

(二)興味による勞作學習

興味といふことは單に地理の勞作の場合に限らず、すべての教科の學習に必要な條件である。興味は兒童の自發的な

勞作學習に缺くべからざる一つの條件である。興味によつて兒童の地理學習をより自發的ならしめ、より活動的ならしめることが出来る。

(1) 都市早週競争 先年某新聞社によつてこの種の催物があつた。兒童に實地にやらせれば地理學習として非常に効果多いのであるが、それは許されないことであるから、紙上で行はせるのである。紙上競争とはいへ、これは地理の發展的應用的方法として非常に重要なものである。その方法は、郷土を出發點として、都市と都市とを連結させ、早週競争をさせるのである。これは兒童と相談して次のやうな要項を決定するがよい。

(イ) 鐵道線を多く利用すること。その中の何線と何線とを必ず通過すること。(鐵道線を多く利用することは、その時間を短縮することが出来るからである。)

(ロ) 都市の順序はきめない。何れから廻るもよい。鐵道線に都合のよいやうに廻らせる。

(ハ) 時間は旅行案内のそれによる。

(ニ) 地圖化すること。

この條件がきまれば、地圖化しつつ競争學習に入るのである。旅行案内の古いものを兒童數だけ用意することは言を俵たない。この方法は四五人のグループとしてさせてもよいが、それでは各個人の意見がましまらぬやうなこともあるから矢張り個人作業がよいやうである。何れにしてもこの方法は地理學習に非常に有益なるもので大體次の如き効果がある。

(イ) 整理作業が興味の中に行はれること。

(ロ) 都市の所在地をはつきりさせること。

(ハ) 鐵道名を知り又交通の利便を知る事。

(ニ) 時間計算に修練させること。

(ホ) 交通系統を實際に知らせ、旅行案内の使用法に修練させること。

(2) 比較競争 これはある府縣とある府縣との産業や人口や交通や史蹟名所やその他について比較對照させ、その優劣を決定させる方法である。尤も整理作業としてこの方法をとることはいふまでもない。この方法は個人作業よりも分團作業とし、矢張り地圖化せしめつつ學習させるやうにするがよい。相互の比較によつて優劣をきめるのであるから、なるべく自慢になるやうな、すぐれた點を拾ひ出さねばならぬ。そこに自然に興味の中に、整理作業が完成されるわけである。しかし府縣そのものの相互の優劣について徹底的な批判や比較は出來難いのであるから、評價を徹底的に決定しないやうにするがよい。府縣の比較よりも、兒童勞作の作業の優劣についてみる方が至當であらうと思ふ。つまり府縣の比較といふより、兒童の整理勞作作業に對する優劣をみることを要點とするのである。

(三) 郷土地理學習と勞作

(1) 郷土地理の目的 郷土地理は如何なる目的によつて學習させるのであるか、この點に對しては大體二つの目的が判定されるやうである。即ちその一は郷土地理を學習させることによつて、地理學習の基本觀念を確立せしむるといふことである。地理を學習するには想像類推によらなければならぬ。而してこの想像類推の基礎となる觀念は、郷土を直觀して得た地理の基本觀念である。即ち郷土を基礎として出發點として、想像類推を發展せしめようとするのである。その二は郷土の地理を知らしめることにより、郷土愛を確立せしめようとする目的である。先づこの二點が郷土地理學習に對する目的とみてよい。

(2) 郷土地理とその學習の時期 郷土地理は尋四までに國語讀本の材料と連絡的に取扱ふやうにすべきである。國語讀

本の材料中には、地理的材料が非常に多く、採擇されてあるから都合がよい。しかし尋四までに郷土地理を取扱ひ、地理を正教科として取扱ふやうになれば、捨てゝもよいかといふと、決してさうではない。日本地理の學習、世界地理の學習においても、常に關係的に郷土に着眼させて行くことを肝要としなければならぬ。即ち郷土を學習の基礎として、勞作學習させるのである。

(3) 指導上の注意點

(イ)場所の選定 郷土のどこに行けばどういふ學習が出来るかといふことを明らかにしておかなければならぬ。教師は前以て實地踏査を十分に行ひ、郷土地理學習を圓滑ならしむべく用意しなければならぬ。

(ロ)兒童との打合せ 實地について郷土地理を學習させるとき、先づ兒童と打合せを行はなければならぬ。兒童にその學習の目的を知らせないやうでは、十分の學習は出来ない。兒童自身がその學習の目的を自覺し、自主的に勞作するやうでなければならぬ。携帶品を十分手抜きなく用意させることはいふまでもない。

(ハ)整理を徹底させる 郊外學習の結果は、とかく整理方面に缺陷を有するやうである。折角學習させても、この整理方面が疎にされ、ば何の役にも立たない。必ず整理することによつて、明確なる學習たらしめなければならぬ。この整理作業は勿論勞作として、文章として要點を摘書させたり、圖畫として表現させたり、模型を製作せしめたり、地圖を描かせたりするのである。

(四)描圖と勞作

(1) 描圖の目的 何故に地理學習においては描圖をさせるか、その目的は如何。これは勞作主義の地理として、描圖の目的はすでに明瞭なる筈である。即ち描圖の目的としては、次の諸點を擧げることが出来る。

(イ)作業的即勞作的に確實なる學習をなさしめるため。

(ロ)地理と地圖との密接不離の關係を深めしめんがため。

(ハ)真相の理解を驗するため。

(ニ)地圖に對する讀解力を擴充させ、更に觀察を精密にならしめるため。

(ホ)兒童の自發學習を維持せしめるため。

(ヘ)描圖能力を養成して實生活の上に役立たしめるため。

何れにしても描圖といふことは、勞作主義に立つ地理學習にとつて不可缺の事項である。十分描圖を勞作せしめることを肝要としなければならぬ。

(2) 未成地圖を主とする描圖勞作 既成地圖にも長點があるが、これは第一に時間上不經濟であり、必要に應じて簡單に描圖するといふことが出来ないから、地理學習においては未成地圖を主として描圖させ、學習を能率的ならしめることが肝要であらう。尤も未成地圖であるから、出来るだけ簡單明瞭にして不必要なるものは省略させるやうにする。而して教師の描圖もこの未成地圖によるやうにする。教師の描圖は、その時間中において兒童の面前で描いて行く方法をとるがよろしい。この方法によると兒童の注意力も集まり、教師の勞作をみて自然に描圖法を會得して行くことが出来るものである。

(3) 兒童に描圖させる時機

(イ)豫習の場合 豫習の場合に略地圖を描かせて自習させるやうにする。本を読むことよりも、この描圖勞作の方法をとらしめる。

(ロ) 學級學習の場合 贅言を要しないと思ふ。豫習の場合に描圖したものを發表させ、學習の進展に即して描圖させるのである。

(ハ) 整理の場合 豫習の場合や學級學習の場合の描圖は不正確である。また意味を十分に理解しないで、無意味に器械的に描圖する。之を整理の場合に於て、その不正確なる點、不足なる點、無意味の點を正しつゝ描圖させるのである。

(ニ) 家庭における場合 家庭における自發的の描圖は大いに獎勵しなければならぬが、困難な地圖を宿題として課することはよろしくない。地圖の描圖は兒童自身に自發的に勞作させるところに價值あるものであつて、宿題として兒童に課する場合は、既に兒童の勞作的快味は消失してしまふ。故に家庭における自發的な描圖は、あくまで無理のいかぬ範圍において行はせなければならぬのである。又中には美術的な精緻な地圖を自發的に描いてくる者もあるから、かうした兒童に對しては個人指導を加へるやうにしたい。

(4) 描圖法の種類 描圖法の種類としては次のやうなものがある。

(イ) 既成の白地圖に記入させる方法。

(ロ) 既成地圖を離れて暗寫させる法。

(ハ) 既成地圖をみて、大體の形をとり乍ら描かせる法。

(ニ) 既成地圖を透寫させる法。

(ホ) 方眼紙によつて描かせる法。

(ヘ) 經緯線を引いたものを與へて描かせる法。經緯線及方眼を引かせて描かせる法。

(ト) 一二の點線を中心として描かせる法。

(チ) 幾何形や物體の輪廓を骨格として描かせる法。

(リ) 一定の點を中心として描かせる法。

(5) 描圖上の注意 描圖のために徒らに時間を費させることを慎まなければならない。又兒童の能力以上の作業を課して、兒童を苦しめることを排すべきである。兒童描圖においては、最も容易なる描圖の方法をとらせ、正確に明瞭に描かせ、時間を浪費することなく迅速に描かしめることに留意しなければならない。描圖に多くの時間をとるからといつて、描圖を家庭作業とすることは當らない。描圖させ乍ら學習させて行くところに勞作學習としての價值が存するのである。

(6) 描圖の處理について 兒童の描圖したものは、これを蒐めて展覽會をひらき、相互に批評鑑賞させるやうにする。而してその中から優秀なるものを選択して、これを教室に掲示する方法をとる。これは日本地理の學習の場合に限らず、世界地理の學習においても同様に必要なる事項である。

要するに地理學習における描圖といふことは、勞作として最も重要なものである。單なる讀書學習、教師一人の決斷的講讀法によることを排し、地圖描圖の方法を徹底せしむべきにある。

高等科の地理勞作學習

(一) 世界地理の學習

(1) 高等科の世界地理 尋六における世界地理は、世界の大勢を知らしめ、主なる國の特徴並に我が國との關係について學習させ、我が國の國勢を理解させることを目的としてゐる。高等科の世界地理においてもこれらのことに着眼すべきは言ふまでもないのであるが、もつとその範圍を廣め、程度を高めて地人關係の合理的學習を一層重んずるやうにして行

きたい。而して各國をまとめて學習させ、その國の國民性や國家の現状を理解させると共に、もつと突きこんだ科學としての地理を收得させるやうにする。世界の大勢を理解させ、我が國の世界における位置を明瞭に認知させることはいふまでもない。

(2) 世界地理學習の着眼點 これを次に簡単に要項的に述べてみよう。

(イ) 我が國との關係に特に注意させること 我が國との關係の深い國はこれを重視しなければならぬ。單に産業貿易方面ばかりではなく、政治上、軍事上、殖民上の關係についても着眼せしめることを忘れてはならぬ。國際關係の將來といふやうな點に對しても、一應ふれる必要があらう。

(ロ) 我が國を比較の基礎とすること 我が國を比較の基礎として學習させると、その國の事情が具體的に比較の上に明瞭にされると共に、我が國の國勢も自ら明瞭になるものである。これも面積、人口、氣候、地勢、産業などのみに限らず、政治上、軍事上の點にまで比較させるがよい。例へば英國と我が國の如きは、すべての點において非常に似た所がある。これは必ず比較研究させねばならぬ。尤も兒童の自由研究の部面まで含めて、廣範圍に亘る比較をなさしめる。

(ハ) 各國の特徴を把握させること 各洲の學習においても、各國の學習においても、その特徴をはつきり掴ませることが肝要である。個性的に各國を明らかに認識させるのである。

(ニ) 世界的にみさせること 各國は單獨に生立し發展するものではない。如何なる小國と雖も世界各國と何等かの相關の關係に立つてゐる。故にその國の地理を眞に了解させるには、世界といふ立場からこれを考察させることを忘れてはならぬ。世界的にみて如何なる位置にあるか、如何なる事情にあるかといふ點に留意させねばならぬ。

(二) 補習地理の學習

(1) 補習地理學習の主力點

(イ) 地文兩方面について整理し、まとめた知識を得させること 兒童はこれまで日本地理の總説や世界と日本等のところにおいて、幾分まとめとしての學習はし來たつたのであるが、これを地理要目より彙類的にまとめる學習はしてゐない。即ち補習地理においては、この總まとめを行ふことを主眼とするのである。

(ロ) 我が國の特徴を理解させること これまでの學習においても、日本と世界とを對比的に考察させ來たつたことは明らかであるけれども、それは一部分づつの断片的の比較であつて、總括的な比較考察といふ方面は疎にされてゐる。そこで補習地理においては、これを改めて總體的に全體の達觀をなさしめるのである。これによつて我が國の特徴を知らせ世界における我が國の位置をはつきり知らせ、國民としての識見を涵養させるのである。

(2) 學習指導の留意點

(イ) 既習材料と新材料 先づ既習材料と新材料とを區別してかゝる必要がある。既習の材料はもとより自學勞作させるのであるが、新材料に對しても兒童の自發心に訴へて自學させ、然る後に教師がこれを補充整理してやるといふ方法をとる。而して補習地理の學習には、常に新味を加へ、出来るだけ作業勞作の部面を加味し、實證的に興味的に學習させて行くことが肝要である。

(ロ) 環境生活に關係づけること 補習地理は動もすると抽象的、論理的となつて實際から脱却し易いものである。そこで教師は、常にこれを實際化させる上に考慮を有つべきである。常に郷土を地理學習の基礎として、出来るだけ直觀的に取扱つてゆかねばならぬ。また勞作化することは言ふまでもない。兒童に調べ得ることは、必ず兒童の勞作活動に訴へなければならぬ。

(三) 地理の勞作學習

(1) 實地調査 出来るだけこの實地調査の範圍を擴大することに努めたい。地質の研究も圖上の研究だけでは机上の理解にすぎない、標本によつたにしても實地調査ほどの明確なる認識を與へることは出来ないであらう。したがつて郷土及び附近に實地調査の好對象があるならば、これを可及的に利用するやうにすべきである。而して實地について、明確な知識を與へる。

(2) 繼續的實驗 高二の教材は地理學通論が全部の學習事項をなしてゐる。したがつて繼續的實驗に訴ふべきものが多いこれらの實驗は兒童自身の勞作に訴へ、繼續的に、出来るならば個人的に行はせたいものである。次に實驗的作業によるべき事項をあげると、溫度の實驗、雨量の實驗、氣壓の實驗などがある。これらは實驗の結果を繼續的にグラフに記入させる事は言ふまでもない。

(3) 圖上測定 伸縮度の少い糸によつて圖上測定させ、測定した距離から實際の距離を出させる勞作學習である。次のやうな測定事項がある。郷土からの距離、川の長さ、山脈の長さ及びその幅、都邑と都邑との距離、港と港との距離、鐵道線路の長さなど。

次に面積の圖上測定としては、面積測定器による方眼入りの方形定規を用ひさせるがよいと思ふ。この場合注意しなければならぬことは、縮尺の割合は長さであるから、實際の面積は長さの二乗倍なることである。自己の市町村又は府縣の廣さ、平野の廣さなどを圖上測定させるのである。

教案 地理教授の實際

一 地理教育案立案原理

地理教育の計畫法

私は今は詳細に私の考を申上げる暇を有けませんから、極く結論的に地理教育の計畫法を記述いたします。實際、地理の研究家は随分たくさんあるし、地理教育法を論ずる人は極めて多いのでありますが、子供の地理眼識を啓發し、其の趣味を啓培するに妙を得て居る實際家はどれ位ありますか。こゝに私達、地理教育の實際に當るものゝ研究分野があるので、私の失敗やら反省やらを基にして地理教育の計畫はどうあるべきかをこゝに述べようとするのであります。

一、どうすれば地理學習に興味をもつか——第一は各學級で十分間構圖法を實施することです。兒童が地理學習に興味を持ちさへすれば、地理教育の實績は半を達したものと云へませう。其の方法むづかしいへば色々ありませう。しかし、どんな田舎の子供にも、興味をもたせ、どんな教師が教へても興味を有つに至らせる方法はといつたら、私は地圖をどしどし書かせなさいと申すのであります。「地圖を描かせるには時間がかかる、一週僅か二時間位の中でどうして地圖が書けるようか。」と申される方がありませう。實際御説の通り、製圖屋の様にやつてゐましたら幾時間あつたとて、時間不足に終りますし、製圖屋を作ることとは普通教育の目的としない所です。又中等學校で教はつた通りの構圖法を小學校でやらせるのは第一不合理です。では十分間に關東地方の地圖を書かせるにはどうしたらよいか。」と。今は私達、之位に實際的に考

へて見ませう。それには附圖をうつさせればよろしい。地圖を寫つすことは機械的の作業で効果がない等といふ人は理論の殺で自らを苦しめてゐる愚人です。随分かういふ爲の理窟をいふ人が世間にはゐるものです。理窟の多い世の中ではあまり人の批評に動かされる事なく思ひきつて、十分間描寫法を實施するのです。

毎時、五分なり十分なりを描寫にあてる様に教案を立てるのです。私は半透明紙と、炭酸紙を兒童にいつも用意させておいて、略圖を書かせては教授を進めることにしてゐます。描かせる方法は、先づ薄い半透明紙を地圖の上のせ、輪廓をうつさせます。次にその輪廓をかけた半透明の用紙をノートの上のせ、表から強くあとまでして線をつけさせます。それから鉛筆で墨を入れさせ、色鉛筆で色々記入させるのです。此の輪廓をかけた半透明用紙は其の後幾度も使用することが出来て、地勢圖、都邑交通圖、産業分布圖、小地理區圖等を必要に応じてさつさと書くのです。若し炭素紙の用意が出来ましたら、もつと手がはぶけて兒童は興味が多くて、教師の申付けぬ前に、次々と地圖をかい、自習して行くものです。

私は嘗て板書すきの先生に教はりました。此の先生、實に板書の字がきれいで、早くて、系統立て、書かれるのであります。生徒は何しろその板書をノートするのに忙しくて、考へる事も、地圖を見る事すらも暇がないのでした。實に困りました。何を話してゐられるかさつぱりわかりませんが、板書された事だけは兎に角ノートしなければ檢閲が通らなといふ地理學習であつたのでした。斯ういふ教師もまだ多い事せう。教師の板書は文章で書くより地圖を多くし、教師は地圖の板書することに骨折るよりも兒童の學習帳に地圖を多くかかせることに骨折り、それに學習事項を符號で記入させるのです。

二、地理の實力をつけるのはどうしたらよいか——それには五分間讀圖復習をやるのです。

十分間とか、五分間とか、をかしい言ひ方ですが、毎時の最初に、宛も系統暗算の練習の様なつもりで、一地方の基礎的事項を地圖についてさらふのです。之は一番實力がつかます。元來今日の地理教授は、地理理法の推究とか何とか、大學者でも出来ないことを子供達に考へさせようとして無駄骨をおつてゐる様ですが、無理な推論は一切排して、基礎的事項を五分間づゝでもよいから、地圖について練習するのです。

基礎的事項といふのは、例へば府縣の名稱であるとか、主な都邑の名、川の名、海流の流方、氣候分布、産物の分布概観とかいふことです。卒業するまで日本の周圍の海の名や、海峡の名稱すら頭に入つてゐないで、徒らな地理理窟を教師が我物顔に話してゐるのが今日の地理教授せう。教師はシャベリ役、兒童はノート役か、忘れ役か、さもなければ座視の行をする様なものです。教授用の大地圖を指させ乍ら、毎時間是非五分間讀圖練習をやつて下さい。系統暗算のやうなつもりで。機械主義とか、暗記本位の地理教授だと批難する人がありませう。さう批評する人の生徒は大概地理の成績があがつてゐないものです。

地圖の讀方といふには事實の讀圖が根本です。推論的讀圖は小學校では末梢問題と見ればよいのです。

三、教授の順序はどうするか

或人が、私にこんな質問をされました。「地理書では産業の次に交通都邑が入つてゐますが、都邑を先に取扱つたら、いけませんか。」といふのです。私はその卓見に感心してすぐ賛成しました。それでも私はその質問者があまりに、遠慮で謙遜なのに寧ろ氣の毒に思ひました。此の人はどうして教科書の奴隷になつてゐられるのでせう。此の先生一人はよいとして、奴隷の態度を以て教へられてゐる兒童が氣の毒だと思ひました。教科書は一の地理教育の材料にすぎません。そんなものに手足をしばられた様な教授振では効果を擧げる事は出来ません。

元來萬人共通の一番自然な學習法の順序は第一は全體の概観から具體的のものにつくこと、第二はその具體的なものゝ研究、第三は其の研究を全體として統整し共通の理法を考察し、之を實際に應用するといふ順序であります。地理學者が地理を研究するのも、どんな子供が物を學ぶのも、此の學習順に従ふのが最も自然であります。あの地勢とか産物の米、麥、豆、工業等といふ小題目は一通り研究した後、それを統整する必要上の用語であります。私達は暫く之等の地理的要素語を撤去しておきませう。そして具體的な小地理區の實際に當らせませう。小地理區こそ生きた土地であります。その山脈はその土地の骨格であり、平野は其の肉體であり、地理區内の交通系は神経系統で、川は血管であります。都邑は神經中樞であります。之等が一體となつて活動してゐるのが、小地理區であり、郷土といふ生きた存在であります。私達は先づ之に直面させねばなりません。即ち地理區的地圖を讀ませるのです。そして描圖させ、見たまゝの意見を述べさせます。

第二段の取扱は各地理區の取扱が終つてからはじめます。之は從來の地勢—氣候—産業—交通—都邑といつた統整的取扱でありまして、地理理法の窮明も、地理の應用的取扱も此の時行はれるのであります。

以上二つが地理教授の主要部でありまして其の前と後に簡単な取扱が必要です。前の取扱とは概観の指導と、兒童の生活に關係ある事項を扱ふ事で、後の取扱とは練習と實生活上の地理的問題の考へ方を指導する事でありまして、之を要するに取扱の順序は次の様になります。

(1)、兒童生活を教材に引きよせる爲の方法段階

どうして此の地に行くか

此の地について知つてゐる事はないか

- (2)、全地方を概観する指導……さうして小地理區を決定する。
- (3)、各小地理區の取扱……順序立てて全地方の部分的取扱をする。
- (4)、地理的要目によつて全地方の統整的學習をすること。
- (5)、練習と應用的問題の取扱。

如上の計畫觀に立つて私が今臺灣や朝鮮を教へる際の計畫をして見ませう。

(臺灣)……六時間配當にします。

- 一、臺灣地方概観 (二時間)
 - イ、どうして臺灣へ行く、(位置をも明かにする)
 - ロ、區域(複寫紙を以て本地方の描圖作業)
 - ハ、行政区分、面積、住民沿革の一通を明かにする。
 - ニ、自製白地圖に山脈、川、平野、交通線、主要都市及人口を記入させる。
 - ホ、地勢氣候の概観をして地理區をきめる。此の時人口都邑分布圖を活用する。
 - イ、中央山地部の地理……臺灣山脈と新高山、次高山及河川と其の特色並に高砂民族。
 - ロ、蕃界嶺の地理……蕃界嶺と北部炭田、鑛山、油田、人仙山、阿里山。
 - ハ、西部平野の地理……臺灣西部平野と海岸の地理 臺北盆地、新竹州平野、臺中州平野、臺南平野、高雄州平野。
 - ニ、東部地方及海岸の地理 宜蘭平野、臺東平野、臺東山脈。
- 二、地理區の取扱 (三時間)
 - イ、臺灣の地勢の特色、位置、臺東山脈。
 - ロ、臺灣の氣候と産業との關係。
 - ハ、農業と工業、林業と工業、鑛業、水産業、貿易。
 - ニ、交通と都邑。
- 三、統整的取扱 教科書を中心 (二時間)

（ホ、北海道及樺太と臺灣との比較。

（朝鮮）……時間配當約九時間

一、位置區域 （一時間）

- イ、郷土から朝鮮（京城）に行くにはどうすればよいか。
- ロ、朝鮮地方の區域と位置について。
- ハ、國境の研究。
- ニ、朝鮮の沿革及既有知識の發表整理。

二、地勢氣候概観 と地理區決定 （二時間）

- イ、地勢概観……山脈や山岳の様子が南北によつて其の性状分布を異にし、本地方が自然的にも南北に分れてゐる事に着眼させる。
- ロ、川と平野……諸川及其の流域平野の分布。
- ハ、海岸の状況と朝鮮の門戸となる港。
- ニ、小地理區の決定……四小地理區に分つ。
- イ、朝鮮海峽方面（殊に洛東江流域と海岸）
- ロ、黄海方面（殊に南山西江、錦江、漢江、大同江等の諸川の灌域と海岸）
- ハ、日本海方面（殊に東朝鮮灣及海岸一帯）
- ニ、北朝鮮（殊に鴨綠江、豆滿江、國境地方）

三、地理區の取扱 （四時間）

各地理區の地勢、氣候、産業、交通、都邑、及民族生活の特色を有機的に綜合的に取扱ふ。此の際には出来るだけ多くの直觀物を準備し、學習作業をやらせる。教科書の統計や挿繪は各地圖區で取扱ふ。

四、統整取扱 （二時間）

- イ、各小地理區で學んだ部分的材料を先づ朝鮮全體から見させて、位置、地勢、氣候、産業、交通、都邑、住民といふ項目によつて統整し習得させる。
- ロ、教科書によつて更に總括し重要な要約問題を教科書に書込ませて練習させる。

以上で大體私の地理教授の計畫法が一通り御了承願へようと思ひます。「かうしてやつて成績が上らなければ人業では手におへない」といふ程のたしかな方法でやつて見たいものです。

——東京女高師訓導 坂本 豊——

地理學習態度の養ひ方

（一）先づ興味を發得せしめよ 地理科によらず、兒童の學習の心理的狀態を考へて見るに、興味本位であることは、争ふべからざる事實で、興味を體得しない者にしつかりした學習態度の出來やう筈がない。

兒童に興味を體得させるには、教師自らが興味をもつて指導せねばならぬ。之が兒童に興味を有たせる、唯一絶對の捷徑であると確信するのである。私の學校では概して、尋常三年以上は學科擔任制度である。勿論學級擔任としての主任指導のあるのはいふまでもない。此の場合に、其の學級兒童が擔任指導研究の學科に影響されることの多い事實に徴しても明かである。

即ち算術の教師の擔任學級の兒童は算術が好きになるし、讀方の教師の組では、一般に讀方が得意になる様である。私の教へてゐる兒童は、地理に興味を有つてゐる。學校の時間中、自習の時間といふと、必ず地理をやつてゐる。家庭に歸つてもさうしてゐるので、或男兒の如きは「お前のやうに地理ばかり勉強してゐては困るではないか。」と父から小言を言はれたといつてゐる。

此の一事からも如何に教師の態度が、重大であるか、明瞭であると思ふ。然るに、地理の授業は面倒であるとして、教材の研究に骨が折れるとして、讀方の授業のやうな、通讀一過的の指導をしてゐたのでは、何時になつても兒童は、地理科に對して興味を體得するものではない。故に兒童に興味を與へんとすれば、先づ以て教師が興味を有たねばならぬと確

信する。

(二)地理學習の要領を得せしめよ　これは又地理學習に限つたことではないが、地理には地理としての、學習要領がある。それを體得させねばならぬ。それが爲めには、次にあげる事項を重視したい。

(1)地圖に親しませる——地理學習における要領の第一義は、讀圖力の養成にある。兒童の所持する地理書附圖は、地理を學習するとしては、餘りに不十分の點が多いと思ふ。もつと各地の部分地圖や、各種の分布地圖がなければならぬ。(安い定價で多くの本を望むのは無理である)それでも之を讀んで、山脈、河川の方向、平野の状態、産業の分布、交通、都邑の發達を考察し、實際を想像し、類推して行くやうにせねばならぬ。兒童はやゝもすると地圖を輕視する。地圖を觀ないことがある。絶対にこんなことがないやうに指導することが大切である。これも全く教師の態度に基づくものである。思へば教師の指導は重要である。

それならば如何なる方法によつて、地圖に親しむ態度を養ふべきかといふに、先づ讀圖力の基礎を養つておく必要がある。それには最初の取扱として、學校所在地及び其の附近を精密に表はした地圖によつて、實際の土地と地圖とを對照して、地圖の如何なるものかを理解させるがよい。つまり郷土の直觀より地圖の指導に入るものである。

而して(イ)平面圖、(ロ)縮尺と實際距離との關係、(ハ)記號の視方、(ニ)圖上における方位等に関する知識を整理し、且附與するのである。なぜ茲に之等の知識を整理するといふことを申すかといへば、兒童は既に讀方等において、地理科の基礎となるべき相當な知識を得てゐるからである。今は茲に、それ等の具體的な事項、並びに讀圖上の基礎となるべき事項について述べることは省略しておく。また地理書附圖の「圖例」について十分に指導しておくことが大切である。

而して讀圖修練に關する基礎的態度を確立させ、地理學習には絶えず、地圖に親しませる訓練が最も重要である。然る

に世の地理教授の實際をみるに、地圖を讀ませることを本領とせず、徒に教師の冗漫なる説明のみに力を注いだり、地理教科書を讀ませることを以て、能事終れりとなすものがあるが、これでは何時になつても、兒童の讀圖力は養はれない。

教外教授に行く、遠足に行く——こんな時には、陸地測量部の地圖は勿論、凡そ地圖を必要とする場合は、何時でも之を利用する態度に出づるならば、期せずして讀圖力が修練されるものである。讀方教授の際でも、修身教授の際でも、地圖を必要とする場合には、教師は絶えず準備することを怠るやうなことがあつてはならぬ。

(2)地圖と地理教科書を併せ考へる——兒童の程度に適當した精密な地圖で、各地の部分地圖や、各種の分布地圖さへあれば、殆ど地理教科書がなくても、教師の指導によつて地理學習が出来ると思ふが、現在の状態ではそれが出来ない。されば現行地理教科書と、地圖とを相對照して學習せしめる方案を探るのが最も無理がないかと思はれる。之が現状に最も適合してゐると考へられるが、稍もすると、教科書の方が重くなり、地圖を輕視するので、其の學習が讀本式になつて、地圖を排斥し、斷片的に陥り、他の事實相互の有機的關係を失つて了ふことがあるから注意せねばならぬ。

(3)適當な参考書を與へよ——地理の自學自修が叫ばれてゐて、其の効果のあがらないのは、單に地圖と地理教科書だけで、他に適當な参考書のないことが、其の有力な原因になつてゐると思ふ。現行地理教科書や、地理書附圖が兒童の自學自修——學習態度をつくるに、必ずしも適當でないことは前にも述べた通りである。現行教科書の如き、無味乾燥に失してゐる嫌がある。それで教科書以外の参考書による學習も大いに考へねばならぬ。わからないことを調べる、一層深く研究して見る。興味ある材料を更に調べて見るといふ爲には、何か適當な参考書が必要である。しかし之は現今の一般農村小學校の兒童には、應じられない要求かも知れないが、何か適當なものを提供してやりたい。さうでないともつと深く調べるといふ兒童に、其の希望と満足とを充すことが出来ない。而して現在多く出てゐる兒童向きの参考書中、三省堂發行

の「小學生の地理」などは適當なものであらう。

(4) 研究問題中心に學習せしめる——地理教科書と、地圖とを比較相對照して、其の内容から適當な研究問題をつくらせて、其問題中心に研究させることも、兒童の學習態度を確立向上させる所以である。例へば奥羽地方の地勢で「三列にならぶ山脈といふのは、どんな山脈か」「奥羽地方の山脈は、この川にどんな關係があるか」などと問題を作らせて、其の問題の下に學習させる方法である。

兒童の地理學習の進まない中は、地理書の區域、地勢、産業、交通、都邑等の記載順序に従ふも、學習が進めば、地理書の記載順序に拘泥することなく、研究問題を作製させるがよい。私の経験によれば、それは可能である。勿論此の場合には、地圖と教科書とを研究の資料として、問題を作るのである。此の際に學級全體の兒童を幾つかのグループに分ち、一グループを三人乃至四人として、共同研究をして問題を作製させて見ると、可成りうがつたよい問題を捉へることを経験してゐる。

(5) 復習、整理總括に注意せしめよ——地理學習を確實に記憶させ、認識させて行くには、絶えず復習して温め、練習することが大切である。殊に記憶的方面は如何なる學習法でも、一回のやりつばなしでは到底駄目である。

されば兒童自らが機會を利用して、復習練習をなすやうに習慣づけると共に、教師の方でも復習、練習の機會を作らねばならぬ。それが爲には

(イ) 家庭又は學校の自修時間に復習する場合

(ロ) 各地、各國の學習の際、關係ある毎に練習する場合

(ハ) 特別に一地方の終りとか、學期の終りとかに復習練習の機會を設けてなす場合

等のあることを心得させねばならぬ。

また地理の如く、其の内容が廣汎であり、多岐である材料では、單に復習する以外に整理總括によつて、統一した知識として行くことの必要を痛切に感ずるものである。即ち一地方、或は一國の地理指導の終つた後に、其の地方を大觀し、其の一地方、一國の特色を明かにし、教材を整理し總括することは、地理科の内容的本質から必要なのである。而して整理する場合からいへば

場合)

(ロ) 日本地理學習の際、各地方の終つた後

(ハ) 世界地理の學習の際、各國及び各洲の終つた後

等の場合がある。而して整理總括の際は特に

(イ) 各地方各洲にわたつて重要問題を捉へること

(ロ) 相異なる兩方面を捉へて比較研究をなすこと

(ハ) 學習の進んだ所では、地理區の特色を捉へて總括すること

等の事項に着眼することを修練せねばならぬ。

(三) 適當な作業をなさしめよ 兒童の地理學習の興味は、作業——地圖を描く、圖表を作製する、庶物を蒐集する、研究發表をなす——かうした方面から多大の効果を收めるものである。又地理科の作業は、兒童の一般に愛好する所であるから、描圖本位に學習させ、各種の圖表を作製させる態度を養成することが有意義である。

私は兒童のノートの如きも徒に文字・語句を並べず、地圖本位、圖表中心にしてゐる。兒童のノートは、作業帳であると考へ、圖表本位で發表することが、地理科の本質に最も適合するものと考へてゐるが、其れが兒童の本科學習態度をつくる上に大なる關係を持つてゐる。

白地圖の練習であるが、私は模型的地圖（學海指針社發行、各地方、各洲一枚三錢）を使用してゐる。白地圖にも種類がいろいろあるが、模型白地圖は其の名の示すが如く、立體的になつてゐる所に大なる特色がある。

最初關東地方の白地圖の作業をなす。それは關東地方の學習に併行して、地理科の時間中に作業をなすのである。此の種の作業に兒童の興味は格別なるものがある。各種の地圖を作製するやうに、一人に三枚宛を分つておいたのであるが、既に家庭において、自發的に作業してしまつたものもある。兒童は地理の時間が待ち遠しいといつてゐる。かうした描圖を中心とした作業によつて思はざる興味、奮發心を感じさせることが出来る。

或は地理科に關する産物の蒐集は作業において、自宅にある産物標本を學校に持參して、共同學習の材料に供したり、商店のレッテルを集めて學習を實際化し、生活化して得意になつて地理科を愛好し、學習の要領を體得するものがある。作業は兒童の地理學習を最も興味づけ、實際化するものである。

—東京女高師訓導 齋藤英夫—

地理教法の診斷

(イ)教材の配列 尋常小學校の地理書に、載せられてゐる教材を見るに、最初に日本の章を設け、次に關東地方以下九州地方までの、七地方を卷一におさめて、尋常五年用とし、尋常六年用の卷二には、北海道から朝鮮までの四地方と、我

が勢力範圍と見るべき租借地の關東州、委任統治地の南洋諸島を取扱つて後に、日本の總説を設けて、外國地理に移り、六大州に亘つて主要國の地理を一通り調べた後に、世界と日本の章を學び、最後に地球の表面なる一章を取扱ふ順序になつてゐる。高等小學校は一年では外國地理、二年では地理通論、三年では産業地理を學ぶこととなつてゐる。然し、こゝでは主として尋常科の地理について述べることにする。

右の如き教材配列は、極めて重要なものであつて、そこに深い意義のあることを考へねばならない。故に、教材を巧みに活用するには、地理教育に對する全般的方針を確立し、且つ、尋常五六年を通じて、一貫統一した指導案を作成して學習を進めることが望ましい。

(ロ)文書、體裁 地理書の卷一は十行、二十一字詰の百四十四頁から成り、別に卷頭に一頁の目録と、卷末に五頁の附録をつけ、附録には地方毎に府縣名、管轄區域、府縣廳所在地を記してある。卷二の方は文字が少し細かになつて十行、二十三字詰になつてゐる。そして百八十九頁の上に矢張り卷頭に一頁の目録、卷末に一頁の附録を加へて、我が國の行政廳名、管轄區域及び行政廳所在地を記してあるから、卷一に比しては可なり分量が増してゐる。

文章は口語文で、読んで直に意味が理解される程度のものであるから、兒童の負擔は大いに軽減され、地理書に親しみ、之を活用するのに都合がよい。そして、日本の章に出て來る文字は、國語讀本の卷八、即ち尋常四年までの間に學んだ地名と漢字を除いて、すべて振假名をつけ、この章に於て振假名をつけた文字には、他の章ではつけないこととしてゐる。そして關東地方以下の各地方は全く同様に、新出文字には振假名をつけてあるから、日本の章を終へた後は、我が郷土の屬する地方に移つても差支ないやうに文章がなつてゐることは、注意に値することである。

(ハ)挿繪 挿繪は直觀材料として、極めて重要なものであるが、地理書には産業、交通等人文方面のものが多く、山、川、湖等に關する自然方面のものもないわけではないが少い。次第に寫眞的になつて明瞭になり、畫題も長くして兒童

の學習に便にし、且つ、畫と本文との連絡、全景と内部との關係等を考慮してゐるが、なほ農産物ならば栽培、製造順序、積出、販路等につき指導せねばならない。挿畫の數は卷一は全部で九十六葉、卷二は百四十五葉あつて、地理畫の修正毎に増加するのは結構なことである。どこまでも地理教育は、直觀的に具體的に指導すべきものであるから、時には挿畫を中心として、之を観察することを出発點とし、その内容を中心問題として、學習を進めても面白いと思ふ。教師はこの挿畫はどの方向から見たものか、その主眼點はどこにあるかを研究し、且つ、地圖と對照して地理的に活かすことが出来れば、効果のあがることは疑ひないと思はれる。

(二)地圖、グラフ 地圖は日本の十一地方には、すべて地勢圖を入れ、日本の總説には日本の山系圖を入れてある。地勢は文章だけでは山、川、平野、海岸等の相互の關係が、複雑で理解に苦しむものであるから、地勢圖をつけ、且つ、垂直的の断面圖を添へたわけである。断面の高距は水平縮尺の十倍にして、觀察の便をはかつてゐる。

地勢圖以外のものでは、卷一には港の地圖が新潟、伏木、三池港の三つあるが、新潟、伏木は河港で、特別の設備を施し、三池港は潮の満干の差が大で、船の出入が不便であることを防ぐ爲に、關門式船渠を設けた特別な港で、共に人間の自然征御の一部面を示す大切なものである。工場分布圖は二つあつて東京、横濱及び附近の工場分布圖と、大阪灣沿岸の工場分布圖で、これによつて地帶的觀念を養成することが出来る。更に断面として、阿蘇山の断面圖を示してあるから、こゝで世界最大の噴火口を有し、模式的二重火山として各部の説明をすべきである。

卷二には分布圖は五つある。北海道の米、樺太のバルブ製紙工場、臺灣の製糖工場、内地の水力發電所、中歐の鐵、石炭の分布状態を示したもので、これに關係ある挿畫も載つてゐるから對照するがよい。市街圖は札幌と臺北の二つであるが、前者は都市計畫によつて出来たもの、後者は支那町と、内地人町と、混じてゐる新領土特有の形式を備へ、政治、經濟、交通の中心地となつてゐることが、市街の上にはあらはれてゐる所である。港は仁川だけで、これは三池港と

同じ性質のものである。交通圖は中歐の可航河川及び運河を示したものである。中歐が鐵、石炭の多産地であることを併せて考へて、この方面の發達してゐる所以を理解せしめねばならない。なほ、この外に日附變更線が一つあつて、合計十四圖になつてゐる。

グラフは、卷一には面積法の圓形グラフと、長方形グラフの二種あつて、我が國の面積比較と民族別割合、横濱及び神戸の各輸出入比較圖の四つは圓グラフで、各地方の重要産物十一葉は、長方形グラフになつてゐる。卷二には二十六葉あるが、面積グラフの中方形グラフは五大國の面積、人口比較の二つで、他は長方形グラフで、十七葉はすべて産物の統計に關するもの、一葉は六大洲の面積比較である。線グラフは貿易額に關するもの三つ、五大國の汽船、一人當り國富、貿易額比較の三つある。

そこで、圓グラフの使用については、全體と部分、部分と部分を比較對照せしめ、長方形グラフでは、産物の品名と地方と産額が同時に知らせると共に、矢張り全國と一地方、一地方と他地方との比較をさせて、その關係を理解させるのが特長である。線グラフはある品目について各國、各地の統計的數量を比較し得るのが長所と云ふべきであらう。

(末)取扱 最初の日本の章に於ては、主として我が國の成立、面積、國民、行政區劃を知らせて、我が國のアウトラインを與へることが主眼であるから、餘り事實を深く考究する必要はなからう。殊に地勢、氣候、産業、交通については極めて簡單にし、面積と國民について、比較的取扱ひを重くしたい。即ち、三十九萬方軒の内地は、全領土の五六・六を占め、その他は新領土で四三・四に當り、明治時代に入つて、次第に擴張された沿革を簡單に授けておくがよい。國民の總數は明治五年十月一日の第三回國勢調査の結果は、九〇三九五〇四一人であるが、總人口の七割二分を占め、國民の中樞をなすものは大和民族である。次は朝鮮人で、二割三分に當り、その他各地の支那民族、土人、北海道、樺太のアイヌ人、樺太のギリヤク人、オロチョン人等がある。それ等の諸民族は同じく帝國臣民であるから、互に協力し

て國運の發展につくすべきことを會得せしめねばならない。

關東以下の各地方は、地方單元になつてゐるけれども、我が郷土乃至は府縣を輕視せず、また廣く我が國全體との關係を見て行くべきは勿論である。そして、各地方は大體に於て區域、地勢、産業、交通、都邑の順に従つて調べることゝなつてゐるが、唯、關東地方の終りに伊豆七島小笠原諸島を、九州の終りに薩南諸島、琉球列島の項を設けてある。それは特別の區域であるから、前者は東京府、後者の薩南諸島は鹿兒島縣から切り離して、その自然人文をまとめて取扱ふのである。

そこで、區域は都邑と共に軽く取扱はれ勝ちであるが、單に地理書の通り府縣名を調べるに止まらず、地理附圖と附録を使用して府縣名並にその四周を話して、その位置を明かにし、且つ、府縣廳所在地に注意させ、この府縣は大體何國に當るかを附説したい。國名は修身にも國史、讀本にも出て來るが、それを教へるところがない。そこで地理で區域を取扱ふ場合に附録を活用することによつて、授けるのが最も適切である。

地勢以下では、自然と人文との有機的關係に留意して、具體的に指導せねばならないが、その内容、時間から見れば、交通に重點をおくべきは勿論であつて、地勢は産業、交通を理解するに必要なものに止めて差支はないし、氣候の如きも中部地方の外は産業、交通に附帯して取扱ふだけであるが、中部地方は我が國の模式的氣候で太平洋、日本海及び中央高地の三氣候帯に分れてゐるから、それについて根本的に理解させれば、他地方の氣候は、その應用として類推し判断し得るのである。

産業は全國的に重要なもの、國産品、日常生活に關係深いものに注意し、原料、製造順序、販路を明かにし、貿易に關係あるものはどの鐵道で何港に運ばれ、何國へ輸出されるかを調べさせる。又、地方的に名高い産物は、宇治茶、甲州葡萄酒の如く都邑のところで授けるのである。

—東京高師調尋 佐藤保太郎—

二 地理基礎觀念指導案

宇宙觀念指導案

地理の基礎觀念として宇宙に對する一般の知識を授けるには、もとよりむづかしい學問的な指導をなす必要はない。これは第一に天文學に對する専門的知識のない教師にとつて不可能なることであり、兒童も亦理解することが出来ない。そこで極めて概説でもよい。吾人の住む地球を包む大きな宇宙に對する極く一般な常識的理解を興へる程度に止めて差支ないものである。勿論その取扱に當つては興味的ならしめると共に、教師は出来るだけ天文學に對する理解を深めておくことが必要である。兒童に與へる知識は低いものでも、教師の理解は出来るだけ深いことを要する。

實際例

目的 地理の基礎觀念として、宇宙觀念の養成に當ることにある。

要項 (一)星の進化と宇宙創造説。(二)宇宙の形。

準備 成るべく教辨物を多く蒐集する。

資料研究

(一)星の進化と宇宙創造説 星はその大きさと光色に依り組成を異にする。白光星(青味を含む)の外、黄・赤の三種に分類したものは折衷であり、實際にその中間に屬するものは少い。青白色の星は温度が最も高い。凡て星は白色

光よりその温度の衰ふるに及んで黄色となり橙色となり赤色となり暗黒星に歸する。白色星の時代は最も長いと考へられ、凡そ百萬年乃至一億年の程度であると云はれる。

(二)宇宙の形 宇宙すはち星界の形については、昔からいろ／＼の憶説が行はれた。或は圓板説、楕圓板説、または太陽系をまはる圓筒半環説等はその例である。これらの説に對して障害を興へたものは、銀河の不規則な形狀である。ヘルシエルは、宇宙の星は不規則なる雲形に密集してゐると考へた。現在では、宇宙は一つの渦狀星雲狀の星群であり、その主體は銀河で表はされたものと考へる學者が

多い。次にこの宇宙すなはち星界のひろがり、直径約三十萬光年で、その中央部は厚さその直径の半分に相當するものだと考へられてゐる。宇宙そのものが螺旋狀の星雲であるといふ考は、プロクトルが初めて唱へたところで、彼は銀河は蛇狀の星群で、略楕圓形をなし、その兩端は多少中心に向ひたるのち轉向するものと考へられた。尙宇宙に

天體觀念指導案

天體觀念の指導に於ても、之を興味的に取扱ふことを必要とする。あまりに抽象的、學問的な取扱に流れることを慎まなければならぬ。天體としては太陽、惑星、惑星とその衛星、流星、彗星、地球などに亘るものであるが、こゝでは太陽に關しての取扱にだけ限る。尙その取扱の時機であるが、これは尋六の最後に就て地球を取扱ふ場合に附帶して取扱ふこともよいし、尋五、六の適宜の時機に於て取扱ふもよい。何れにしてもその時機に關しては一定されない。

實際例

目的 地理の基礎觀念として、宇宙觀念の養成にあたるものである。

要項 太陽について。

資料研究

(一)太陽系 太陽系は太陽と八大惑星を主とする天體系で、水・金・地球・火の諸星から成る小型の内惑星と、木・土・

關しては、もつと専門的な記述が必要であらうが、それは兒童には必要なるものであるからこゝには略する。要するに教師は、宇宙觀念を如何にして無理なく兒童に附與するか、如何に興味的ならしめるかの方法を考へる。もとより兒童の宇宙に對する限りない神秘感に即することを必要とする。

天王・海王の大型の外惑星とから成る。内外の兩惑星の間には小惑星群があり、また彗星及び流星群をも含み、その他惑星從屬の衛星を有してゐる。惑星は何れも多少楕圓形の軌道を有しており、その焦點の一つに太陽が位置を占め、これらの惑星の軌道は何れも殆んど一平面上にある。

(二)太陽の數的要項

直径 一・三八五・六〇〇軒(八六六・〇〇〇哩、三四八・

〇〇〇里)地球直径の百九倍、月と地球の距離の五倍。容積 地球容積を1として一・三一〇・〇〇〇(又は一・二五〇・〇〇〇)

地球との距離 平均一四九・四〇〇・〇〇〇軒、又は一四九・五〇〇・〇〇〇軒、月と地球との距離の四百倍。

(三)太陽と黒點と光點 太陽の表面には所々に暗黒な斑點が生ずる。多くはその赤道の附近に生じ、その大きさは一定してゐない。一九〇五年の二月に現はれたものはその直径が十八萬軒に達し、面積百三十億軒であつた。この黒點は短期間に消滅するもので、七十五日以上存するものは少い。黒點の形は大體楕圓形を示し、その中央部は暗黒で、その周圍より光圍の物質が放射狀に中心に向ひ、更に之を

地球觀念指導案

地球の學習としては、尋六の最後に提出してあるが、地球觀念はそれ以前に於て培養されてゐなければならぬ。その取扱ふ時機は、大體日本地理の學習を終つて世界地理の學習に進む頃がよいと思ふ。もとより地球に關する學習は尋六の終りに於てまとめ取扱ふものであるから、その場合には極く一般的な地球に對する常識を與ふる程度に止めてよい。

實際例

目的 地球觀念の養成にあたるものである。

要項

(一)地球の形狀及び大きさ。(二)地球の運動と晝夜、四季の生ずる理由。(三)時差並に日附變更線。(四)

赤道の南北による季節の相違。(五)氣候帯と氣候。
資料研究

(一)地球の形状や大きさに就いては古來から幾多の學說がある。地球の球形なることを初めて唱道したのは西紀前四百年頃で、ギリシヤの碩學ピタゴラス、アルキメデス、アリストテレス等であつた。それが實證せられたのはコロンブスの世界一週であり、之が學理的に證明せられたのはニュートンの重力説發見に由來してゐる。地球の形状に關しては、四面體説、三軸橢圓體説、ゲオリド説等もある。しかし地球が球形であるといふことは、船舶の隱見、地平線の觀測、月蝕の圓影、世界の周航、重力の働き等種々の事實によつて確實である。次にその大きさは、一般の定説に就けば赤道の半徑は約一千六百二十三里半、兩極の半徑は凡そ一千六百十七里とせられ、従つてその直徑の差は約十三里と算定されてゐる。而してその周圍は直徑に圓周率を乗じて得たる數に近く、凡そ一萬二百里、表面積は直徑の自乘に圓周率を掛けて得たる數に近似し約三千三百萬方里、我國總面積の四萬三千方里に比すると凡そ七百七十倍に相當する。

(二)地球は軌道面に對して六十六度半の傾を持つ地軸を中心として、西から東への同一方向に廻轉し乍ら、略橢圓

形をなす軌道を通つて太陽の周圍をまはつてゐる。地球の自轉といふことは、地球が地軸を中心として西から東へ廻轉することを云ひ、自轉し乍ら太陽の周圍を廻轉することを公轉といふ。而して自轉には約二十四時間を要し之を一日と稱し、一公轉には凡そ三百六十五日五時四十八分四十六秒を要し、之を一年といふのである。晝夜の別は、地球が自轉することによつて太陽に面する處と然らざる處の生ずる故に起るのである。それから晝夜の長短と四季の別は、地軸が軌道面に對して六十六度半の傾を持つて開轉することと起り、所謂閏年は一ケ年三百六十五日の剩餘五時四十八分四十六秒が積つて四年度に約一日となるので、之を二月に加へて二十九日となすがためである。

(三)地球はその一回の自轉に約二十四時間を要するから、地表の地點はこの二十四時間に三百六十度を廻ることとなり、一時間に十五度、四分間に一度を廻轉する割合となる。故に經度十五度をへだてたる甲地點と乙地點との間には一時間の差を生ずることとなり、また地球は西から東へ向つて廻轉しつゝあるために東にある地點は西の地點よりも時間が早いわけとなる。例へば東京は東經百三十九度餘の地點にあるからグリニチに比較すると九時間早い。東京の午前九時はグリニチの午後零時頃に相當してゐる。故

に經度の差によつては時間の上に滿一日の差を生ずるものであるから、そこに日附の變更が必要となつてくる。そこで列國協定により、大體百八十度の經線を境となし、西から東に之を超えたるものは前日と同じ日附とし、東から西に超えたるものは翌日と同じ日附としてゐる。従つてこの境となる線を日附變更線と呼んでゐる。

(四)地球の地軸はその軌道面に對して六十六度半の傾を持つから、その軌道上の位置によりて晝夜の長短、季節の相違が生ずるのである。例へば地球が軌道上を進み三月二十一日頃となれば太陽及び地球の中心を連ねたる線に對して地軸は直角となり、太陽は赤道を直射するために晝夜が半分され、是より太陽は次第に赤道以北の地を直射して北半球に於ける晝は長く、遂に六月下旬になると太陽が北回歸線上を直射するからその極に達する。この時北半球では晝が長く夏となり、南半球では夜が最も長くして冬となる。

(五)尙地球の表面に於ては太陽熱を受くる差が、その面の廣狹と傾斜の方向、緯度の高低によつて大きな差がある。赤道附近は太陽熱をうくる面が廣く、太陽はこゝを直射するので氣温が高く暑熱が甚だしい。故に赤道を中心として北緯二十三度半と南緯二十三度半との間を熱帯と稱する。

熱帯に反して南北兩極端は、太陽熱をうくる面が狭く、且つ太陽はこゝを斜に照すので寒氣が烈しい。故に南北兩極端と南北緯六十六度半との間を寒帯と稱する。而して寒帯と熱帯との中間に位するところを溫帯と稱する。一體に熱帯は氣温高く雨量多きため植物の生育に適し、衣食の料が豊富であるから、住民は怠惰に流れて文明の花が咲かない。次に寒帯地方は氣温低く、住民は寒氣と飢とに追はれて知的生活を營むの餘裕がなく、ために文明の國はない。しかし溫帯地方は寒暑とも中庸を得、且つ住民が多いため生存競争が激甚で、ために殖産興業早くより起り、世界の文明國は何れもこの溫帯地方にある。

準備 地球儀・三球儀・メルカトル式地圖・各種圖式地圖・日附變更線附近地圖・海流圖など。

指導要點

(一)地球が球形をなすことの例證としては、なるべく兒童の直觀せるものを採用するやうにしたがよい。その上に教師の適當なる敷衍をなす。尙直徑・周圍・表面積等は、之を算術と聯關して取扱ふやうにする。

(二)地球の運動によつて生ずる四季・晝夜の別の學習には、三球儀を使用せしめ、地軸の傾斜、太陽直射面の位置及び廣狹等に注意させ、且つ地球の運行に伴つて生ずる春

分・秋分・夏至・冬至と相俟つて具體的に學習せしめることが大切である。

(三) 経度によりて時差の起る理由及び日附變更線等は、地球の自轉と之に要する時間との關係より推究推察させるのである。その線を大體百八十度の經線と定めた所以及び

その線の實際的價値を十分に知らしめる。

(四) 氣候の人生に及ぼすところの影響は、これを例證的に學習させる。我國の發展にも此溫帶中に位してゐるといふ自然的恩恵が與つて大なる力あることを理解させる。

水陸觀念指導案

水陸觀念の養成に際しては、海岸・港・海・島・半島・岬・地峽・海峡等に對して理解を與へなければならぬ。これらは成るべくならば實地に就いて直觀させねば、眞の水陸觀念を養成することゝはならない。しかし海に遠い地方にあつては仕方ない。かゝる地方に於ては、附近の溜池を利用するもよい。或は運動場に池を掘り、以上の要素を具備した模式的の地理模型を造つて、常に觀察の出来るやうに準備しなければならぬ。尙旅行、遠足の機會を利用することも忘れてはならぬ。

實際例

目的 水陸觀念を養成するにある。

準備 水半球陸半球圖。

資料研究

(一) 地球は地熱放散の結果冷却凝縮して出來たものであるから、その表面には極めて複雑なる高低があり、高い處は陸地となり、低いところは海となつてゐる。

(二) 故にその水陸の分布も頗る不規則で、水陸の比は二、五四に對する一となり、海洋は地球の總面積の凡そ七割(二千三百四十萬方里)陸地は約三割(九百六十萬方里)となつてゐる。而して陸地は北半球に多く、海洋は南半球に多

す。

(三) その割合を示してみる。

北半球	海	六、〇〇	西半球	海	七、〇〇
	陸	四、〇〇		陸	三、〇〇
南半球	海	八、一〇	東半球	海	六、五〇
	陸	一、九〇		陸	三、五〇

(四) もとより以上の事項は、大體尋六の最終に於て取扱ふものであるから、こゝではその全部を記憶せしめる必要はない。

指導方針

(一) 庭園に半永久的の模型を作りたい。すなはち海岸、港灣、島、半島、岬、地峽、海峡等を示すものを作る。この模型は、成るべく郷土(廣い意味の)のそれに即する。

(二) 教師の輔導に依り全兒童に作業せしむ。

(三) 尙遠足の機會を利用して、河口、海峡、岬を直觀させる。

方位觀念指導案

方位に對する觀念は、地理學習上に於て極めて肝要なる事項である。この方位觀念が確立されてゐないと、地理學習は徹底しない。すなはち方位に對する觀念は、地理學習の基底であると云はねばならぬ。この點に關してはマッアットは「この觀念なきものに地理を授くるは、空中に樓閣を築くが如し。」といつてゐる。洵にもつとも名言である。

實際例

目的 方位に對する觀念を養成せんとするものである。

指導方針

(一) この方位觀念の指導は、單なる一時的のものではないと考へる。常に反覆して、その觀念の正當なる發達をはかる。

(二) 教室内に磁石を數個備へつけて、常に機會ある毎に

測らせたい。

(三) 東西南北及び東北、東西、西南、西北を示すところの方位圖を掲示しておく。

(四) 地圖を讀ませるに際しては、先づ東西南北及び位置の觀念を明瞭に與へることに努めなければならぬと思ふ。

(五) 更に各兒童に交替制によつて磁石を與へ、自分の家が部落や市や町や村の何れにあるかをはからせたい。勿論

學校の位置をもちからせるのである。

(六)遠足や旅行の場合は、尙更この磁石によつて方角や

經度緯度指導案

位置の觀念を明瞭に了得させることに努めるのである。

經度、緯度に関する理解は兒童には最も困難なるものであるから、その取扱を一層具體化する必要があらうと思ふ。地球儀を利用してその理解を直觀的ならしめることは言ふまでもないところである。

實際例

目的 經度、緯度に関する理解を與ふにある。

準備 地球儀。

學年 尋常第六學年。

資料研究

(一)地球の南北の直徑を地軸といひ、その南端を南極、北端を北極と稱する。この南北の兩極を結合する半圓周を假想して之を經線或は子午線といひ、極の兩端から等距離の地點を連結せる圓周を假想して之を緯線といひ、緯線の中で南北兩極から等距離のところにあるものを赤道と呼ぶのである。

(二)經線は英國のグリニチ天文臺を通過するものを假想して之を東部子午線といひ、この東部子午線を零度とし、これを基本に東西各百八十度に分ち、東の方へは東經何度、

西の方へは西經何度と數へるのであるが、この百八十度の經線は東經も西經も全く同一線である。又經線は赤道を基線として之を零度とし南北を各九十度に分ち赤道以南は南緯何度、以北は北緯何度と數へる。而してこの南北兩極の九十度は何れも點である。

(三)經線、緯線共に一度は六十分、一分は六十秒に分ち、地表上のあらゆる地點はこの兩線によつて明かに定めることが出来る。例へば東京天文臺は、東經百三十九度四十四分四十一秒の線と北緯三十五度三十九分十六秒の線とが交叉したところにあるといへば、その地點が明瞭に知られるものである。

指導方針

(一)あまり理解を急がぬやうに注意する。

(二)抽象的な取扱をつゝしむ。

(三)經度、緯度に對して一通り理解がつけば、之を具體

的に或地點に就いて例示させる。

縮尺觀念指導案

縮尺は地球表面上の諸線長或は距離を一定の比によつて縮寫したものであり、圖上に現はした比すなはち割合を縮尺或は比例尺と稱するのである。何れにしても縮尺に對する觀念は、地圖の生命ともいふべき最も重要なものである。縮尺の觀念が不明瞭であれば、地圖を完全に讀むことは不可能である。洵に地圖を生かすものはこの縮尺である。しかし從來の地理指導に於ては、この重要な縮尺觀念の指導といふ點が甚だしく看過されて、直ちに地理書の説明に入つたやうに思はれる。従つて兒童は折角地圖を活用することを知らず、その方法を知らず、地圖に對して何等の理解も持たないで終つたやうに考へる。これは甚だ遺憾な點である。兒童に讀圖力の缺乏することを責める前に、先づ教師自身反省しなければならぬ。而して先づ縮尺觀念の確立をはかり、明確に地圖を讀む力を兒童に附與することに努めねばならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年

目的 縮尺觀念を確立せしめるにある。

指導方針

(一)縮尺は距離及び長さに對する比を表はしたものであり、面積の比でないことを最初に注意しておく。

(二)縮尺は通例分數を以て表示し、何分の一の縮尺或は單に何分の一で表はすことを注意する。従つて何分の一に

て表はされたるもの、數だけ倍すればその實長を知ることが出来る、又その一邊を自乗するとその面積が求められるのである。これは地圖に就いて實習させる。

(三)地圖をみる場合には、必ず縮尺何程かに注意しなければならぬ。大小精疎ある地圖をみて、それを同一縮尺に依るものとの誤謬をいだかぬやう注意することが肝要である。

(四)百分の一、次には千分の一の縮尺によつて教室の略

圖を描かす。

(五)次には學校の庭園に引率して、稍々複雑な略圖を描かしめる。この場合の距離は、なるべく兒童の縮尺に都合のよきやうに一定するがよい。池や角度の正しい花壇等を略圖の中に挿入させることは面白い。

(五)圖上距離を測定する練習。附圖第一圖右端の十五分の一の直線道路を測らせる。次の式が立つ。

$$1\text{杆} + 150000 = 6.666\text{杆} \text{ (圖上にあらはれた1杆の長さ)}$$

測して道路の長さ(圖上)16杆であるから

$$16 + 6.666 = 24 \text{ (杆)}$$

すなはち實際の道路の長さは二四〇〇米となる。尙屈曲道路線の測り方は、この場合少々兒童には無理と思はれるか

距離觀念指導案

距離觀念の確立は、地理學習上重要な事項である。讀圖力の擴充をはかるには、先づ正確なる距離觀念の確立に努めることが必要である。この距離に對する觀念を確立せしむるには、その標準となる距離を知らせ、また學校を中心として兒童の直觀し得る通學距離又は附近の名所古跡までの距離を知らせて、實地踏査をなさせるがよい。

實際例

目的 距離觀念の確立をはかるにある。

指導方針

(一)先づ距離の意義を知らしめる。距離とは、二點間の

空間を連ぬる一線にして、直線距離と曲線距離の二種のあること。すなはち前者はA地を中心としてB地に至る直徑であり、最短距離であること。後者はA地より道路又は鐵道などの屈曲線に沿ふてB地までの道程を測るもので、従つて多くの場合その距離は前者よりも長くなること。

(二)距離を表示するには、里町間尺、米杆、哩湮などの單位を使用すること。

(三)距離觀念を養成するには、算術の實驗實測と聯絡を採ることが大切である。メートルは教室や廊下で測ることも出来るが、更に校舎、運動場などの設備を利用する。一メートル二メートルと目撃し得るやうにし、特に百メートルの直線距離を明瞭にし、實測・歩測・目測などによつて自覺させる。

(四)ランニング用の百メートル直線コースを利用することも價値が多い。

ら、圖上に於ける概算に止めてよと思ふ。

(六)圖上面積を測定する練習。附圖第一圖の右端十五萬分の一によるのが便利である。この圖は縦が二十二耗、横が二十八耗である。故にその算式は次の様になる。

$$1\text{耗} \times 150000 = 150\text{米}$$

$$12 \times 28 = 616 \text{ (平方耗)} \quad \text{圖上の面積}$$

$$15 \times 15 = 2250 \text{ (平方米)} \quad \text{圖上の一耗平方を實際の數に}$$

て換はす。

$$2250 \times 616 = 13560000 \text{ (平方米)} \quad \text{實際の面積}$$

(七)縮尺は普通我國では方里及びメートルを用ひてゐるのであるが、外國では多く哩又はキロメートルを採つてゐる。

(五)學校内だけの實測でなく、更に學校を中心として半徑百米、三百米、五百米、一杆などの同心圓の地圖を作製して兒童に與へ、徒歩によつて距離の概念を得させる。

(六)一キロメートルの直線距離を學校附近の適當なところで知らせておく。教師は一キロメートルの直線道路を測定しておく。

(七)また兒童の通學區及び主なる官衙建物と學校との距離を弄はした、所謂學校元標を設けて、兒童が學校の往復の場合やその他の機會に實測・目測・歩測の便に供する。

(八)尙距離に關して時間の問題も併せて取扱ふ。例へば一秒間に於ける男の徒歩一・一米、燕の四十七米、飛行機が四十米、鯨の十一米、汽船の十米半、汽車の十四米、軍艦の十五米半、六吋砲彈の七百五十米、音波の三百三十米、光線、電光の三億米などを擧げると面白いと思ふ。尙旅行案内によつて、この距離と時間とを併せて取扱ひたい。

面積觀念指導案

面積觀念も亦算術學習と相俟つて養成すべきものである。またその指導は一時的のものでなく、常にその觀念の生長をはからねばならぬ。教師は機會ある毎に、實地に就きて面積觀念の養成に努むべきである。

實際例

目的 地理の基礎概念としての面積概念の養成に努めるに
ある。

指導方針

(一)面積の表はし方を授ける。すなはち面積を表はすに
は平方里、平方哩、平方米、平方杆などの単位を使用する
ことを授ける。

高低概念指導案

高低概念の指導も一時的なものであつてはならない。先づ附圖によつて高低概念を正確に把握せしめることが必要であ
る。

實際例

目的 高低概念の養成に當る。

學年 尋常第五學年

指導方針 最初に高度に就いて理解させ、次に深に就いて
授ける。

高度に就いて。

(一)高度の意義を授け、附圖第一圖を利用して高度の表
はし方にいろいろの様式のあることを知らしめる。

(イ)等高線式 附圖第一圖の「眞横からみた山」斜上か

(二)教室、運動場、學校園、校地などの實測・目測をさせ
る。

(三)一方里の觀念に就いては、附近の山に上つて直觀に
よつて、四キロメートル四方、又は一里四方は大概これだ
けといふ區別を示し、その廣さの觀念を與へるのである。

(四)尙郷土に直觀によつて廣さを大概知らせ得る面積が
あれば、知らせておく。

ら見た山「眞上から見た山」の三圖によつて、高度を表は
すに線を使用する方式のあることを知らせる。

(ロ)量演式 附圖第一圖上部右端のボカシ圖によつて、
高低を表はすに色の濃淡を以て描きわけける方式なることを
知らせる。

(ハ)量湯式 附圖第一圖上部のケバ圖により、高低を表
はすにケバを以てし、急傾斜にはケバの太さと數とを大に
し、緩傾斜には是に反すること、ケバは等高線に直角に描
くものなることを等知らせる。

(ニ)曲線式 これは設色比較曲線圖ともいつてゐる。こ
れは高低の圖示が最も明瞭である。これに對する注意は、
色分けした兩者の高度は階段式に急に高度を増すものでな
くて、除々に増大することである。

(ホ)量湯曲線式 ケバと曲線の併用圖である。附圖の表
圖はこの式を採り、裏圖にはケバ式を採つてゐる。この式
は曲線圖の缺點を補ひ、高低や山脈の走向を知るに便であ
る。

(二)高低を表示するに以上の五つの方式があるが、その
根柢をなすものは何れも等高線(曲線)なることを了得さ
せる。

(三)附圖においては陸上の高度を表はすに米を用ひ、之
を百米、三百米、千米、二千米、三千米、三千米以上の六
段に分けてあることを説明しておく必要がある。

深度に就いて。

(一)深度の意義を授ける。

(イ)水底の深度は等深線を以て表示すること、等深線は
陸上の等高線と同一性質なること。

(ロ)海底の勾配は概して緩やかで、陸上の様に斷崖絶壁
をなしてゐるところは殆んどない。傾斜も三十度前後で、
四十五度を越すところはない。而して深いところほど緩か

な傾斜をなしてゐる。従つてこの點を明かにしておく必要
がある。若しこの注意を忘れると、兒童は陸上の等高線と
同じ様に海の深さは一段づゝ階段を作つて急傾斜してゐる
如く思ふものである。

(ハ)水の深さを測る方法。浅い海の場合は、鋼線の先に
鉛錘をつけて下し、手應へによつて海底についたことを知
り、その鋼線の水につかつた長さを測るのである。稍深い
海の場合は、鋼線の針金の先端に着けた重い錘が海底に達
すると同時に、その針金から分離する装置にする。深海を
測るにはトムソン式といふ測深器を使用する。これは水底
の壓力を利用してその深さを知る方法である。これは管状
をなした錘の内部に下端の開口せるガラス管を入れる。そ
のガラス管の内面には赤色クローム銀が塗つてあるから、
ガラス管が海中へ沈むにつれて水壓の増大によつて管内に
入る海水の分量を増加し、内面に塗つてあるクローム銀は
海水の鹽分と化合して白色に變するのである。それを引揚
げて水の浸入せる分量をしらべ、空氣の壓力と水壓との關
係よりその海の深度を算出するものである。

(二)陸上の高度を測る標準の水面は、日本に於ては東京
灣の中水を用ふることを知らせる。中水とは海面の平均水
平である。すなはち海面の高さは絶えず變化してゐるもの

であるから、驗潮計を用ひて精密に水面の變化を實測し、その平均數を算定するのである。

(三)附圖に示されたる水深は、百米及び千米以上六千米

までを毎千米に分ち色の濃淡を以て表はし、六千米以上は同一の濃青色を以て描かれてゐることを説明しておく。

地圖附號教授案

地圖の附號は、もとより形式的な約束にすぎないものであり、この附號を記憶することが直ちに圖を讀むことゝは思惟されない。しかしこの附號を無視しては、地圖を讀むことは不可能である。故に地圖の附號は、讀圖力の根柢をなすものであると云つてよい。教師は地理學習の當初より、この附號に對する指導を十分徹底せしめなければならぬ。

實際例

目的 地圖に於ける各種の附號を理解記憶させるにある。

指導方針

(一)先づ尋五地理書の第一圖にある圖例と諸記號を十分に理解させる。これを出發點として第二圖以下を對照的に指導して行く。

(二)之は一度や二度の一時の指導では駄目である。従つて教師は、機會ある毎にこの記號の讀解を課して行く。時

には發問し、或は郷土地圖にそれらの記號を書きこましめたりすることが大切である。

(三)地理書附圖には表圖と裏圖との二者があつて、表圖の方は割合に見易く、記號も普通のものゝ大差はない。しかし裏圖の方は見にくい。而して附號もいろ／＼ちがつたものがある。故にこの裏圖の附號については、一層注意して指導しなければならぬ。

地球儀指導案

地球儀はその使用の範圍なり、指示の時期なりが地圖に比較すると極く限定的である。またその實際教授の度數も僅少

である。しかし地球儀の使用は、地理學習上決して輕視さるべきものではない。すなはち兒童の頭に、地球の形體、地球全體の知識を附與するには、是非地球儀の必要を感じるものである。教師はよろしく地理學習に地球儀を生かす方法を採るべきである。

實際例

目的 地球儀使用に關する方案を考究する。

指導方針

(一)地球儀を平面地圖と比較對照して、兒童の理解を正當ならしめる。

(二)地球儀を初めて示す場合は、先づその經緯線に就いて誤解を招かないやうに注意する。

(三)兒童の中には、地球儀の上に描かれた經緯線が實際にあるものゝ如く思惟し、甚だしいのになると、地球儀を支へる半圓形の金屬をそのまゝ實際の地球を想像する。大人の考へからみれば馬鹿らしいことであるが、兒童の頭で

は決してさうでない。この點誤謬に陥らないやうに注意する。

(四)地球儀を無闇にぐる／＼まはして、兒童の注意を散漫ならしめざること。

(五)地球儀に對する正式の教授をなすの時期は、大體日本地理の學習を終へて外國地理に入る場合がよい。

(六)或は學習以外の特異例、例へばツエツペリン飛行船の世界一週航路なども、地球儀によつて示してやると面白い。かくの如き地球儀を利用する場合は決して少くないと考へる。

三 地理各教材指導實際案

位置教材指導案

徳川時代に於て唯一の貿易港であつた長崎が、船舶の出入貿易額に於て門司に凌駕され、下田や浦賀がその後發達しないので何故に横濱が本邦唯一の貿易港たる地位を占めるに至つたか。また之を國家にみても、羅馬の文化が中歐に榮え、波

薩が嘗つて分割の憂目にあひ、瑞西、ルクセンブルク等が永世局外中立國として列強國の間に介在せねばならぬ運命は主として何に據つて來るものであらうか。之は申すまでもなく位置的關係のもたらした結果に外ならぬ。かくの如くその國家なり、地方なり、一都邑の位置は、それ自身の發達盛衰に相關的の關係を有してゐる。洵に位置はその國家・地方・都邑などの發達を決定するものと云はねばならない。故に位置教材の取扱に當つても、この文化的關係に着眼するところあらねばならない。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第一 日本 我國の領土 四

周

要旨 大まかな日本研究である。建築で云へば所謂基礎工事である。従つて日本の位置とその文化的關係を兒童に察させることは少々無理である。故にこゝでは大體の位置觀念を確立させるだけで満足する。

準備 メルカトル圖式世界地圖、行政區劃圖。

指導要項 我が國はアジア洲の東部に位する一連の島嶼であつて、日本列島、小笠原諸島、朝鮮半島とから成立してゐる。以上の外に支那から關東州を租借し、又南洋には舊獨逸領のマーシャル、カロリン、マリヤナ諸島の委任統治地がある。この二者は純粹の領土ではないが、又共に我國の勢力範圍に屬するものである。日本列島は東北より西南

へ約一千二百里に亘り、大太平洋中に連なつてゐる大小五百餘の島々であつて、南米の智利へ長さ一千百里とともに世界で最も細長い國といはれる。

その中本州、北海道本島、樺太(南半)、四國、九州、臺灣を殊に大なるものとし、九州と臺灣との中間にある琉球島(五十五島)と、北海道本島の東北に散列する千島列島(三十一島)とを其の小なるものとする。小笠原諸島は日本列島の東南海中にあつて、また二十二の小島から成立してゐる。

朝鮮半島はアジア大陸の東部に突出せる一大半島で、南北の延長約二百餘里に及び、大小四十八の屬島(一方里以上のもの)をもち、北は支那の滿洲、ロシア領のシベリヤに接してゐる。日本列島の東北から西南にかけてはオホツク海、日本海、黄海、東支那海があり、是等の海をへだててアジア大陸のシベリヤ、支那、邦領朝鮮に相對してゐる。

注意させる。

(五)本課は必ずしも教師の獨演の型をとらねばならぬといふ理由はない。大いに兒童の既有知識を活躍さすべきは申すまでもなく、他教科との聯絡を考へてその圍内へ入つても差支ない。すなはち次の如き點には、必ず觸るべき必要がある。

(イ)我國がアジア洲の東部に偏在してゐることは、歴史的に外強の侵害を自然的に防禦するに極めて都合のよい位置であつたこと。(蒙古の來襲、日清、日露兩役についての實例)

(ロ)しかしこの自然的位置は、國民に太平の夢を食らしめ、一種の島國根性を抱かしめ、博愛又は人類協調の精神を稀薄ならしめ、延いては世界文明の進歩に遅れ勝ちならしめたこと。(徳川家光の鎖國主義、幕末の尊王攘夷論)

日本列島の西南から東にかけてはひろくとした太平洋に臨み、中にフィリピン群島、ミクロネシア、ハワイ諸島、その他太平洋の島々が介在しており、また太平洋をへだてて速く東に北アメリカ洲がある。

指導要點

(一)本課は「日本」の地理としての概説ではあるが、地理學習に入る大切な關門であり、又その以後の各地方地理研究の階梯となるものであるから、相當十分な時間を配當して取扱ふやうにしたい。單に國語の教授と同一のものとならざるやう注意する。

(二)そのためには、地圖との對照を怠らしめず、時機をみて絶えず略圖、描寫上實測などをなさしめたいと思ふ。

(三)租借地、委任統治等のことについても適宜の機會をみはからつて簡単に説明しておく方がよろしいと考へる。

(四)群島、列島、諸島の別、所謂地理上の用語について

面積教材指導案

面積は、之を單なる數量として抽象的に取扱ふことを排しなければならぬ。兒童に只數量を記憶させるに止めてはならない。實際にその面積を觀察させることが何より大切である。そのためには、面積を比較的取扱ふ必要がある。學校附近に於て實際に面積を直觀せしむるに都合よい場所があれば、そこに於て大體の面積を直觀させ、その直觀を基礎とし

て想像類推させて行くのである。

實際例

學年 尋常第五學年
 教材 尋常小學地理書卷一 第一 日本面積
 要旨 日本の面積を授ける。
 準備 メルカトル圖式世界地圖、行政區劃圖、面積比較圖。
 資料研究

(一)日本の總面積は四萬三千五百餘方里で、全世界陸地總面積の約二百分の一(陸地總面積八百九十五萬方里)にあたる。之を各地方別にすれば左表の如くなる。因に本州、朝鮮は各々總面積の三分の一、北海道・九州・臺灣・樺太・四國は併せて約三分の一に當る。

地名	面積	千分比
本州	一四、五七一、一二	
四國	一、一八〇、六七	
九州	二、六一七、五四	
北海道本島	五、〇八三、八七	
千島	一、〇一一、四九	
佐渡	五六、三三	二五、一五四、〇四
隱岐	二一、八九	五六九、九
淡路	三六、六九	

豐岐	八、六三
對馬	四四、七二
琉球列島	一五六、九一
小笠原列島	四、五〇
朝鮮	一四、一五四、〇四……………三三四、三
臺灣	二、三三二、〇〇……………五二、八
樺太	二、三三九、九三……………五三、〇

(二)右の外、關東州租借地二一八、七五七方里、舊獨逸領南洋諸島一六三、〇方里もわが國の統治權内にある。我國は日清戦争以來その領土を漸次に増して今日に至つたが、之を世界列強に比すれば、まだその大を誇ることは出来ない。すなはち参考までに列強本國の面積とその屬地の面積とを示しておく。

英吉利(本國)	二二一、六三三方里
屬地	一一、六一一、四六三 (本國の九十五倍)
佛蘭西(本國)	二二二、六五九
屬地	三、五六七、七五〇 (本國の十八倍)
北米合衆國	三、〇二六、七八九
屬地	一一四、七〇二
伊太利	一一〇、〇〇〇

人口教材指導案

獨逸	一八三、三八一
白耳義	一一、三七三
屬地	九〇九、六五四 (本國の八十二倍)
露西亞	八、四三〇、〇〇〇
支那	四、三〇〇、〇〇〇
日本	一四八、七五六
屬地	一一一、九八二 (本國の七割五分)

すなはち本國は英伊白等の上にあるが、我が植民地は極めて僅少であり、僅かに獨逸、伊太利を凌駕するに止まつてゐる。

指導要點
 (一)總面積四萬三千五百餘方里の概數を、地理書三頁の「面積比較圖」と相對照して、本州、朝鮮以下各島大小の割

人口は之を面積と關係づけて取扱ふべきことは申すまでもない。すなはち面積によつてその人口の密度を調べさせ、之を郷土のそれと比較させなければならぬ。また人口の密度は、その地方の地勢・氣候・産業などによつて異なるものであるから、人口密度によつて大體その地方の開化の状態を察知させることが出来る。しかし人類開拓の手が未だ十分に届いてゐない地もある。例へば北米や南米の諸國の如きは人口の密度は疎であるが、將來の發展が豫想される。従つてかくの如

き地方を取扱ふ場合には、人口密度の點より海外移住發展といふ事項にまでふれねばならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方

要旨 奥羽地方の人口に就いて授ける。

資料研究

(一)奥羽地方縣別面積及人口(昭和四年度調査)

縣名	面積	人口	人口密度
福島	八九〇	一、四三七、五九六	六一六
宮城	四七二	一、〇四四、〇三六	二二〇
岩手	九八七	九〇〇、九八四	九一二
青森	六二四	八一二、九七七	三〇二
秋田	七五四	九三六、四〇八	一二三
山形	六〇五	一、〇二七、二九七	七〇三

(二)面積は六萬六千方料で、關東地方の二倍以上であり、人口總數は六一五萬九千二百九十九人で關東地方の半數以下である。これから人口密度を算出すると、一方料九十四人弱となる。關東地方は三百八十人だから四分の一にも足りない。全國の人口密度は一方料百二十四人、内地のみで

は約百五十七人であるから、奥羽地方は平均よりも下位にあると判定される。

(三)しかし漸次に發達に向ひつゝある。次には郡山市の明治六年以後の發達狀況を略記してみよう。

年次	時期	戸數	人口
明治六年	安積原野開墾疏水工事前	九〇	四七二
明治十九年	舊日本鐵道開通前	一五九	六六八
明治廿五年	舊日本鐵道開通後	一五六	八八三
明治卅年	舊岩越鐵道開通前	一九二	一〇四〇
明治卅六年	同中山宿迄開通當時	二二七	一七〇九
明治卅九年	同喜多方迄開通當時	二七〇	一六二四
大正元年	水道敷設給水開始當時	三三四	二〇八五
大正四年	磐越東西線工事進行中	三六九	二九〇二
大正七年	同全線開通後	四八五	三〇三八
大正十三年		七〇三	三二七九
昭和四年		八〇一	三三〇〇

指導要點 (一)奥羽地方の人口密度の稀薄なる點に關しては、これを次の諸點より考察させる。

(イ)位置が北に偏してゐること。

(ロ)文明の普及が他の地方に比して遅れたること。

(ハ)氣候が住民に適せざること。

(ニ)大平野の少いこと。

行政教材指導案

申すまでもなく國家の行政上の區分は、時勢の推移と共に常に改變せられる性質のものであるから、指導者はその推移に對して常に注意を怠つてはならない。地圖の如きも必ず新しい變改に即するものを採らねばならぬ。又變改の後を知らしむるために、之を舊地圖と併用するとその理解が比較的になつて明かとなるものである。尙世界地理の學習に際してはアジア洲に日本・支那・シヤム位の獨立國しかないの對して、ヨーロッパ洲に獨立國の多い理由を比較對照して考察させねばならない。而して我が日本帝國がアジアの代表國として、將た世界の強國として大なる責任あることを自覺させ發奮させるべきである。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第一 日本 行政區劃 地方

區劃

要旨 我國の行政區劃に就いて授ける。

準備 世界全圖 日本全圖 日本行政區分地圖。

資料研究

(一)北海道廳 北海道廳といふ語は二様に用ひられる。

行政區劃としては何々縣といふと同じ意味で北海道廳と呼び、また官廳の名として北海道廳とも云ふのである。この點をよく兒童に了得させる。

(二)租借地 租借地とは他國の領地を期限を定めて借りうけ、自由に管理統治する地のことである。もとより他國の主權を侵害はしないが、租借期間中は全く自國の領土として取扱ふのである。關東州は明治三十一年にロシアが清國から租借したもので、期間は二十五年間(大正十二年ま

で)であつたが、明治三十一年にポーツマスの條約でその租借權を日本に譲り受けたのである。大正四年五月に期間を九十九年に延長の條約を結んだ(所謂二十一ヶ條の内の一)。即ちその租借期限は昭和七十二年末となつたわけである。(南滿鐵道は昭和七十七年まで、安奉鐵道は昭和八十二年まで)

(三)委任統治地 南洋諸島はもと獨逸の領地であつたが世界大戰の結果國際聯盟の所有するところとなり、その統治を日本に委任されたのである。故に普通委任統治地といひ、日本を委任國と稱するのである。國際聯盟とは、國際協力・社會正義・平和維持・安全保障を目的とする國際團體で、目下加盟國は總數五十六ヶ國である。但しロシアと米國だけは未加盟である。

(四)委任統治地の施政に三方式がある。

A式 施政上委任國の助長及び援助をうくべきもの。

B式 委任國に於てその地域の施政の責に任すべきもの。

C式 委任國領土の構成部分としてその國法の下に施政を行ふもの。

而して南洋諸島はこのC式である。我國の自由に政治を行ふことが出来るものであるが、只土人の福利を増進する

ことの責任が負はされてゐ、また毎年その統治の模様を聯盟本部に報告すべき義務がある。

(五)十一地方 本卷には關東地方以下九州地方までの七地方を述べてあるが、卷二には更に北海道地方から朝鮮地方までの四地方と關東州とが述べてあるから合計十二地方になるわけである。關東州は領土外だから十一地方としたのかも知れぬ。しかし關東州を述べて南洋諸島を述べないのはどうしたものか。

指導要點

(一)地理書附圖第四圖「本那行政及地方區分」と對照して了得させる。最初からこれを一々記憶させようとすることは無理である。

(二)關東州の租借地 南洋諸島の委任統治地の意義と現狀を興味的に具體的に話してやる。記憶を強いる必要はない。

(三)更に第四圖の「本邦地方區分圖」を模寫せしめ、地方別に採色させる實習を課し、日本の全形、各地方の位置を印象せしめる。

區域教材指導案

區域の取扱に於ては、先づ地圖によりてその關係的位置を明瞭にしなければならぬ。而して位置を表はすには、關係的位置と數理的位置の二方法がある。勿論最初は關係的位置に限り、漸次に數理的位置の取方に熟練せしめて行くべきである。次に區域の取扱に當つては、面積を算出する計算法を授くる。この場合も正確な計算はなし得ないものであるから、比例尺を用ひて概算させるに止めてもよい。尙行政上の區分を明かにすることが最も大切な點である。行政上の區分が多く山河の形勢によつて自然的區分を基礎とせることを明かにしてやらねばならぬ。また行政區分地圖を描かしめ、その境域を明瞭に印象づけさせる。この場合は併せて府縣廳所在地を記入せしめるがよい。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方 區域

要旨 中部地方の區域を學習せしめる。

準備 大日本全國圖、中部地方地圖、中部地方行政區分地圖。資料研究 中部地方は大體自然的地勢に即して、太平洋に面してゐる靜岡、愛知、の二縣、日本海に面してゐる新潟、富山、石川、福井の四縣及び中部山地に位する山梨、長野、岐阜の三縣に分れてゐる。この九縣中面積の最も廣いのは長野縣で、全國府縣中の第三位にあり、之に次ぐものは新潟縣でまたその四位を占め、岐阜縣にして尙且つ第六位に

位してゐる。最も小さい福井縣は第三十一位にある。

學習要項

(一)中部地方は本州島の略中央を占むること。

(二)中部地方は東は關東地方に隣し、西は近畿地方に連り、南及び北は海に臨むこと。

(三)中部地方は行政上靜岡、愛知、岐阜、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井の九縣に分つこと。

指導方法

(一)大日本全國によりて、中部地方の位置及び境域をあらかにし、然る後本地方は行政上如何に區分するか、また各縣の位置及び面積の大小などを個別學習せしむる。

(二)中部地方の略圖を描き、行政上の區分を記入せしむること。
(三)尙縣廳所在地を記入せしむる。

(四)以上を整理するに際しては、太平洋岸、中央部、日本海岸の三方面に分ち、山梨、長野、岐阜の三縣は全く海に面せざることを明らかにする。

山脈教材指導案

従来の山脈及び山岳に對する取扱は、單にその山脈の名稱とか高さ或は境界の如き記載的事項の吟味のみ止まつてゐたかのやうに思はれる。すなはち山脈の高度なり走向なり、或は傾斜斷續及び植物の分布とか山脈の成因、または山脈のその地方に及ぼす影響といふが如き點を甚だ輕視してゐたかのやうに考へる。従つて従来の山脈の取扱は徒に死的知識に對する記憶の強制となつて、價値ある活知識の傳達にまで至らなかつたのである。要約すれば地勢教授は、斷片的な事項の羅列、劃一的な取扱に陥つて甚だ無味索莫たるものであつた。

もとより山脈の高度は必要なるものであるが、高度が山脈そのものゝ價値を有力に語るものではない。又境界といふことも、山脈の價値を表はすものではない。山脈の取扱に當つては、

- (一)その山脈の走向は如何、如何なる分水界又は境界をなしてゐるか。
- (二)傾斜は何れの方面に急で、何れの方面に緩かで、如何なる分水界をなしてゐるか。
- (三)その山脈は斷續のない一連の山脈であるか、斷續せる山脈であるか。
- (四)その山脈は如何なる植物が分布され、樹木は多いか少いか。
- (五)その成因は、火山作用か褶曲か又は斷層作用によるものであるか。

(六)而して山脈の高度・走向・傾斜・斷層・植物分布・成因が、それと氣候・産業・交通・人情風俗などに如何なる影響を與へてゐるか。

實際例

の如き關係方面を考察せしめることを忘れてはならない。要するに器械的な羅列的な取扱に陥ることを慎むべきである。

學年

尋常第五學年
尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方 地勢 山脈

教材

奥羽地方の山脈及山岳に就いて授くる。

奥羽地方地圖、奥羽地方地勢地圖、奥羽地方斷面圖、

挿繪の擴大圖。

資料研究

那須火山脈 奥羽山脈の中を那須火山脈が通るといふが、地圖の方をみるとその反對に火山脈の中を山脈が通つてゐる様である。この矛盾を何と解釋すべきか。

(一)地圖にある黒い太い線は山脈そのものゝ全體を示したのでなく、單に山脈の位置を示したもので、故に山脈の幅はあの太線よりもすつと廣いものであること。

(二)火山脈は單に火山の排列上から推測するのであるから明瞭な幅を決定することは困難で、極めて大體を示したものとすること。

この二つの見地からみても「山脈の中」を火山脈が通るといふ云ひ方は妥當でない。

奥羽地方の斷面圖 鳥海山は斷面よりも手前にあるから、之は描かないのが普通である。尙この斷面圖が三十一頁の地圖の下にあれば、而して地圖と同縮尺であれば對照的に一層便利であると考へられる。

指導要點

- (一)教科書の地勢略圖及び斷面圖を利用し、奥羽分水山脈を中心として東西兩側を比較的取扱ふ。すなはち東部の北上山脈及び阿武隈山脈、西部の出羽丘陵及び越後山脈に就いてその走向、横谷と縦谷、成因、高度、浸蝕の程度を比較しつゝ指導する。
- (二)次の事項に就いて補説する。
 - (イ)分水嶺の意義及び分水嶺の傾斜が河流の大小速度に及ぼす影響。
 - (ロ)褶曲山脈の成因及び風化浸蝕作用。
 - (ハ)火山の成因及び火山の活動。

- (ニ) 温泉の湧出する原理及び泉質。
- (ホ) 火山脈と礦物との關係。
- (ヘ) 縦谷と横谷との成因及び谷が交通に及ぼす關係。
- (ト) 盆地の成因及び盆地と産業との關係。
- (三) 教科書及び附圖に記載せられた主要なる山嶽に就いて略記するはよいが、それ以外の山岳を列擧するが如きは、兒童の頭を混亂せしめるばかりで何等の効果もない。
- (四) 本地方の大部が山地であつて、平野の少いことが文

河川教材指導案

従来の河川の取扱に於ては、單に記憶にのみよる機械的な方法に終つてゐたやうに思はれる。すなはち利根川は長さ八十二里、その源を群馬縣の利根岳に發し、關東平野を貫流して大味崎附近に於て海に注ぐ、と説くのはまだしもいゝ方で、多くは吉野川は六里、石狩川は九十三里、信濃川は九十四里と單にその長さのみを記憶させて能事畢れりとなしたものである。之では相撲の番付の如きもので河川に對する正當なる理解を持つことは出来ない。素より河川の長さは缺くべからざる要素であるが、河川の長さだけがその全部ではないのである。河川の取扱に於ては、もつとそれが人生に及ぼす影響に就いて着眼しなければならぬ。すなはち、

- (一) その河川の水量は多いか少いか。
- (二) 又その水量は一定してゐるか否か。

化の發達に如何なる影響を與へてゐるかを推究せしむる。

- (五) 勢地圖に附記された尺度を用ひて、山脈の長さ及び東西の幅（最も廣きところと最も狭きところ）をはからしめる。
- (六) 丘陵、高原、盆地などの地理的術語の意義を明瞭に了得せしめる。
- (七) 挿繪の月山及び磐梯山と猪苗代湖の解説をなす。

- (三) 水流は緩流か急流か。而して何れの部分が急流で何處が緩流か。
 - (四) 河川の流れる方向は東西流か南北流か、流域の中央を流れてゐるか、それとも一方に偏在してゐるか。
 - (五) 流域は如何なる地勢で、平野か、豁谷か、または産業地か、不毛の地か、森林地帯か。
 - (六) 河川は如何なる水産に富んでゐるか。
- の諸點に着眼し、精確に吟味させて行かねばならない。この吟味によつて兒童は河川の個性を知り、その河川の人生に及ぼす影響を的確に認知了得するに至るものである。

實際例

學年 尋常第六學年

教材 尋常小學地理書卷二 第二 樺太地方 河川

要旨 樺太地方の河川に就いて投げ、その人生との關係に

就き考察させる。

準備 樺太地方地勢圖、鮭、鱈の標本。

資料研究

樺太地方は南北に狭長な地形に沿つてその東西に山地帯が相對的に縦走してゐるから、稍々長大なる河川は自ら中央部の低地に多く集まり南北に流れてゐる。山地帯に源を發して東西に流走してゐるものも少ないが、それ等は何れも地形との關係上極めて短小であり、且つ急流が多いのである。

幌内川 露領樺太の中部に發し、ツンドラ地帯を南に曲流すること七、八十里（新領約五十里）にして多來加灣に注いでゐる。河幅は國境附近に於て約三十間、河口では百五十間にも達し、本島第一の長流であるが、水淺く殊に河口附近に於ては四五尺を保つにすぎないといふ有様であるから、大船の溯航は出来ない。しかしこの淺瀬をすぎれば十五尺乃至二十尺の水深があるので、滿潮時を利用して百噸内外の帆船は自由に溯航することが出来る。この川には鮭、鱈の産が多い。

内淵川 樺太山脈の野田塞岳に源を發し、落合の西北方附近から北流してオホツク海に注ぐ。全長約二十五里、その流域には本島有数の農牧地内淵平野を展開してゐる。内淵川も鮭、鱈の産が多い。

鈴谷川 豊原・真岡支脈の境上に特立する留多加山に發し、南部中央凹地帯を南下して千歳灣に入つてゐる。流程約二十里に達する本地方屈指の長流であるが、水深淺く舟運の便が少い。しかし水路縦横に曲折し、流域に鈴谷平野を作り農牧好適地を發達させてゐる。

留多加川 亞庭灣斜面第一の長流であり、源を留多加山の南麓附近に發し、千歳灣に注ぐ。全長五十里、この川も河口が淺いので船舶の溯航は許されないが、風波を避難することが出来るから、秋冬の時期には帆船・汽船の來避するものが多い。

指導要點

平野教材指導案

從來平野教材の取扱に際しては、單にその廣表外形的な地形のみを授けて能事畢れりとなしてゐたものである。例へば關東平野は日本第一の平野で廣表三十里四方、「武蔵野は月の入るべき山もなし」まあ何と廣いものではないか、と結ぶのが普通とされてゐた。しかしこの方法では平野の特質に徹することが出来ないばかりでなく、平野と人生との關係に就いて理解を與へることも出来ない。申すまでもなく平野は、人類活動の中心地である。而して人類の生存競争の最も激甚を極むるところはこの平野である。史蹟に徴してみても、平野によつて人文の發達を來し、人類はその活動をこの平野に於て營み、且つ營みつゝある。すなはち平野は、人類活動の中心として、人生に最も緊密なる關係を有するものである。故

(一)各河川の水源地を明瞭に了得させる。

(二)本地方の生命は、全く河川の流域にある所以を會得せしめる。

(三)本地方の河流が水運の便少なき所以を兒童に推考させる。

(四)各河川の水産物に對して理解させる。

(五)幌内川沿岸の如き卑濕なるツンドラ地帯も、鈴谷川内淵川沿岸の如き肥沃なる農牧平地も、地理書附圖には同一色彩を用ひてあるので、讀圖からはいる兒童は往々誤謬を來すものである。従つてこの點にも注意を拂つて、一應説明する必要がある。

に平野教材を形式的に單に器械的に取扱ふことは地理學習の意義に反するものとみななければならぬ。要するに平野教材の取扱に當つては、(一)平野の廣狹、(二)平野の地質と地味、(三)平野の地形と勾配、(四)平野の天然物と主なる住業、(五)平野と文化との關係の諸點に着眼し、是等が相互に如何なる關係を持つて人生に影響を及ぼしてゐるかを推究せしめなければならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方

要旨 關東地方の平野に就いて授け、その人文發達との關係を理解せしめる。

準備 關東地方地勢圖、日本全國圖。

資料研究

(一)關東平野は我國第一の平野であり、東西約三十里、南北約二十五里、面積一千方里に及ぶ。北及び西は阿武隈、筑波、足尾、關東の諸山脈に圍繞せられ、東南二面は太平洋に臨む。而してその中を利根・荒川・那珂川・多摩川・相模川・酒匂川等が貫流し、我國重要な米産地をなしてゐる。又山地に接する平野の周邊地方は、低き波状丘陵性の臺地をなし、麥圃、桑田相續き、農産物を多種豊富に生産する。

(二)關東平野は、嘗て大陥没作用のために一時水底に沈んだものであるが、土地の隆起作用と河流の沖積作用のた

めに再び陸化したものである。故にその大部分は第四紀層よりなるが、その基底部や山に接する地方は第三紀層が露出してゐる。

(三)關東平野は、首府東京を始め大小の都邑をその中に分布し、人口一萬を超える市町村は百に及び、人口密度は我國の首位を占めてゐる。水陸の交通又よく開け、諸川の舟楫、鐵道の運輸の便なることも亦全國第一位である。要するに關東平野は、全日本の政治、經濟、交通の首腦たる地位を有するものである。

指導要點

(一)那珂・荒・利根・多摩・相模川の上流は發電に、下流は灌漑に運輸に利用されること。鬼怒川水電は東京に送電されて電車の動力や電燈に用ひられ、多摩、相模の水は東京に引かれ、市民の飯用水となること。

(二)關東平野は地味肥沃にして、また暖流及北部山地の影響をうけて氣候溫暖なるを以て産業盛大にして人口も多

く、交通も便利を極め、到るところに都邑の發達せること。
(三)關東平野の面積を概算させ、これを郷土の平野と比較させる。

(四)關東平野は何故産業がさかんか、何故交通が便利か、何故都邑が多いかを兒童に考察させる。

海岸教材指導案

山脈・河川・平野などは比較的詳細に説き乍ら、海岸教材は一般に輕視される傾がある。海岸教材の取扱と云へば、單に海岸線の長短、屈曲の状態位にとまつてゐる。尙海岸線の長短を單にそれだけの事實によつて文化發達との關係に意味づけようとする抽象的取扱を採つてゐる。之では海岸教材を眞に徹底的に理解せしめることは出来ない。殊に我國の如き四面海を以て圍まれたるところに於ては、尙更この海岸教材を重要視しなければならぬと考へるのである。各海岸の特質を十分に認知せしめ、了得せしむべきだと思ふ。要するに海岸教材の取扱に當つては、(一)海岸線の長短及び屈曲、(二)海岸の地形と深淺、(三)海岸の状態、(四)港灣の有無、(五)後方に平野を有するや否や、(六)その平野の状況等を明かにし、且つ交通・水産業・風景・氣候並に國防上に如何なる關係を有してゐるかを考察せしめなければならぬ。而して海洋海岸に關する思想を培養することが何より肝要であらうと考へる。

實際例

學年 尋常小學第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方
要旨 中部地方の海岸に就いて授ける。
準備 中部地方地勢圖、新潟港及び伏木港の擴大圖。

資料研究

伊豆半島 鐵狀をなして相模、駿河の二灣に突出せる一大半島である。半島には山嶽、丘陵の起伏波瀾の如く、河流の岸にも平地は少い。海岸は懸崖をなし砂濱は少い。尙伊豆半島はその總面積約百方里に近きも、人口は僅かに二

十萬にすぎず、都會の發達しないのは地質が礫角で耕作に適せず、又沿岸に良港を有しないがためである。

石廊崎 伊豆半島の最南端に突出せる岬角。附近は岩礁亂立し、太平洋の怒濤は之に激して壯觀を極む。岬頭に燈臺があり、風光すこぶる雄大である。

駿河灣 伊豆半島と御前崎の突出によりて抱かる、本地方南海岸第一の大灣入である。本岸は絶壁をなす處も多いが、北岸及び西岸は河流の扇狀地が相連なり白沙の汀線遠く續き、北方に富士の秀峰を仰ぎ、又灣岸には沼津の千本濱、田子の浦、清見潟、三保の松原等の名勝の地多く、保養地として名高い。この濱は地盤の陥没によつて生じたもので、太平洋岸の灣入中深度は最も大である。燒津を中心として漁業も盛大である。

御前崎 岩上に燈臺高く聳え、海上十九哩に閃光を放ち、遠州灘航路の目標となつてゐる。

遠州灘 駿河灣の西口たる御前崎より志摩半島の東南端なる大王崎に至る海面であつて、汀線が單調で且つ波浪が高いから沿岸には良港がない。

渥美半島 半島には丘陵起伏して平地少く、峭壁をなす處が多い。しかし北岸三河灣に臨む方面には小灣入の出入甚だ多く砂濱が遠くつらなつてゐる。

三河灣 三河の渥美半島と尾張の知多半島に擁せられる灣入で、灣内は更に二區に分れてゐる。即ち東方の渥美灣と西北の知多灣である。渥美灣の東方は豊川の平原であるから、海岸は平坦な砂濱であるが、北岸は設樂諸山の山脚が海岸に伸びて丘陵の起伏が多い。

知多半島 愛知縣の西南部に於て、南方に突出した半島で、西は三重縣と相對してその間に伊勢灣を抱き、東は渥美半島と共に三河灣を擁し、尙半島の東岸に知多灣の灣入がある。地形は概ね百米内外の丘陵地で、地質は主に砂岩、泥板岩等より成り、海岸地方は平沙遠く連り、風光明媚である。東海道線は名古屋市の南方大府より、半島東南部の商港武豊まで、武豊線約十二哩を通じ、また愛知電氣鐵道は熱田より西岸中央の常滑町まで約十八哩を通じてゐるから半島西岸の交通は便利である。

師崎 知多半島の最南端に位する一岬角で羽豆岬ともいふ。渥美半島の伊良湖崎と相對して三河灣の咽喉を扼する。岬角は低き斷崖をなしてゐる。

伊勢海 表日本に於ける一大灣入である。伊勢海の灣上は斜に東南に向ひ、渥美半島と志摩半島との間に伊良湖水道を造り、灣内に入出入する船舶の航門をなしてゐる。灣内は水深概して淺く、最深の處でも漸く二十尋内外である。

沿岸には漁業行はれ、鱈、鰈等を産す。

能登半島 日本海に突出せる一大半島で、三方に海を繞らし、地勢は第三紀層の丘陵地より成り、高度は概ね五百米内外である。半島の東岸中央に七尾灣の灣入がある。灣は中央の能登島によりて北灣、西灣、南灣に分れ、南灣に臨んで日本海屈指の良港たる七尾港がある。鐵道七尾線は金澤よりこゝに通じてゐるから、水陸の交通が頗る便利で、百貨の集散が盛大である。

指導要點

(一)太平洋岸は東に伊豆半島突出して駿河灣を擁し、西に知多半島が垂下して三河灣と伊勢灣とをへだつる外、概して海岸線の出入少きこと。

(二)駿河灣の清水港と伊勢灣に臨む名古屋港とは、背後

氣候教材指導案

氣候は地球上に於ける地理的位置、海陸の分布、海流の寒暖、山脈の走向、土地の高低、森林の有無などの自然の諸關係によつて生ずる自然現象である。すなはちこれらの自然現象の有機的關係によつて生ずるものが氣候である。而して氣候は、水陸の分布、地勢、地質の如何によつて生物の分布に直接の關係を有する。更に人類の分布をも支配し、人類の生活状態をも制限し、産業交通及び都會の發達などにも重大なる影響を與へるものである。故に氣候教材の取扱に當つては、

先づこの自然と自然との有機的關係に着眼することが大切である。次には氣候と人類生活との密接なる有機的關係に着眼し、正當なる理解を與へることに努めることが肝要である。更に氣候教材の取扱に附帶して、氣温の觀測、氣壓の測定、湿度の計量、風向及風速の測知、雨量の計量、晴雨の豫測、氣温の變化などの實驗及び觀察をなさしめ、氣候に對する科學的訓練を施すことを肝要としなければならぬ。要するに以上の三點を氣候教材指導の主眼點とみ、之を取扱ふことによつて氣候教授の指令が果されるものと考へられる。

實際例

學年 高等科第二學年

教材 氣候

要旨 氣候の意義、熱帯、溫帯、寒帯の特異性、氣候の大
陸性、海洋性の別について學習させ、氣候と人間生
活との關係を考察させる。

時間 二時間

第一時 氣候の意義、天氣、氣候帶、大陸と海洋との氣
候の特異性。

第二時 我國の氣候。

第一時指導

(一)教科書讀解 その間に教師は、前時間から豫告し本
時の初めに提出せる兒童の提出問題を整理する。

(二)共同的に中心問題につき學習する。教師から問題を

に大生産地を控へ、陸上交通の便よきため船舶の出入繁く
商業發達を極むる事。

(三)日本海岸は西南部に敦賀の良港を有する若狹灣あり、中央には能登半島突出して、その東海岸に七尾港を抱ける外は、海岸線短くして砂濱多く良港に乏きこと。

(四)新潟・伏木兩港は日本海岸に於ける重要な港であるが、川口を利用せるものにして規模が狭小であるから、まだ發達の域に達しないこと。

(五)日本海中には佐渡島の横はれること。

(六)敦賀、名古屋、清水の三港を主として取扱ひ、以上の三港以外に良港と稱すべきものゝない地理的原因を考察させ、併せて駿河灣沿岸の名勝地に就いて略説する。

提出しては、兒童の意見を發表させ、相互に批評し左の點を明かにする。

(イ)氣候の意義、(ロ)天氣の意義、(ハ)天氣圖、(ニ)天氣豫報、(ホ)氣候帶及びその特徴、(ヘ)各氣候帶と人間生活の状態、(ト)海洋性の氣候と大陸性氣候
(三)兒童の提出問題の整理。初めに提出した問題中、右の研究中に自ら解決されたものを除き、更に研究中新しく生れた問題を提出させて批評討論する。

準備 地球儀、世界全圖、天氣圖。

補説資料

(一)氣候の意義 ある地方に於ける長期に亘つて觀察した天氣の平均状態をいふ。

(二)天氣の意義 或地方の氣温、氣壓、晴、曇、風、雨等の總稱。

(三) 氣候を變化させる原因 地球の公轉による四季の變化。日射、海陸の分布、土地の高低。

(四) 氣候帯

(イ) 緯度による分類

(1) 熱帯 南北緯二十三度半の間

(2) 温帯 南北緯二十三度半より各六十六度半まで

(3) 寒帯 南北緯六十六度半より極まで

(ロ) 温度による分類

(1) 熱帯 年平均氣温二十度以上の地

(2) 温帯 二十度以下零度まで

(3) 寒帯 零度以下の地

(五) 各氣候帯の特徴

(イ) 熱帯 赤道風帯或は貿易風帯に當つて雨量多く、年中大抵五度内外で、氣候の變化が少い。故に氣候單調、赤道を去る少許の處では既に季節的變化を生じ、地方によつては一年二回の乾候、濕候をみる。例へば印度のボンベイでは九月から五月まで乾期、六月から九月まで雨期。

(ロ) 温帯 四季の區別が明かである。南半球の大部分は海洋で温度の變化は夏冬を通じて最も少い。北半球は之に反して水陸が複雑に分布してゐるために氣候も到る處多様である。例へば北緯五十度内外の地位にある歐洲は氣候

温和で文化も發達してゐるが、之と同緯の中部亞細亞では寒暑の變化が甚だしく、人間生活に不適なため人跡稀である。

(ハ) 寒帯 氣温は年平均零度以下で、冬氣が長く、雨量は年平均二百耗位で非常に少い。温度十度以上に上るのは、夏季一ヶ月乃至二ヶ月で歐羅巴の北部の少部分の外は温度が常に低い。

(六) 氣候帯と人文との關係 熱帯寒帯は共に、人間生活にとつて不適當であり、温帯が人間活動には最適である。世界の文明國は悉く温帯圈に在る。熱帯は自然の生産に富み、高湿度なるため、住民が安逸に流れ勤勉の風少く、文化が進まない。或は恐るべき惡病と酷熱に阻碍されて眞の生活は出来ない。之に反して寒帯は、寒氣のために活動がにぶり、生産物も少く、營養不良となり、人間生活は妨害される。氣候は人間の頭腦のはたらきにまで影響するのである。古來温帯地方は文明の中心となり、文化の發達するのは、天産の豊富であるばかりでなく、四季の變化は人間の心を緊張させ、その活力を刺戟し、頭腦を鋭敏ならしめるからである。

農業教材指導案

農業教材を取扱ふには、先づその産地の位置を明かならしめることが大切である。教材の如何を問はず、地理教授はその土地を離れては成り立たない。殊に農産物の如きは、その土地の事情に即して發達してゐるものであるから、その點の指導を忘れてはならぬ。例へば奥羽地方の林檎を取扱ふには、その地方が温度の低いこと、大陸的の乾燥地であることなど、氣候と地質の一斑にもふれて行かねばならぬ。尙奥羽地方の林檎はアメリカ種であり、何時頃からその播種をみたかといふ如くに、その發達の歴史的概説をもなす必要がある。農産物の需要關係及びその産額を明かにすべきは云ふまでもない。尙その農産物の特徴を直觀的に實際的に理解せしめることが肝要である。單なる掛圖などによることを排し、なるべくならば實物を蒐集し、之を郷土のそれ(若し同種類のもの)が郷土に産出すれば)と比較的に取扱ふべきである。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方

要旨 中部地方の農業に就いて投げる。

準備 中部地方産業分布圖。茶、繭、生絲などの産額比較表。静岡煎茶、蜜柑などの實物。

資料研究

米・麥・野菜 濃尾、越後、富山、越前の大平野を有し氣候温暖で農産物の發育に適するため、各種の農産物が豊富である。殊に信濃・阿賀兩川により灌漑される越後平野は、

水田十七萬町歩に達し、米産額三百萬石に上り、日本第一の米産地。麥は關東地方に次ぎ、愛知縣の六十萬石を首位とし、その總産額二百萬石に上る。野菜は名古屋附近に多

茶 静岡縣を第一位とする。栽培面積一萬五千町歩、その産額實に四百二十萬石、價格千五百萬圓の多きに達し、日本總産額の約四割に當る。而して産額の九割は煎茶で、その大部は清水港より北米合衆國に輸出し、殘餘は之を加奈陀、支那、關東州に輸送する。又他縣より製茶を輸入して之を再製し、各地の需要に應じてゐる有様で、再製茶の

産額も亦約一千五百萬圓に上る。

蜜柑 静岡縣は和歌山縣に次ぐ蜜柑の産地で、その年産額約二百萬。殊に本縣の左右には東京、横濱、名古屋等の大消費地を控へ、而も海陸の交通運輸は便利を極めてゐるから、その集散は極めて活潑である。蜜柑の外に夏橙、ネーブル等も産し、尙その果實を砂糖漬とし、外皮より橙皮油、枸橼酸等の藥品を製造せんと計劃されてゐる。

養蠶 本地方の中央高原に養蠶の盛大なるは、全くその地理的事實に原因する。長野縣の繭産額は七千五百萬圓、愛知縣、岐阜縣がこれに次ぐ。

指導要點

(一)濃尾、越後の兩平野が我國屈指の米産地たる所以を具體化するために統計表を用意する。又尾張米、越後米の品質に就いて附説し、その集散状況を明かにする。

(二)静岡縣が茶樹、柑橘類の栽培に適する地理的一般の理由を明かにする。

(イ)茶、蜜柑の産出理由。

(ロ)茶及び蜜柑は、熱帯又は温帯に屬する暖地で傾斜をなして排水のよいところを好む。而して空氣は濕潤がよい。静岡縣の海岸地方は氣候、地味共にこの條件にかなつてゐる。

(ハ)従事者が鋭意改良に努めたこと。

(ニ)交通が便利で運搬に便利なること。

(ホ)大消費地を附近に控へてゐる事。

(ヘ)静岡に於ける茶の精製と取引。

(ト)清水港の發達との關係。

(チ)宇治茶との比較對照。

(三)清水港より輸出する茶が日本第一位なる所以を産額比較表によりて説明し、挿畫によつてその實際を想像せしむ。

(四)長野、愛知兩縣下に養蠶業の盛大なる理由を地勢、地味、氣候等の上より理解させる。

(イ)茶は火山灰のある地を好み、砂質壤土に最も適してをり、比較的肥沃でない山地にも適する。それでこの長野地方は桑の栽培に適する土地である上に面積廣きこと。

(ロ)雨が少くして養蠶に都合のよいこと。

(ハ)空氣が乾燥して繭の貯藏によいこと。

(ニ)長野縣では山が多く、耕作地が少いのに、桑は山地でも出来るから山地に於ける職業として發達したること。それで長野縣では如何なる山奥でも養蠶をなし、「信濃路や宿かる家のかひこかひ」と語られる。

(ホ)郷土人が改良進歩に努めたこと。

工業教材指導案

工業教材の取扱に當つては、何より工業状態の實地見學といふ點を肝要とする。郷土が工業地帯でなければ仕方ないが、しかし旅行その他の機會を利用して工場見學をなすことが大切である。次には工業發達の沿革の概要を知らしめることである。例へば瀬戸焼、唐津焼、久留米耕、西陣織とかの沿革をたづねて、その現状に説き及ぶことは、單にその産物の觀察或は産額のみを取扱に終るよりは、更に意味深いものがあることと考へる。兒童に經濟思想を附與するには、この方面の取扱を深化することが大切であらう。又その工業製品の販路を明かになし、特に海外との貿易關係を知らしめねばならぬ。之に關聯して交通が如何にその地方の工業に密接なる關係を有してゐるかを考察させる。或はその工業品が我が郷土に如何なる關係を有してゐるかに就いても考察させることが肝要である。多くの實物を蒐集して理解を直觀的ならしめることは贅するまでもない。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方

要旨 中部地方の工業の状態に就いて知らせる。

準備 生絲・羽二重・綿織物の實物及び標本。それらの製作工程を示す標本・繪畫類。各種の産物統計諸表。

資料研究

製絲業 長野縣は製絲業の盛なること全國中の首位を占

め、その産額二億圓を突破する。内地總産額の約二割五分に當る。殊に岡谷は我國蠶絲業の中心地で、諏訪湖畔に臨む幾多の工場は、水力を利用して機械を運轉し、日夜數萬の男女職工を使用してゐる。製品は信越線或は中央線を利用して、横濱に輸送し、北米合衆國、加奈陀、佛蘭西などに輸出する。

絹織物業 絹織物の中で最も盛んなのは福井、石川兩縣の羽二重である。福井市には羽二重検査所を設けて製品を検査した後取引を許下してゐるので粗製濫造の弊を防ぎ、製品は逐年改良されて行く。而して我國輸出羽二重の大部はこの兩縣の産出に占められ、福井縣は絹織物産額一億二千萬圓に上り、羽二重はその七割弱に當り、石川縣は六千五百萬圓中約四千萬圓の羽二重を産出してゐる。輸出羽二重は平羽二重であるが、その外に綾羽二重、綿羽二重、白絹、縮絹、幸書絹、絹綿交織なども産出される。福井、石川二縣に次いで山梨縣の甲斐絹、新潟縣の五泉平、幸書絹、岐阜縮絹などが盛大である。絹綿交織は愛知縣を第一位とする。

綿絲紡績業 本地方に於ける紡績業は愛知縣を以て第一位とし、その年産額約一億一千萬圓に達する。その主産地は名古屋市及び知多郡で、綿物、緋織、白木綿の外、黒八丈、綿ネル、タオル、帯地等を産出する。尙毛織物は約八十萬圓に上り、その産額は全國第一位。

製陶業 窯業は愛知縣の瀬戸焼、岐阜縣の多治見焼、石川縣の九谷焼を最とし、就中瀬戸焼は年産額三千萬圓に上り日本第一位。

瀬戸焼 瀬戸町を中心とする。原料には木曾山脈の餘波

て特色とする。製品は食器最も多く、裝飾品家具等も出す。本縣の陶器産額は約二百五十萬圓で、その大半は金澤市から産出する。

漆器製造業 氣候風土が髹法に適してゐるから漆器工業盛大で、内地總産額の四割強を占めてゐる。實用品のみならず、東洋獨特の美術工藝品として海外に名高い。

静岡塗 駿府塗ともいひ、静岡市を主産地とする。製品には机、書棚、卓子、菓子器、文庫、硯箱などがあるが、堅牢でないのが缺點。しかし優美なるため海外へ輸出する。年産額約百五十萬圓に上る。木材は大井川上流の樺、杉、桂、檜等を用ひ、漆は支那に仰ぎ、木地、漆塗、蒔繪、金具等は分業的に従事する。

春慶塗 岐阜縣高山町を主産地とする。膳、盆、重箱、菓子器等を出す。透明の漆を用ひ、木地の木目を表はすが特色。昔泉州堺の漆工春慶の考案による。

輪島塗 石川縣輪島町を主産地とする。膳、椀、盆等の食器類が多い。年産額約二百八十萬圓。この漆器は木地の上に地の粉と稱する黄土を塗り、その上に漆を施すので、製品は堅牢である。

金澤塗 金澤市を主産地とする。その蒔繪は精巧優美を極め、世に加賀蒔繪と稱される。

たる附近の小地より採取せる蛙目粘土（花崗岩の靈燐したも）を用ひ、食器、裝飾品、玩具などを主として製造する。所謂瀬戸物と一般に稱するを見ても、その販路の廣きことが判る。また近年は肥後の天草石を移入し、之を原料として硬質陶器を製造してゐる。その他愛知縣には常滑町の常滑焼、名古屋の豊助焼、犬山町の犬山焼がある。

七寶燒 七寶は佛敎から出た言葉で、金・銀・珊瑚・琥珀・瑪瑙・琥珀・珊瑚の七色を總稱する。主に花瓶、メタル等が作られ、その大部は海外へ輸出する。その製法は銅を以て原形を作り、それに金屬の細絲、薄片を以て山水、花鳥等の模様を施し、その間に着色せる珪瑯を充填して焼くのである。年産額約二十五萬圓。

多治見焼 美濃焼ともいふ。岐阜縣土岐郡を中心として産出し、年産額千二百萬圓に上る。瀬戸焼に亞ぎてその産額日本第二位。製品は茶器、食器等の日用品がその九割を占め、殘餘は花瓶、置物等の裝飾品である。米國、南洋、支那、印度に輸出される。この外本縣より赤坂町の濃古焼が産出する。

九谷焼 金澤市を主産地とし、江沼、能美兩郡より盛大に産出される。原料は石英粗面岩の分解したもので、赤繪、青繪、錦繪平等の獨特の色彩を施し、密畫を描くことを以

若狹塗 福井縣小濱町を主産地とする。色塗や金銀粉を用ひた美麗なる漆器であるが、高價なるため需要の範圍が狭い。製品は箸、筆箱、盆、煙草入、文庫等がある。この外石川縣の山中塗、富山縣の高岡塗、新潟縣の村上塗等は、何れも年産額百萬圓に上る。

製紙業

洋紙 静岡縣の大宮を中心とする。年産額二千五百萬圓に達し、日本第二位を占める。主なる製紙工場は富士製紙會社で、本縣洋紙總産額の約六割はこゝで産せられる。洋紙の種類は新聞、雜誌、教科書等の印刷用紙を首位とし、煙草紙、ボール紙、構寸用紙等が多い。原料は最初富士山麓の木材を用ひたが、現在では北海道産の樺松を使用する。而して富士製紙を初めとして四日市製紙、瀨川製紙、原田製紙等大小十ヶ所に近き製紙工場がある。之は水質良好にして製紙に適し、且つ動力（水電）を得るに便利なるがためである。

和紙 和紙製造も盛大である。富士山麓一帯に栽培する三椏、楮等を原料とし、所謂駿河半紙を生産し、年産額は四百五十萬圓に上り、海外にも輸出する。尙和紙では岐阜縣の四百七十萬圓を最とし、静岡縣之に亞ぎ、福井縣の二百萬圓を第三位とする。又和紙の下級品には、藁・麥稈・反

古紙・楮を使用する。美濃紙・奉書紙・鳥の子紙は逸品として有名である。

指導要點

(一)長野、愛知兩縣は我國有数の製絲業地なること。殊に長野縣の産額は我國總産額の約三割に達し、岡谷はその大中心地にして、生絲は主として横濱港より輸出されること。

(二)日本海沿岸地方は絹織業、殊に羽二重の製織盛大にして、福井・金澤はその中心地なること。福井の検査所のこと。

(三)名古屋附近に工業發達し、綿絲・綿織物・時計・陶器等の産出多きこと。

鑛業教材指導案

鑛業教材の取扱に際しては、その鑛物の産出する區域の廣狹、性質並に需要供給の關係を具體的に取扱ふことが大切である。その鑛業事業の狀態に對しても亦、之を具體的に明かにす必要がある。郷土の鑛業教材を取扱ふ場合は、必ずその實地を見學せしめねばならぬ。而してその現況を直觀せしめるのである。又その鑛業の沿革を訪ねることも無意味なるものではない。或は又その鑛業の工業に及す關係的取扱は最も重要さるべきものである。尙鑛産物の海外貿易、或は鑛産物の工程などに就いても指導を深むべきである。

(四)瀬戸・多治見・金澤は窯業の中心地なること。

(五)静岡・輪島は漆器の製造盛大なること。

(六)富山は賣藥を以て知られること。

(七)濱松は綿織物、樂器の製造盛大なること。

(八)富士山麓の大宮附近に洋紙の製造盛大。

(九)岡谷が我國製絲業の大中心地となつた原因を具體的に説明する。

(十)名古屋市の工業都市として發達した原因を考察せしめる。

(十一)大宮附近に製紙工場の發達した原因を明かにする。

(十二)地理書に掲示されない工業にして、世上に有名なのは適宜補説する。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第八 九州地方 鑛業(石炭)

要旨 九州地方の鑛業(石炭)に就いて授ける。

資料研究

福岡縣の石炭 我國内地に於ける一ヶ年の石炭産出額は三、〇一一萬佛噸で、その中福岡縣の産出は一、六七一萬佛噸に達し、内地全總額の約五割に及び、本邦鑛業界に一異彩を放ち、頗る重要な地位を占めてゐる。遠賀川の流域一帯に分布する筑豊炭田及び三池の附近を主産地とする三池炭田は、共にその廣袤廣く無盡藏の寶庫である。而も炭質良好で、内地の需要に供給する外、若松・門司・三池・口の津の諸港より上海・香港・シンガポール等の東洋各地に販出される。福岡縣の主要炭山は次の如くである。

名稱	鑛業權者	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	計
三池	三井鑛山	七九	九六	三九	三九	二、五三
大ノ浦	貝島合名	三三	六三	一五	一三	一、三〇
三井田川	三井鑛山	四九	四三〇	二九	其他	一、〇四七
二瀬	商工省	五二	三六	三六	其他	一、〇三三
豊岡	明治鑛業	二〇九	二五	七	其他	五〇九
新入	三菱鑛業	二二	三六	三四		五五

飯塚 中島鑛業 五 一六 三七 五〇〇

三井山野 三井鑛業 一八 一七〇 一九八(其他) 五六六

中鶴 大正鑛業 三 一四 一四三 五〇七

筑豊炭田の地質 本地方は水成岩と、これを貫いて噴出した大成岩を以て稍高峻に作られてゐる所であるが、而も是等の岩石は、瀬戸内海の成生前後に於ける地殻の變動に幾度か遭遇して東南から北西へ向ふ數條の龜裂を生じてゐる。この龜裂によつて地盤が陥没し、或は水蝕を蒙つたため地形が一變し、狹長な幾條の溝澳の出來たところへ、陸上に堆積した各種の植物は水流の力によつて遂にこゝに集るに至つたのである。その後は等の溝澳は泥上の沈積作用により次第に埋没し、且つ地盤の隆起作用も伴つた結果、内地として存在するやうになり、之と同時に澳泥に堆積した植物は、炭化して石炭層をなすに至つたのである。

佐賀縣の石炭 佐賀市の西北から東松浦郡にかけて豊富な石炭層をなしてゐる。岩質は硫黄分及び灰分少く、所謂肥前炭の好評を有する。尙地質上探炭が容易で且つ運搬に便利である。縣内産額の約四分の三は内外各地に搬出してゐる。内地は大坂・長崎・東京を、海外は上海・香港・シンガポール等の如き諸港を顧客として取引盛大である。年産額

は約一三八萬佛噸である。

長崎縣の石炭 北松浦及び東彼杵郡のものは、前記佐賀縣の炭田の連続してゐるもので、炭層薄く、最大なる松浦炭田の炭層も二尺にすぎない。西彼杵郡の炭田は、西海岸に羅列する諸島に散在し、高島炭田として特に有名なる高島を初め、二子島・端島などに分布し、高島は既に採掘を中止してゐるが、他の諸島より海底に掘鑿をして採炭に従事し、炭質は良好である。年産額は約一七八萬噸である。

熊本縣の石炭 重要な炭田は天草下島にある。炭層は三層より成るものであり、上層は八尺以上、中層は一尺乃至二尺、下層は五尺乃至四尺である。天草無煙炭は之である。年産額は約一萬七千佛噸。

指導要點

(一)石炭の主産地と産額 福岡縣だけで全國總額の五割以上を占めてゐる。佐賀・長崎兩縣が之に亞ぐ。既に學習した常磐炭田や、之から後に學習する北海道の炭田と聯絡するがよい。教科書の石炭の産額比較圖を利用する。

(二)炭坑の状況と石炭の採掘法の大略。三池炭田の挿繪を利用する。次に挿繪を説明する。

(イ)中央に見える高い建物は、捲上機のあるところである。地下九百尺のところから函に載せた石炭を捲き上げ

る仕掛である。

(ロ)捲上機の後方の煙突は、捲上機の鐵索を索引する機關室の煙突である。

(ハ)捲上機より左手の中央に高くみえるもの、これも捲上機であつて、主として坑夫や材料等の上げ下ろしをなす。

(ニ)その傍に建つてゐる煙突、これは前同様捲上機に附屬する機關室の煙突。

(ホ)向つて左手よりにみえる横長い建物は選炭場である。

(三)石炭は我國主要輸出品の一であること。

(四)主なる炭田と石炭輸出港

(イ)筑豊炭田……石炭輸出港(若松、門司)

(ロ)三池炭田……石炭輸出港(三池)

(ハ)佐賀縣の炭田……石炭輸出港(唐津)

(ニ)長崎縣の炭田……石炭輸出港(長崎)

(五)石炭産出の影響

(イ)工業が發達して、我國の一大工業地域をなしてゐること。

(ロ)製鐵所が八幡に設けられたのも、石炭の供給が容易に行はれることが最大の原因であること。すなはち石炭

と鐵とは工業の二大原動力である。

(ハ)都邑や港の發達したこと。門司・若松・大牟田・八幡・戸畑・唐津・三池など。

(ニ)交通が發達して鐵道網が出来たこと。

(ホ)富の度が高いこと。すなはち石炭がその富源をな

林業教材指導案

林業教材の取扱に際しては、その地方の氣候や雨量や土質を明瞭に了得せしめることを肝要としなければならない。又林業の發達に關してその沿革を訪ねることも重要な部面のものである。林業の發達には、自然の恩恵も多いが、又人の力の加つてゐることも忘れてはならない。その意味に於て林業發達を歴史的にみる必要があらう。又林業教材に於て重要なものは、その運搬方法、すなはち交通との關係である。尙販路及びその用途に就いてその取扱を具體的ならしむべきことは申すまでもないことである。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方

要旨 奥羽地方の林業に就いて授くる。

準備 奥羽地方地圖、奥羽地方産業分布圖、木材各種。

資料研究

秋田縣の杉 能代川の流域地方を主産地とする。樹齡は

してゐる。

(ハ)北九州の發達、殊に福岡縣の發達。市が九つあること。人口稠密して勞力の充實してゐること。福岡縣といへば、直ちに石炭を思ひ浮べ、八幡製鐵の大工場を想察する。

概して一百年を越えたものばかりで、周圍一丈三尺に餘り、高さ三十五間に達する老樹が天を摩してゐる。秋田杉は樹幹が真直で、木理の緻密なること、色澤鮮明なるを特色とする。伐木は能代川の舟楫によつて河口の能代港に集中され、その製材工場にて角材、板材に製材される。その最も大なるものは能代挽材會社である。圓の中心にM印のある挽材はこの工場で挽かれたものである。

この地方に林業の發達をみた原因は、地質（安山岩）が杉の發育に最適であり、且つ雨量が多くてその成長を助けるためである。尙封建時代に嚴密な森林制度で伐材を禁止されてゐたから、今日の盛大をみるに至つたのである。

青森縣の羅漢柏 本縣の林業は羅漢柏を首位とし、全國に供給する。その大部分は國有林であるから、伐木も造植も計画的に行はれる。羅漢柏に次いで松、杉、栗、楡等の木材が多く、毎年總伐採高は百五十萬本の多きに上つてゐる。

指導要點

(一)杉の森林の發達理由

(イ)杉は温帯に適し、北面又は東北に傾斜してゐる山間陰濕の地を好む。この地方は氣温や雨量や土質が杉の生育に適してゐる。

水産教材指導案

水産教材では、先づ海流の關係を明瞭ならしめる必要がある。如何なる魚類がとれて、年産額幾らといった程度の取扱では物足りない。贅言すれば水産の豊富或は尠少なる理由を明かにすることが大切である。水産業の發達は、その自然的關係に因ることは言ふまでもないが、又その地理的關係（人文方面の）にも影響されてゐる。すなはち附近に大消費地を

(ロ)秋田藩に於て造林を奨励したこと。

(ハ)林制がよく整ひ、保護監督がよろしかつたこと。

(二)運材の方法

(イ)冬期地面の氷結した時を利用して、橋で傾斜地をすべらせる。

(ロ)川や鐵道によつて運ぶ。

(三)製材業の發達

(イ)米代川の沿岸には、製材業が發達し、殊に能代港にある秋田木材株式會社、能代製材會社がその代表的なものである。

(ロ)製材業と能代港の發達との關係。

(四)販路及び用途 廣く全國に販賣する。建築用、造船、電柱、器具、酒樽等に使用する。

控てゐるか否かを考察させねばならない。水産物は多く内地の需要を充たすものであるが、中には海外貿易にとつて重要なものもある。蟹、海苔、昆布などは、それ／＼これに加工して海外へ輸出されるものである。之等はその輸出額及び海外の顧客を具體的に明かにすると共に、その製産工程をも直觀的に取扱ふべきものである。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方

要旨 關東地方の水産業に就いて授ける。

準備 鱒、鱒、海苔の水産物標本。

資料研究

(一)本地方は東南の二方が海に面して水産の利が多い上に、東京・横濱の大都市を控へてゐるために水産業の發達をみたのである。千葉縣の東海岸の如きは寒暖二流の會合點に當り、ために兩海流に息する魚族が集り、北海道・長崎・山口・静岡と共に水産豐饒の地をなしてゐる。

(二)神奈川縣は三浦半島より西方相模灣の沿岸にかけて魚族の棲息多く、且つ暖流黒潮が近海を流れるため、屢々熱帯地方に棲む魚族を發見することもあり、その研究に至便なるため油壺には帝國大學の臨海實驗場がある。

(三)本地方の水産物中顯著なるは海苔である。所謂「淺草海苔」は、昔は淺草の近海に於て採取されたが、現在は

大森・品川・千葉縣の海濱を主産地とし、その品質は良好である。養殖場面積は百六十萬坪を超えてゐる。

(四)九十九里ヶ濱の水産業 約三百年前、紀伊の賀田屋庄八といふ人が現在の山武郡白里村四天木に來つて地曳網の方法を教へたといふ。この時代の地曳網はその規模極めて小さく、その大きさも現時の片手網位のものであつた。その後嘉永・安政の頃より明治維新後に至つて隆盛となり、規模も大となつた。然るに明治二十四五年頃より地曳は衰微に向ひ、揚繰網が開始された。揚繰網は明治二十三年頃山武郡片貝村にて土田清藏氏が海上郡富浦村中谷里の實川太郎兵衛氏の指導の下に試みたのが最初である。その後明治四十一年頃から片手網が行はれる事となつた。片手網は土田清藏氏の發明である。現今九十九里濱沿岸一帯に於ける漁業殊に漁撈法の主を占めるのはこの片手網で、これに次ぐは片手網に少しの改良を加へられた小規模の地曳である。

(五)地曳網 海岸附近に魚群のみえたとき、直ちに二艘

に分乗して出船、網を張り廻して陸に戻り、二本の網で引上げる。網を張る場所は約五十尋乃至八十尋の所である。

(二) 近海に暖流があつて水産物が多い。少し北には寒流も合流してゐるから寒暖二流に棲む魚族がゐること。

(六) 揚繰網 本船及び引船の二艘に網を積載し速く沖合などに出で、漁獲する。地曳網は近海的だが揚繰網は遠海漁業的である。

(三) 諸大河が海に注いでゐるので、魚族の餌の多いこと。

(七) 片手網 普通朝八時頃出船して適當の場所に行き、網を海底に張つて魚類のかゝるのを待つてゐる。數時間の後網を引上げ、網の目に刺したる魚を捕へるのである。漁具などは地曳網と同様であるが、船の一艘だけであることが異つてゐる。

(四) 海岸が遠淺で、漁船のつづくのに都合がよいこと。

牧畜教材指導案

牧畜教材を取扱ふには、その地勢との關係を明かにする必要がある。その地方の地勢は、その牧畜に最も密接な關係を持つものだからである。又氣候と牧畜との關係をも忘れてはならない。雨量の多少は牧草の繁茂に影響し、延いて畜類の生育に重大なる關係を有してゐる。尙牧畜業の發達には、自然の恩澤にもあるが、人力の加へられてゐるものが多い。すなはち之等の事實が歴史的に具體的に理解されねばならぬのである。その他需要關係に就いての取扱を深むべきことは申すまでもない。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥州地方
要旨 本地方に古來馬の牧畜の隆盛を極めた沿革を略説し、馬匹改良事業は國家經營上重要な理由たることを會得させる。

資料研究

(一) 本地方は家畜の飼養に好適なる第四紀古層の原野と廣大なる大山の裾野が多く、牧場を得るに適してゐる。尙地域大なる割合に人口が少いから、従つて勞力乏しく且つ資本が伴はないので未開墾地が多く、これらは凡て放牧地に使用されてゐる。

(二) 舊幕時代には南部・伊達の諸侯等は、皆よく牧馬に意を注ぎ、その獎勵に努めた。

(三) 明治維新後政府當局は銳意馬匹の改良に努め、殊に軍國の經營上、最も重要な動物として福島縣の白河、岩手縣の小原、青森縣の三本木及び七戸等にある陸軍省所屬の牧場を初め、之の馬政局に屬した種馬所等は各縣に設置されるに至つた。(現在馬政局廢止のため農林省畜産局馬政課所管)

福島種馬所(福島縣西白河郡西郷村)

宮城種馬所(宮城縣玉造郡大崎村)
岩手種馬所(岩手縣岩手郡厨川村)
種馬育成所(岩手縣岩手郡龍澤村)
奥羽種馬牧場(青森縣上北郡七戸町)
青森種馬所(青森縣上北郡邊地町)
秋田種馬所(秋田縣仙北郡神宮寺町)
陸軍々馬補充部所管のもの
白河牧場(福島縣西白河郡西郷村)
六原牧場(岩手縣膳澤郡相去村)
三本木牧場(青森縣上北郡三本木町)
七戸支場(青森縣上北郡天間林村)
荻野支場(山形縣最上郡荻野村)

(四) 南部馬 南部地方は往昔南部氏の領に屬せし岩手縣及び青森縣の東部三部地方の併稱である。南部氏は初め三戸城に居り、次いで元和年中二十七代の藩主南部利直に至つて盛岡に築城した。累代の藩主は領内の風土が馬の育成に適することを知つて、屢々ベルシヤ種を初め、各地の種馬を輸入するなど、頗る熱心に産馬の改良に意を拂つた。その結果多年の功を積んで、遂に今日の所謂南部馬を産するに至つたものである。

(五) 春馬 福島縣三春地方を主産地とする良馬である。

春馬は重役に適しないが、形態頗る美しく、活潑であるから騎馬用として本邦産馬中優秀なるものである。尙福島縣に於ては、會津・白河・相馬・三本松等の諸藩主が皆産馬の獎勵に努めた結果この良馬を得たのである。

(六)仙臺馬 藩主伊達正宗が種馬を外國に仰ぎ、産馬の改良を圖り、馬政の基礎を樹てたのに始まり、今日仙臺馬として風貌優美、歩行輕快、騎馬用に適する良馬を産するに至つた。殊に先帝御寵愛の金華山、宮城野等を初め、高砂、大浪などの御料馬を出したことは世人の周知に關するところである。

指導要點

陸上交通教授案

從來の陸上交通教材の取扱は、概して断片的羅列的であつて系統的でなく、また有機的な取扱によるものではなかつたと考へる。尙即興的で、具案的及び實際的でなかつた。従つて記載的・器械的・施行的な教授に止まつて、兒童に生きた知識と理解を與へることが出来なかつたのである。もとよりかうした教授は、今後に於て絶対に慎むべきものである。陸上交通を取扱ふには、先づその教材を綜合的に有機的に連絡關係せる交通系として取扱ふ必要がある。例へば陸上交通に於ても海上交通を度外視せず、幹線を取扱ふ場合もその支線・連絡船・國道等を度外視せず、その他電車・自動車の如きも之を度外視してはならないのである。次にはその交通機關の設けられた主なる目的を考察せしめ、それがその地方の産業實

(一)馬は大體温帯地方の平原に適するものである。奥羽地方の大平洋方面は氣候も適し、その上に廣い原野があること。

(二)雨が少いこと。

(三)牧草に適してゐること。

(四)舊藩主が牧畜の獎勵に努め、馬匹改良に意を拂つてきたこと。

(五)奥羽地方の自然、奥羽の人が、この牧畜を盛大ならしめたのである。

(六)舊藩主はどうして馬匹の改良に努めたか。

(七)軍國と馬との關係を考察させる。

易・政治・軍事・遊覽などに如何に關係してゐるかを明瞭に知らしめなければならぬ。又人類が交通發達のために如何に莫大なる費用と人力を投じてゐるかを知らしめる。例へば碓氷峠のアプト式鐵道、中央線の笹子墜道、生駒鐵道、山陰線の餘部の高架橋、關門海峡の可動橋による貨物連絡、シベリヤ鐵道、阿弗利加縱貫鐵道、瑞西のシンブロン・サンゴタルド墜道などはこの例である。特殊計劃の下に經營された交通、即ち日光線・足尾線・木曾森林鐵道・阿里山鐵道・九州北部の炭坑鐵道の如きもその敷設の目的を明瞭ならしめる必要がある。尙郷土を出發點としてその地方へ行く徑路を旅行案内によつて調査させ、その時間・日數・哩數・運賃などを學習させるがよい。最後に注意したいことは、交通の發達は日々進歩して止まないものであるから、その變動に注視することを忘れてならぬことである。教師は常に新しい資料を兒童に與へることに努めねばならぬ。殊に陸上交通の鐵道線路の如きは、常に新設或は延長されて行くから、教師は新聞及び官報の記事に絶えず注意を怠らないことが肝要である。要するに變動事項に着眼して取扱ふことを何より大切となすものである。

實際例

學年 尋常第六學年

教材 尋常小學地理書卷二 第一 北海道地方

要旨 本地方の交通發達の現状を授けて、その分布は地勢及び産業に關係することを知らせ、尙本道と本州、

樺太、シベリヤとの連絡の状態を會得させる。

準備 北海道交通地圖・函館・小樽・稚内の寫眞。

資料研究

鐵道 主要鐵道線路は函館線・宗谷線・根室線の三線である。之等は我國鐵道幹線の一部をなし、函館では鐵道連絡

船の便によつて本州の鐵道との連絡が保たれ、又稚内と樺太の大泊との間にも鐵道連絡船往來して連絡が保たれる。その他室蘭線・網走線・留萌線等も主な鐵道線路で、尙石狩空知の炭坑地方には石炭積出しのため敷設された短距離鐵道もある。

函館線 函館を起點として北方に走り、小樽・札幌・岩見澤・龍川等の都邑を経て旭川に至る延長二百六十五哩四分の本線と、手宮線・歌志内線・幌内線・岩内輕便線・上磯便線等の支線とを總稱する。函館を發し本線にて旭川に到着するまでの所要時間は、普通列車で十五時間半、急行列車で

約十三時間餘。

宗谷線 起點旭川より天鹽川に沿ひて北進し、名寄を経て稚内に達する延長百七十三哩五分の本線と、名寄・湧別間約七十六哩の支線との併稱である。

根室線 函館本線の龍川驛から分れて東南に向ひ、池田で網走線と合し太平洋に出で、東進し、釧路を経て根室海岸の名呂根室に至る延長二百七十八哩の本線と、十勝岳の西南富良野より旭川に達する三十三哩の支線との併稱である。本線が太平洋斜面の開発に寄與した事は贅言を俟たず、殊に本島東西の兩岸を連絡し經濟上の連絡を持つた事に注意する。

室蘭線 函館本線の岩見澤驛より南走して苫小牧に至り、更に太平洋岸を西南に走り、内浦灣頭の室蘭に達する八十六哩七分の線と、夕張線・萬字輕便線等の如き運炭鐵道とを總稱する。本線は石炭を搬出するための運搬線として敷設されたものだから、貨物の運送に於ては本島各線中有數の地位を占める。苫小牧、室蘭は本線開通に負ふて發達したものである。

網走線 根室本線の要驛池田から北に向ひ、千島火山脈地帯を横斷し野付牛驛を経てオホツク海沿岸の網走到達する百二十哩四分の線と、野付牛驛・湧別間四十七哩の支線

との總稱である。この沿線は常呂川と利別川との溪谷で、森林や大農耕法による農園などの迎送に違なく、珍らしい風光に富む。

留萌線 起點深川驛より西北に向ひ、日本海沿岸の名呂留萌を経て西南増毛に至る四十一哩二分の線である。本線は留萌・増毛を中心とする水産物の運搬を主目的として敷設したものであるから、従つてこの線の利用もその漁期に於て最も著しいものがある。

指導要點

(一)本道の鐵道は産業の發達してゐる平野と海岸地方に多いが、概して本道は菱形の四邊に當る海岸地方が低く中央部が高いからこの平地を連絡する鐵道も開け、狩勝の墜道の如く人力を以て自然を征服したところの少くないことを注意させる。

(二)鐵道の開通されたことによつて、その沿線の文化が如何に進歩するかを考へさせ、將來の鐵道開發問題にふれさせる。

(三)函館から根室に至る幹線と函館(本州へ)稚内(樺太へ)小樽(シベリヤへ)の海陸連絡港の價値とを注意させる。

(四)旅行案内により、郷土より本道の或都邑に至るには、幾時間を要し、幾哩の哩數があるか、またその運賃などを

調査させる。

海上交通教授案

海上交通の取扱も、大體陸上交通の場合と同様の注意を要す。重複を避けてその點の記述を止める。何れにしても海上交通の取扱に當つて重要な事項は、海陸交通の連絡に對してであり、海上交通と貿易との相互關係に就ての指導である。外國航路を取扱ふ際にはその所要日數と賃金を明かにする。尙その地勢及び氣候と海上交通との關係を有機的に取扱ふべきことはいふまでもない。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方

要旨 本地方の海上交通の現状を投げ、地勢及び氣候と交通との關係を明かにし、交通の便否が文化の發達

に甚大なる影響を及すことを悟らしめるにある。

準備 日本全圖、奥羽地方地圖、奥羽地方交通地圖。

資料研究

太平洋岸 牡鹿半島の荻の濱は、横濱と青森を連絡する主要港である。灣内の水深くして風波を妨ぐが、港域狭きため巨船の碇泊には不便である。松島灣に臨む鹽竈港、北上川の河口による石巻港は、港内何れも水浅くして大船の出入に不便である。こゝに松島灣汽船會社と石巻運輸汽船

會社がある。前者は松島・鹽竈間、後者は石巻・金華山間、毎日數回の航路がある。牡鹿半島以北の岩手縣海岸は、屈曲に富み宮古・釜石等の漁港があるが、北上山脈が海岸まで延びてゐるので斷崖多く、内部との交通が不便であるため商港として發展する見込みがない。

日本海岸 米代川河口の能代、雄物川河口の土崎、最上川河口の酒田は、何れも米穀、木材の大生産地を控へた港であるが、日本海は冬季風波烈しく、ために航海殆んど杜絶し、現時に於ては新潟より函館に至る航路の一寄港地にすぎない有様である。殊に鐵道の發展するに伴つて航路は愈々衰運に向ひつゝある。只男鹿半島の南岸に位する船川港のみは、完全に風波を妨ぎ得るから、絶好の避難港として利用されてゐる。

陸奥灣岸 青森灣に臨む青森港は、北岸に於ける唯一の良港である。殊にこの港は本州と北海道との連絡点であるから、函館との間に鐵道連絡船の便がある。その連絡船は鐵道列車をそのまま搭載し得る装置になつてゐるから、東北本線の延長とみることが出来る。連絡船は鳳翔丸といひ、噸數三千五百噸。この外北日本汽船會社の船は、毎日一回青森、室蘭間約百十哩を航通して、本土と北海道との連絡をはかつてゐる。

- 指導要點
- (一) 良港少きため交通不便なること。
 - (二) 日本海方面は冬季波風荒く雪が多いためこの季節には船舶の交通は一層不便なること。
 - (三) 太平洋岸は海岸屈曲に富みながら、何故に大港市の發達をみないか。現在に於ける主なる寄港地はどこか。又それらの寄港地の中割合によい寄港地はどこか。
 - (四) 海上の交通が表日本も裏日本も共に不便なる地理的

空中交通教授案

空中交通は極めて最近に於て、異常な大發展を遂げるに至つたものである。しかも科學文明の進歩と共に、その發達は今後に於て益々顯著なものがあらう。全く世界は縮小され、十五日間に世界一週の新計劃さへ傳へられてゐる。従つて空

- 理由を考察させる。太平洋岸の航路については、砂濱ヤリヤス式海岸が港灣に適せざる理由を考察させる。又山脈が海に迫つた地は、内部との交通連絡が不便であるから、假令巨船の碇泊に便利でも發達しない理由を理解させる。日本海岸の航路については、港の自然的位置がよくとも氣候のために發達しないこと、又鐵道の發達が航通の生命を奪つたことを理解させる。
- (五) 氣候の交通に及す影響を考察せしむる。地理書四十八頁の「雪よけトンネル」の挿繪により、本地方の鐵道が冬季積雪のため被害をうける實例を説き、その障除くために多大の費用を要することを明かにする。
 - (六) 交通の便否が文化の發達に至大の關係を及す理由を明かにする。
 - (七) 青函連絡船に就ては、挿繪その他の繪畫類を利用して、その完成せる設備を知らせる。
 - (八) 實習として本地方の交通分布圖を作製せしむる。

中交通の取扱に當つては、教師は常に新聞雜誌に意を拂ひ、新教材の採擇に努めねばならない。而して航空思想の養成に努める。

實際例

教材 東京・大阪・福岡・蔚山・京城・平壤・大連各都市の取扱の場合に附帶的に取扱ふこと。
要旨 前記各都市間の空中交通に就いて授け、航空思想の養成に努める。

資料研究
(一) 日本航空輸送株式會社では、昭和四年より東京、大連線の航空輸送を開始した。次に定期航空要覽を示す。

定期航空要覽

定期航空 (旅客・貨物・郵便物共)

時		下	
東	京	大	連
(立川)	(木津川尻)	(木津川尻)	(木津川尻)
發	前	發	前
七・三〇分	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
後	後	後	後
二・〇〇分	四・三〇	一・〇〇	一・〇〇

表 (航休日曜日)

時		上		大		平		京		蔚		福	
日	同	大	平	京	蔚	福	大	平	京	蔚	福	大	平
(名島)	(太刀洗)	(蔚山)	(汝矣島)	(平壤)	(周水子)	(平壤)	(周水子)	(周水子)	(周水子)	(周水子)	(周水子)	(周水子)	(周水子)
着	發	着	發	着	發	着	發	着	發	着	發	着	發
後 一・三〇	後 一・三〇	後 三・四〇	後 三・四〇	後 五・三〇	後 五・三〇	前 七・二〇	前 七・二〇	前 八・四〇	前 八・四〇	前 九・一〇	前 九・一〇	前 一〇・四〇	前 一〇・四〇
*後 四・〇〇													

(大連時間) 前 二・〇〇分

間		表		(航休日曜日)	
日		同		同	
東 (立川)	大 (木津川尻)	福 (名島)	福 (太刀洗)	蔚 (蔚山)	京 (汝矣島)
着	發	着	發	着	發
後一・五	前二・〇	*前二・〇	*前八・〇		
後五・〇	後二・三	後二・〇	前二・〇	前九・〇	前八・五

旅		客		手	
東京	三〇圓	六五圓	八三圓	一〇五圓	一二八圓
大阪	三五圓	五五圓	七五圓	八八圓	一二五圓
福岡	一八圓	四〇圓	五五圓	八〇圓	一一〇圓
蔚山	三三圓	五三圓	六八圓	八二圓	一一〇圓
京城	一三圓	三三圓	四八圓	六三圓	八〇圓

註 * は水上機である。

荷		物		貨		金	
超過手荷物運賃	御一名十五キログラム(約四貫目)迄無料です	超過重十五キログラムまで	超過重十五キログラムまで	超過重十五キログラムまで	超過重十五キログラムまで	超過重十五キログラムまで	超過重十五キログラムまで
内地相互間及鮮滿相互間	同	同	同	同	同	同	同
内地と鮮滿相互間	同	同	同	同	同	同	同
平壤	三七圓	大連	二七圓				

貨		物		貨		金	
内地相互間及鮮滿相互間	一キログラム(約二百六十六匁)	每ニ	一	圓			
内地と鮮滿相互間	一キログラム	每ニ	二	圓			
各營業所よりの配達料	内(東京市内、立川町内)	四キログラム	二十五錢				
	内(大阪市内、福岡市内)	四キログラム	二十五錢				
	朝鮮及蔚山市内、京城市内	四キログラム	三十錢				
	滿洲(平壤市内、大連市内)	四キログラム	三十錢				

指導要點
(一) エヤ・ガールの出現。

通信教材教授案

(一) 空中交通の發達は如何なる理によるか。科學の進歩と時代の要求とによること。
(二) 汽車の時速と比較させる。

今日に於ては郵便電信の如きは既に國際的事業となり、電信は各大陸に普及し盡し、アフリカの如きには南北貫通の電線が布設されてゐる有様である。海底電線の如きも、各大陸島嶼を連絡してゐる。無線電信の利用の範圍は極めて廣い。尙最近飛行機の著しい進歩は郵便物の運送に使用せられるに至つた。何れにしてもかゝる方面の新知識に觸れしめることに努めねばならない。もとより通信界の發達は日進月歩の觀があるから、教師は常に新聞・雜誌に注意して、その移動材料の採擇に努むべきである。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方
要旨 關東地方(主として東京)の通信に就いて授くる。
準備 世界交通全圖、大日本全圖、關東地方地圖、愛宕山放送局の寫眞、放送プロ、航空郵便ポストの寫眞、航空郵便切手その他。
資料研究

(一) 海底電線は東京隈田川河口より起り、小笠原諸島の父島二見港に至り、そこで亞米利加合衆國の太平洋橫斷海底電線の支線に連續してゐる。
(二) 銚子無線電信局は明治四十一年五月に開設されたもので、主に米國航路の船舶と通信を交換し、船橋無線電信局は布哇を経て米國と通信を開いてゐる。船橋局は海軍省の所屬だが、一定時間を限り公衆の通信をも取扱ふ。
(三) 放送用私設無線電話は時事、講談、音楽等を放送す

るもので、東京芝區愛宕山に設けられ、局名を「O・A・K」といふ。大正十四年三月二十二日より放送開始で、電波長は三百七十五米。放送區域は關東地方及び山梨・長野・靜岡各縣の一部並に東京市を中心として半径百六十基米の圓内にある海面と制定されてゐる。

(五)東京から中國への電話は從來大阪中繼によつて通話されたものであるが、近來通話が著しく増加してきたので、昭和五年九月十一日より東京廣島間約五百七十哩の直通電話が開通した。通話も從來に比してより明瞭で、待合時間も減じてゐる。

航 空 郵 便	料 金	
	普 通 郵 便	特 殊 郵 便
書 狀	重量四匁又はその端數毎に	八 錢
葉 書	往復返信各別	八 錢
往復葉書	(往復返信各別)	八 錢
無封書狀	重量十匁又は其端數毎に	十 七 錢
封緘葉書		十 八 錢
第三種	(新聞雜誌等) 重量二十匁迄	二十五錢五厘
第四種	(印刷物寫眞) 同	二十七錢
第五種	(農産物種子) 同	二十六錢
小包	内地相互間 一圓十二錢	内地と朝鮮
普通	一圓十八錢	朝鮮相互間
留書	一圓三十錢	朝鮮滿洲相互間
速達	一圓四十錢	内地と朝鮮滿洲相互間
航空	二圓四十五錢	

(六)東京の某新聞社では、總選舉の結果の號外を飛行機で或は松本地方へ、仙臺地方へ、大阪では福岡へ運んで賞讃を博した。

(七)遞信省燈臺局が船舶事故防止のため、野島岬(千葉縣)、鹽屋岬(福島縣)、金華山(宮城縣)、尻矢岬(青森縣)の四燈臺にラヂオステーションを設置した。

(八)最近ドイツ政府から我國に歐亞の空を連絡する定期郵便を開始した

いと申込んできた。我國は上海から香港なり、シンガポール迄延長することは航空上國際通信上極めて有意義とみためドイツに對し計畫案賛成の旨を答へた。その實現も近いであらう。

(九)郵便——郵便局の數は東京府の約四百を第一とし、その數は大略一千二百に近く、その數によりても郵便事業の狀態を知ることが出来るのである。

電話——本地方に於て發着する電報總數は一ヶ年約二千

八百萬通にして、全國總數の約四分の一に上つてゐる。

指導要點

(一)郵便、電話、電信は何れも東京を中心として各地に通じてゐることを知らせる。

(二)都邑の發達と通信との關係について考察させる。

(三)東京放送局の放送狀態を略説する。

(四)通信機關は人類生活上に如何なる關係を有してゐるかを考察させる。

政治都市教授案

政治都市はすべてその地方の文化の代表的表現をなしてゐる都市とみることが出来る。勿論その中には例外もあるが、例へば廣島とか仙臺とか金澤とか福岡とか、之等府縣廳の所在地は一地方文化の中心をなしてゐる。従つてこの政治都市の特徴を四周の關係などから吟味することによつて、該地方の文化を理解させることも出来る。從來の教授の如く、縣廳所在地なりと施行的に授けて能事畢れりとなすことはよろしくない。例へば政治都市がその地方文化の代表的都市でないとしても、それが政治都市たるためには何等かの歴史的理由がおかれてゐるものである。故にその點に對する理解も與へなければならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方

要旨 政治都市としての靜岡に就いて授くる。
準備 中部地方都邑分布圖、靜岡城(駿府城)淺間神社の寫眞。

資料研究

(一) 静岡市は東京驛より一一九哩の地點にある。安倍川下流の左岸に位し、北に今川義元の居城であつた賤機山がある。昭和四年十月末の推計人口は十四萬八百である。徳川家康隱退の地であり、幕末徳川家達七十萬石の舊城下である。

(二) この地は東海道に沿ひ、古來より交通の要衝を占めたのみでなく、現時は鐵道東海道線の一驛である。

(三) 縣廳、旅團司令部、高等學校等が集り、縣下に於ける政治、學術の中心をなしてゐる。又東方に清水の良港を控へ、縣内物貨の大集散地である。市の特産としては漆器、竹細工、山葵等を産する。

(四) 静岡城は市の中央にある。家康隱退後はこゝに居城

大都市教授案

大都市の存在なり活動は、直接間接に國家全體に關係し、從つて吾人の生活に密接なる關係を有するものとみななければならぬ。都會と各地方とは、最も密接な相互關係にあり、その影響し合ふところも大きい。故にこの大都市の活動状態を知悉するといふことは極めて緊要なることに屬するのである。又大都市は世界各國との國際關係にも甚大なる影響を有するものであるから、之を世界的な見地からみる必要もある。尙この大都市については大體次の諸點に着眼して取扱ふがよい。すなはち先づ發達の沿革、その位置地勢及び氣候との關係、人口戸數の増減、商工業發達の狀況、交通發達との關

し、大御所の名を以て天下に號令した地で、當時に於ける天下實權の府であつた。現今縣廳を初めとして裁判所、市役所、稅務署、學校、兵營などは何れもこの城趾内にある。
(五) 市の北方賤機山の麓には有名な淺間神社がある。静岡公園はこの境内の一部である。
指導要點
(一) 先づ既習の都邑について、一應整理させる必要がある。
(二) 静岡市が徳川幕府時代より政治、交通の中心地であつたことを考察させる。
(三) 郷土より静岡市へ行くには、如何なる鐵道線を経由するか、時數は、運賃は、などを旅行案内によつて調査させる。

係、内外國際の狀況、特殊的設備、市民の生活狀況、都市將來發展の要素、以上の諸點に着眼して取扱ふのである。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方 五 都邑

(東京)

要旨 東京市の現状とその發達の原因に就いて知らせる。

準備 關東地方地圖、東京市擴大地圖、東京に關する繪畫、寫眞の類。

資料研究

(一) 東京府の東部に位し、東京灣に臨む。日本帝國の首府であり、世界第三の大都會である。面積二四、三二四、八九九坪、人口二、二九四、六〇〇。山の手と下町とに分れ、下町はかつて海底であつたものが陸化した沖積層よりなる。東京市は江戸氏の居館のあつた寒村であつたが、長祿元年太田持資この地に築城以來榮え、天正十八年徳川家康こゝに居城を定めてから、遂に今日の世界的大都市として發達するに至つたものである。

(二) 東京は政治の中心地である。宮城は市の中央に位し、舊江戸城である。内閣、宮内省、樞密院、その他内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、鐵道の各省があり、又立法府たる貴族院、衆議員、大審院、行政

裁判所、會計檢査院、各國大使館、中央氣象臺がある。

(三) 軍事上の中心地である。陸軍省、參謀本部、教育總監部、元帥府、軍事參議院、海軍々令部、東京衛戍總督、近衛、第一兩師團司令部がある。尙陸海軍大學校、陸軍士官學校、陸軍砲工學校、陸軍歩兵學校、陸軍騎兵學校、陸軍工兵學校、陸軍戸山學校などがある。

(四) 東京は學藝の中心地である。小學校(二二二)小學校に類する各種學校(四四)、盲及聾啞學校(五)、師範學校(二)、中學校(二八)、高等女學校(三九)、實業學校(三四)、實業補習學校(六五)、專門學校(四〇)、高等師範學校(一)、女子高等師範(一)、臨時教員養成所(二)、高等學校(一)、大學(一一)、その他の各種學校(二六八)。

(五) 東京は經濟上の中心地である。日本銀行、日本勸業、興業、第一、第三、第十五、三井、三菱、村井、安田の大銀行あり、日本郵船、東洋汽船、南洋商船、東京灣汽船等の會社は内外各地に航行して物價の集散を圖つてゐる。丸之内のビルディング街には各會社櫛比し、商業區域たる下町には三越、白木屋、高島屋、松屋、松坂屋、丸善などの大百貨店があり、毎日數萬の顧客を吞吐する。

(六) 東京は全國交通上の中心地である。全國の道路及び

鐵道は皆東京に發してゐる。

市營電車 (昭和三年)

車數	現業者	停留場
東京	一、六三〇	七、八九三
大阪	七三九	四八五

市營乘合自動車

車數	乘車人員	里程
東京	五七二	五五、二八六、七〇七
大阪	一六二	一三、五〇二、一四七

郊外主要電氣鐵道 (昭和四年)

線路延長	乘車人員
東武鐵道	四二六、〇六
小田原急行鐵道	一四四、一六
京成電氣鐵道	九〇、四八
西武鐵道	五七、二四
武藏野鐵道	六三、四四
京王電氣鐵道	四六、三三
京濱電氣鐵道	三六、一六
青梅電氣鐵道	三〇、四八
玉川電氣鐵道	二六、三二
目黒蒲田電鐵	二七、一六

王子電氣軌道

一、九六四	二、四、五七五、六〇四
城東電氣軌道	一、七七八
池上電氣鐵道	一、五、四八

市内鐵道驛乗降客 (昭和三年)

乗客數	降客數
東海道本線	六六、六六三、一八四
中央本線	四四、九〇二、六八七
東北本線	三〇、七六一、六三五
總武線	五、八三七、七六二
東武線	四、七〇六、二一五

乗降客第一位數は新宿

全國主要驛鐵道乘車人員昭和二年度の一日平均は、新宿(中央線)六〇〇一一、東京(東海道線)五六二八二、上野(東北線)三八〇六四、新橋(東海道線)三〇三三四、大阪(同上)二八二三〇、品川(同上)二三五〇六、京都(同上)一七八二〇、中野(中央線)一六三八九、横濱(東海道線)一三三二四、名古屋(同上)一三二〇六、日暮里(東北線)の順位になつてゐる。

新宿現時の一日乗降客は三十萬人以上に上り、深夜の二時間を除く外絶えずその地下道に乗客の波が渦巻いてゐる。而もこの新宿が東京市外であるから、以て如何に東京

市中の人口の飽和状態にあるかと判る。

東洋唯一の地下鐵道

昭和二年以來の東京の淺草、上野、萬世橋間の地下鐵道は、全長二、三四哩九分五十分である。料金は十錢均一で、紐育最新のターンスタイル turnstile に十錢白銅を投入する。切符はなく人件費に於て三分の一を要しない。日に二百五十人乗の全鋼車片道三百二十回走る。昭和七年には神田驛まで延び東武鐵道と連絡する。車室は間接照明で最新式の設備である。

上野驛前に地下道

目下建築中の上野驛前廣場には、既に立派な地下道が建設され、驛の竣工と同時に驛前廣場は絶対に歩行を許さず、凡て地下道による事となる。上野公園銅像下の地下鐵乗場より車坂に至る延長五百米の地下道で、この中途から新上野驛へ達する横斷地下道が四方に開け、合計一キロメートルに及ぶ。地下商店街は我國最初のもので東京新名物である。

(七)東京は遊覽施設の完備した大都市である。淺草、日比谷、上野、芝、隅田の大公園を初め、神宮外苑には大野球場、運動競技場あり、その他有名な泉岳寺、寛永寺、増上寺、靖國神社、明治神宮などがある。娛樂場としては淺

草公園の映畫、演劇場數四十を初め、帝國劇場、歌舞伎座、東京劇場、新橋演舞場、武藏野館、松竹座、帝都座などをべて華麗を極めた大劇場である。

(八)その他の新教材

(イ)東京には青山、澁谷、三田、大工町、柳島、日暮里、三ノ輪、中之郷、上野下、大塚(女子)、猿江町アパートなど合して二千餘戸、正にアパート時代。

(ロ)築地河岸の東京市中央卸賣市場は明後年秋の竣工。これは現に世界一と稱されるロスアンゼルス(ロサンゼルス)の食料品市場を遙かに凌駕するものである。

(ハ)大東京實現の準備調査として十五區八十四の町村の人口は、昭和四年末に於て五百十九萬餘人。次に五大都市を比較する。

東京	面積(坪)	人口
東京	一七二、八四八、七七二	五、一九三、八三九
大阪	六三、四三九、四二八	二、四七七、五四四
京都	八四、一二九、〇九三	九六一、一一六
横濱	四八、二六四、六六〇	六七七、五六五
名古屋	四九、二三六、〇〇〇	一、〇三一、五二〇

(二)大東京圏内の近郊人口は震災後五ヶ年間に百萬の増

加、東京市内夜間は二百二十二萬人、市外は二百六十六萬人、晝間は市内二百九十七萬人、市外は百九十六萬人。

指導要點
(一)東京が日本第一の大都會たる原因を次の諸點から考察させる。

- (イ)日本第一の平野を控へてゐること。
- (ロ)東京灣に臨み、水陸交通の便があること。
- (ハ)日本のほぼ中央にあること。

商業都市教授案

商業都市は概して天産物の豊富なる地に發達するものである。しかし商業都市の中には、生産都市でないものもある。この種の商業都市は、交通の至便なるため、或は政治的な關係によるものである。故に商業都市の取扱に當つては、その物産集散の交通に關する方面を重要視しなければならない。その都市の現時の活動状況を具體的に知らしめることは言ふまでもなく、その都市發展の將來に就ても考察させることを必要とする。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方
要旨 商業都市としての金澤の現況を知らせ、その發達原因を考察させる。
準備 中部地方地圖、中部地方都邑分布圖、兼六公園の寫

- (ニ)政治的樞要の位置を占めること。
- (ホ)太田道灌、徳川家康と人文方面。
- (ヘ)教育上の中心地たること。
- (ト)經濟、軍事、交通上の中心地たること。
- (チ)娛樂的都市たること。
- (ニ)東京灣の防備。
- (三)東京に就いて兒童が見聞したことを各自に十二分に發表させる。

眞、九谷焼及び金澤塗の實物。

資料研究
(一)金澤市は東京上野驛より二九三哩の地點にある。加賀平野に立ち人口十五萬六千四百、北陸第一の都市である。東側に山を負ひ、北西南の三面は豊饒なる稻田に連る。前田氏百二萬石の舊城址で、その城址は市の中央に位し、今

は第九師團司令部の所在地である。

(二)東南越中との國境から流れる犀川及び淺野川は市中を貫き、市街は丘陵地と低地よりなつてゐる。

(三)本市には縣廳、地方裁判所、醫學專門學校、高等學校、高等工業學校等悉く備り、北陸地方の政治及び文教の中心地をなしてゐる。

(四)工業盛大にして羽二重、絹織物、陶磁器(九谷焼)、漆器(金澤塗)、硬質陶器、銅器、精酒等の産額多く、今や本市は一大商工業地と化し、生産額五千六百萬圓に上る。

(五)金澤市は北陸線の一要驛であるばかりでなく、西北海岸の金石町には電車を通じ、又七尾港には鐵道七尾線を開いて海陸交通の連絡を圖り、交通運輸は北陸地方稀にみる利便さである。

(六)日本三公園の一に數へられる兼六公園は舊城址の東

工業都市教授案

我國に於ける四大工業地區は、東京、横濱を中心とする地方、名古屋を中心とする地方、大阪、神戸を中心とする地方及び北九州である。何れにしても工業都市の取扱に於ては、先づその發達の原因を兒童自身に考察させることが大切である。次には福岡縣の工業都市たる八幡に就いて一例を示してみる。

實際例

學年 尋常第五學年

南にある。前田侯の庭園を拓いたもので、面積は約三萬坪、樹木林泉の配置そのよろしきを得。雅致を極めたものである。兼六とは、宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼ねる意である。

指導要點
(一)既習の都邑に就いて一應整理せしむる。もとより金澤市に關する事項のみを整理する。

(二)金澤市が商工業都市として發達したる原因を考察せしむる。政治、交通、工業、歴史上よりその原因を考へさせる。

(三)金澤市と郷土との關係交渉に就いて考へさせる。旅行案内によつて、郷土より金澤に至る哩數、時間、運賃などを調べさせる。

教材 尋常小學地理書卷一 第八 九州地方
要旨 八幡市の現況を了解させ、工業發達の原因を考察させる。

準備 九州北部工業地帯圖、製鐵工程系統圖表、九州地方都邑分布圖、挿繪の擴大圖。

資料研究

(一)八幡市は洞海の南岸に位して小倉市の西方約二里のところにある。戸畑、若松の二市と相鼎立してゐる。人口は十四萬一千九百。

(二)本市は元枝光外二寒村を合併したものであるが、明治二十九年官設製鐵所の設立されて以來急速に發展した大工業都市である。

(三)鹿兒島本線は製鐵所の外柵に沿ふて走ること約二哩次驛枝光に達するまでには大小幾多の煙突から吐出す煤煙によつて、列車の窓は堅く締め切らねばならぬ。全く八幡の空は常に白日がなく、夜は満天爐より出づる火炎に燃えて一種凄壯の感をいだかしめる。

(四)挿繪の説明。鉄鐵五十八萬噸、鋼材六十五萬噸を産する大工場で、その廣さは一里を超え、構内軌道は二十里に達する。原料は支那の大冶、朝鮮載寧等から取寄せる。

(イ)稍中央の黒い大きな建物は硫酸工場である。

(ロ)圖を二分し、向つて左側の中央に二本の黒き煙突がみえる。その下方の平き細長き建物は鍛冶場である。

(ハ)その向ふの、矢張り細長き建物は、コークス爐である。

(ニ)コークス爐の後方に、二本並んで立つ煙突、これは熔鐵爐の煙突である。

(ホ)その後方の高き大きな建物は熱氣爐。

指導要點

(一)八幡市は製鐵所によつて發達した都市である。急速なる發達をなしたこと。

(二)八幡市に製鐵所の設立された理由。

(イ)石炭(三池萬田炭坑を近くに有するため)即ち動力が極めて豊富なること。

(ロ)人口が稠密し、勞力が十分なること。

(ハ)附近に良港が多く、運搬に利便なること。

(ニ)原料を産せず、市場にも幾分遠いが、原料の産地及び製品の市場としての支那に對しては最も近いといふ便利があること。

(三)既習の各工業都市と比較させ、八幡市の特性を十分に考察させる。

鑛山都市教授案

鑛山都市は、概してその鑛山のために發達したものである。こゝに都邑と産業との密接なる關係を想察させねばならぬ。又鑛山都市の取扱に於ては、その理解を如何に具體的ならしめるかに注意しなければならない。直觀方便物を蒐集すべきことは云ふまでもなく、教師はその説明を具體的ならしめることを考究しなければならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方

要旨 小坂町(小坂鑛山)の現況について知らせ、その發達の原因を考察せしむるにある。

準備 奥羽地方産業分布圖、鑛物標本。

資料研究

(一)秋田縣鹿角郡の西北部米代川の支流である、荒川の
上流地方に位してゐる。小坂町の人口は約一萬三千、その
大部は鑛山關係によつて衣食してゐる。

(二)小坂鑛山は文久二年の發見になるものであり、南部藩の事業として發掘したが、明治三年に官業に移り、更に同十七年に藤田鑛業會社の手に歸した。最初は經營困難であつたが、後次第に盛況に向ひ、明治四十一年一月、露天掘を始め以來著しく發展するやうになつた。現在ではそ

の産額も増加して、金、銀、銅を合して約一千萬圓を超へる。

(三)小坂鑛山の鑛床は第三紀層の中にあつて、黒鑛と稱する特殊の鑛石である。この黒鑛は精鍊することに至難なものであつたが、自熔製鍊法といつて鑛石中に含有する硫黃の酸化作用から生ずる熱を利用して鑛石を熔解する方法を完成し、又大規模の露天掘(杭を掘らずに土地の表面から掘り下げて行く方法)を採用したことは我國採鑛法に新例を開いたものである。最近は更に高壓熔鑛法を試みて、不老倉その他の鑛山からも鑛石を取りよせて製鍊してゐる。

(四)挿繪の説明。離森公園から北に向つて小坂の町の南部を見下した光景である。

(イ)向つて右隅の小山の頂上にみえる白い煙突は、第一熔鐵爐の煙突である。

- (ロ)その小山へ向ふ側の煙りは、亜鉛鑛精鍊所の大噴煙である。
- (ハ)丁度圖の中央の奥にみえる煙突は、第二號中央煙突である。
- (ニ)第二號中央煙突の下の建物は、工作所である。
- (ホ)川は小坂川である。
- (ヘ)川を渡つて左隅にみえる建物は、鑛山病院である。
- (ト)向つて右隅の小高い道路は山手通りで、役宅が多数。

貿易都市教授案

我國の貿易都市として代表的なものは、横濱、神戸、門司、敦賀などである。これらの貿易都市を取扱ふ場合には、先づ地勢のその都邑の發達に密接なる關係を有することを明かにする。地勢としては、その背景に大なる平野を有するとか、大消費地を控へてゐるとか、交通が至便であるとか、輸出品の生産地を控へてゐるとかに着眼すべきである。又港灣としての設備に關しても之を明かにする必要がある。尙輸出入の中その何れがより頻繁なるかをも明瞭に了得せしめねばならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方

- (チ)前方の二階建の建物は小學校。
- (リ)向つて左下隅より奥に向つて走つてゐる單線は、鑛山専用の電車である。

指導要點

- (一)鑛山についての概観とその概念。
- (二)鑛石の種類を實物について知らせ、その採掘法を具體的に説く。
- (三)製鍊所と製鍊の方法を大略話す。
- (四)産額、用途、販路を明かにする。

要旨

貿易港としての横濱に就いて授くる。
準備 關東地方地圖、關東地方都邑分布圖、横濱港圖、横濱外人街、横濱税關の寫眞。

資料研究

(一)横濱は東京より十八哩の地點にある。我國第一の開港場で東京灣に面する。昭和三年來の人口は次の如くである。

總數 五六五、三〇八

男

女

日本人 二九三、六三九 二七一、六六九 五六〇、三二七

外國人

四、九八一

(二)西に神奈川臺、伊勢山、山の手などの丘陵を負ひ、東北横濱灣に臨む、面積二方里半。臺地は住宅地で、低地は商業地として繁榮してゐる。

(三)本牧岬より鶴見川に至るまでを港區とし、その内に防波堤を築き、港内は岸壁、棧橋、倉庫、鐵道との連絡、船渠等の設備完成してゐる。

(四)政治機關として税關、神奈川縣廳、正金銀行、各國領事館等があり、又高等商業學校、高等工業學校等の教育機關がある。横濱公園、野毛山、伊勢山、掃部山等は市民の慰安地である。

(五)横濱今昔物語 横濱は寂莫たる一寒村であつた。幕末伊井大老が締結した安政五年六月十九日の通商條約によつて翌六年より開港場となつた。ところがその條約をみる

と、神奈川を開港する事になつてゐて横濱を開く事になつてゐない。それが横濱を開くに至つたにはかういふ事情があつた。神奈川は東海道の一宿驛で、江戸へ往來する者は上は勅使より下は雲助、馬方、胡麻の蠅に至るまでこの地を通過しなければならなかつた。故に攘夷熱の熾んな時、こゝに外國商館が立並ぶと如何なる椿事が起るかも知れない。そこで幕府は頭を絞つた末、從來の目につかない隣接の横濱を開港することにした。ところが外國公使連中は、之を以て條約違反なりとて抗議した。幕府は之に對し「神奈川とはこの地方の總名で、横濱はその一部分の村名」だから、條約違反でないといふ答辯をなした。しかし外國公使連中は、之はこじつけどといつかな承知しなかつた。然るにその實際の有様をみると、神奈川は土地も狭く海も淺く、とても横濱の比でない事が判つた。ために外國商人等は横濱の開港を熱望して公使に反對した。即ちこゝに足元から火のついた公使は、横濱開港を承諾するに至つたのである。

横濱は明治二十二年初めて築港工事を起し、同二十九年迄に約二百三十五萬圓の工費を投じて防波堤と棧橋を作つた。更に明治三十二年から大藏省直營の築港工事を起し、工費約二百三十萬圓を投じて第一期の擴張工事を始め、同

三十八年に竣工した。この年の二月當時世界第一と稱された巨船ミネソタ號が入港しようとした。その來航に先立つて米國の大北汽船會社より我が郵船會社へ横濱港はミネソタ號を入れ得るやと問合せてきた。當時の横濱港の最深は二十七呎であつたから、噸數二萬一千噸、吃水三十三呎二時のミネソタ號は遺憾乍ら入港の見込がない。しかしその前年露國に連勝し、旅順を開城せしめて間のない時である。入港せしめ得ずとは意地でも云へない。郵船會社は意を決して「入港し得」と返電した。かくて晝夜兼行の大急ぎで港の一部を浚渫してミネソタ號の來航を待ちうけた。その浚渫費は七萬二千圓である。

明治三十九年には更に工費八百七十七萬圓を以て第二期の擴張工事を初め、大正六年に竣工した。その爲二萬噸級の巨船も樂々と横着けされるに至つた。明治四十三年に港灣調査會が全國港灣を分類して横濱を第一種港と選定した。因に第一種とは國家がその經營に當るべき港灣である。かくて大正十年内務省は新に第三期横濱工事の計劃を立て、工費約千三百四十五萬圓を以て十ヶ年の繼續事業として今の神奈川側防波堤の内面に繋船岸壁などを作る事にした。然るに大正十二年九月の大震災火災によつて未曾有の大損害を蒙り、鋭意その復興策を講じなければならぬこととなつた。

た。

(六)各種統計表

外國貿易 (昭和三年) (單位千圓)

輸出 七四二、二九六 輸入 六一四、五四三

出入貿易船舶

出港 入港

内國船 一、五二〇隻 一、五九〇隻

外國船 五、二二八、〇七一噸 五、三三二、六一〇噸

一、〇一三隻 一、〇六三隻

四、九四二、七三二噸 四、九五八、五八五噸

大陸貿易價額 (昭和三年)

輸出 輸入

總計 七四二、二九六、一二八 六一四、三四三、二二八

亞細亞 七一、三八九、八七九 一六七、八四四、三二六

歐羅巴 七六、三四四、八三六 一三八、一六〇、二四五

北米 五六九、九〇四、七七二 二四五、三一八、八三四

南米 七、〇〇九、三八八 三、一八五、八一九

亞非利加 五、五三九、八四三 一三、一六二、八八二

大洋洲 一一、一〇七、四二二 四六、三七五、一四〇

假置場 二五九、七六九

不詳 三五、二一三

指導要點

- (一)港内が廣く且つ深く、天然の良港たること。
- (二)防波堤、棧橋、繋船岸など、港としての設備が整つてゐること。
- (三)首府東京と近く、東京の咽喉をなし、相俟つて繁榮してゐること。
- (四)背後には關東地方、中部地方等の産業が盛んに經濟的に發達してゐるところを持つてゐること。
- (五)陸上の交通が頗る便利なること。
- (六)外國に對する位置からいつてもよい。殊に對岸に北

交通都市教授案

交通都市とは、例へば下關、門司、尾道、多度津、青森、函館、小樽、大泊、釜山、仁川、大連などの如く水陸交通の連絡點に位してゐるやうな都邑を指すものである。交通都市の取扱に於ては、先づその都邑の發達と交通との關係を明かにしなければならぬ。次には主要鐵道及び航路を了得させることに努むべきである。尙最後にその都邑の將來の發展に就いて考察せしむる必要がある。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第六 中國地方

要旨

交通都市としての下關市に就いて授け、如何に交通がその都邑に影響するかを考察させるを以て要旨とする。

米のあること。

- (七)内外汽船の出入のはげしいこと。
- (八)貿易が頻繁に行はれてゐること。輸出が主なること、之が横濱の特徴である。
- (九)生絲、羽二重は主として横濱からアメリカ合衆國、フランス、イギリス等に輸出されること。
- (十)輸入品は鐵、線綿、羊毛などで、鐵、線綿は大部分アメリカ合衆國から來る。
- (十一)大震災の打撃と復興の有様。
- (十二)横濱と大阪神戸の比較。

資料研究

(一) 東京を距る約七〇四哩の地點にある。昭和四年十月の推計人口は十萬四千である。舊名を赤間關或は馬關ともいふ。對岸九州の門司市との間は、僅かに六町弱の下關海峡を以て瀬戸内海の西門を扼してゐる。市の發達は實にこの天與の位置に基づくものである。

(二) 交通市としての下關 鐵道山陽線の終點に位し、九州の門司市と對する關門及び朝鮮釜山に對する關釜連絡船の便があり、眞に水陸交通の要衝といふことが出来る。關門連絡船は一日四十六回往復する。外に貨車航送船が一日數回往復してゐる。

(三) 商業市としての下關 内國商業では廣島市に次ぎ、外國貿易では綿絲、綿布、精糖等の製造品を輸出し、精糖、米、麥粉、豆類等の製造原料品及び食糧品を輸入する。

(四) 軍事市としての下關 頗る樞要の位置にあるので重砲兵第二旅團司令部がおかれ、本海峡警備の任に當つてゐる。

(五) 挿繪説明

◇下關海峡で貨物列車を運ぶ汽船 本州九州間の夥しい貨物を一々積みかへることは非常な手数がかかるから、貨車のまゝに船に乗せて運ぶのである。圖の船は貨車七輛

を乗せてゐる。船の進行は普通の汽船の如く推進機で動くのでなく、船の兩側に車があつて、その廻轉によつて進むのである。その車は中央にみえてゐる。故に船には頭尾の區別がないわけで、車の廻轉方向によつて何れにでも進行する。船の上の軌道と陸上の軌道とは巧妙な仕掛で接続し、潮の干満等による水位の變化を調節する。

◇關釜連絡船 これは下關港の關釜連絡船専用棧橋に連絡船の繋がれてゐる有様である。向つて右の隅の細長い塔のやうなものは信號塔である。これより右手の方が關門連絡船用の棧橋となつてゐるがみえない。大きな二隻の船の船名は明かでない。しかし景徳丸、徳壽丸、昌慶丸の中のどれかにかがひない。之等は何れも三千六百餘噸の新式船で、船内の設備が完備してゐる。船は棧橋に横付けになるので、決してランチなどで連絡をとる必要はない。何時乗つたか分らぬ間に、發船する。向つて左隅に小高くみえるところは日和山である。この山の左手の方を廻つて山陽線列車が走る。こゝで兒童の陥り易い誤は、下關の南の方に門司があると思つたり、山陽線の汽車は西に向つて下關に着し、左手が海岸であると思つたりすることである。實は下關は西に門司は東にあつて東西相對しており、山陽線の汽車は下關の北方を西から廻つて東方に停車し、右手の

方が海岸になる。この附近の廓大圖を示して誤解のないやうに注意しなければならない。

指導要點

(一) 連絡船の任務と便利。下關門司間は連絡船によつて

十五分間内外を要すること。

(二) 下關市は海陸交通上の要地であるばかりでなく、また軍事上の要地たること。

(三) 既習の青函連絡船と聯絡をとる。

遊覽都市教授案

遊覽都市は、國民生活の文化的推移につれて近年著しく各地に發達してゐる。例へば箱根、鹽原、伊香保、輕井澤、日光、須磨、明石、別府をはじめとして、これらは房總半島の海岸、相模灣の沿革、須磨、明石の附近、南海線の沿岸にその發達をみてゐる。これらの都市の發達は國民生活の反映ともいふことが出来るものであり、又國土の善美を語るものでもあるから、遊覽都市の取扱も決して輕視してはならない。遊覽都市の取扱に於て注意を要するところは、先づその名所舊蹟の由來を明かにすることである。中には名所舊蹟によることなく、全く風光の美のみを以て遊覽都市として發達したものもあるが、その多くは歴史的背景に富むものである。故にその史實を歴史科と聯絡をとつて明かにすることが大切である。次には保養遊覽地としての地理的條件を明かにさせる。之は申すまでもなく、如何に風光の美に富むところと云へ、地勢上交通に不便であれば、決して遊覽都市として發達する事は出来ない。故にその地理的關係を明かに考察させる。更にその遊覽の設備を明かにして、都邑としての特色を把握させねばならない。最後に遊覽都市の發達と大都市との關係を考察させることが大切である。何れの遊覽都市もその附近に大都市を控へてゐることを普通とする。大都市との交通が至便であれば、従つてその遊覽都市は發達する。畢竟遊覽都市は、都會生活者の消費地域たることを明かに了得させねばならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第八 九州地方

題目 四、都邑 別府

要旨 遊覽保養都市としての別府市の現況を知らせ、その發達理由を考察させる。

資料研究

(一)別府市の人口は約四萬五千百人である。別府灣頭に位し、後方に鶴見の秀峰を負ひ有名な温泉で、汽車、電車、汽船の便よろしく、港もかねてゐる。風光明媚にして氣候は溫和、實に無比の靜養地である。

(二)市内到るところに温泉が湧出し、九州、四國、近畿地方からはいふに及ばず、遠くは朝鮮、支那などからも浴客が来る。

(三)別府温泉とは別府その附近に散在する諸温泉の總稱で、別府、濱脇、觀海寺、鐵輪、龜川、芝石、堀田、明禁の所謂八大温泉はその主なるものである。

(四)別府の砂湯(挿繪) 砂湯は別府海岸の至るところにある。海底の砂の中から温泉を噴出してゐるので、干潮の際に砂を掘つてその中に横はる。身體に砂を蔽ふてゐると、地下から温められて非常に氣持がよい。濱脚附近の砂湯は

殊に名高い。圖の右の隅にみえる石垣は別府港の石垣であるから、別府港はつまりこの右側にあるわけである。腰をかきめて何か世話をしてゐるが如くにみえる婦人は湯女と稱し、砂を掘つたり、又砂をかけてやつたりする。この地は市の所有にかゝるもので、市はある特定の人に經營させてゐる。入浴料は十五錢乃至三十錢、但し貧困者は無料で入浴することが出来る。この砂湯は胃腸病、リユーマチ、子宮病などに特効がある。一年間の浴客数は十數萬人に上る。尙注意したいことは、これは彫刻が拙いので砂の中に入つてゐるところがはつきりとわからない。たゞ立つてゐる人物ばかりがはつきりしてゐるのは遺憾である。よく説明を加へねば、兒童は想像に困難を感ずることと思ふ。出來うべくば、砂湯の寫眞を蒐集することである。

指導要點

(一)風光明媚にして、氣候の溫和なること。

(二)設備の完成してゐること。

(三)交通の至便なること。

(四)福岡、廣島、大阪などの都邑を附近に有すること。

瀬戸内海の風光に負ふところも大きい。近畿地方からの浴客は、汽車便によらずして、瀬戸内海の遊覽船によつて別府に来る。

地誌教材指導案

地誌教材は別に兒童の直觀に訴へることなく、比較對照的取扱をなすこともなく、地理的現象の有機的關係よりも記憶方面に重點をおくものであるから、兒童の記憶力の養成といふ點に指導の要諦をおくべきである。また人事現象を取扱ふ場合には、努めて興味的、具體的に説話することを忘れてはならない。直觀方便物の蒐集を怠ることもよろしくない。尙歴史科と聯絡をとつて、兩々相俟つて理解を深化せしむべきである。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第五 近畿地方 四、都邑(京都市)

要旨 京都の地誌の一斑に就いて授くる。

資料研究

(一)京都盆地の北に位し、加茂川の清流に跨り、東西約一里、南北一里半、面積三、八七七方里。所謂山河襟帯の地で、桓武天皇の御宇延暦十三年都を奈良から京都に遷して平安京と改められて以來、明治の初年に至るまで實に一千有餘年の久しい間、我國文化の中心となり、又英雄爭覇の策源地となつた所。昭和三年の十月の人口は、七十三萬六千。

(二)京都は美術工藝の都市である。西陣織、友禪染、陶

磁器、刺繡、漆器、扇子等を産する。

(三)京都は地方交通の中心地である。古來著名の大道は本市を起點として四方に通じ、東に行くものは岐れて東海道、中仙道、北陸道の三となり、西南に向ふものは山陽道、西北に行くものは山陰道となる。電氣軌道としては、伏見八幡を経て大阪に至る京阪電鐵(一九哩)、嵐山電軌(四哩餘)、大津と接する京津電車(六哩)等がある。

(四)京都は歴史的都市である。北方には北山一帯の山嶺を負ひ、東には東山三十六峰を、西には嵐山、天王寺等の諸峯を繞らし、更に南は宇治川を隔て、奈良丘陵に續き、而もその中には清流、加茂川と桂川とが東西から平野をうるほして西へ去る。又過去千數百年に亘る我が王城の所在地だけに名勝、古蹟頗る多く、市の内外は名高き神社、佛閣で埋められてゐる。

(イ)古の平安京 平安京と今の京都とはその位置を稍異にする。平安京は東加茂川と西桂川との間に長方形に營まれたもので、中央を南北に通ずる朱雀大路を界とし、その東を左京、西を右京といふ。今の京都は平安京の左京に加茂川の東を加へた部分で、右京の部分は殆んど田圃と化し、名高き朱雀大路も今は千本通としてその面影を止めるにすぎない。

(ロ)京都御所 現在の御所は孝明天皇の御代、安政三年に造營されたもの。四周は長壁を以てし、東西百三十七間、南北二百四十六間、南正面の御門を建禮門、東西の門を建春門、西門せるは宜秋門、北面せるを朔平門といふ。中に紫宸殿、清凉殿等がある。

(ハ)二條離宮 永祿年間織田信長が築いたが、明智光秀の叛逆によつて焼拂はれた。その後荒廢に委せてあつたが、慶長の頃に徳川家光之を再築した。徳川家光が三十萬の兵を率ひて入京し、こゝに駐つて武威を輝かした事もある。今は宮内省の所管。

(ニ)平安神宮 明治二十八年京都市が平安神宮千百年祭を舉行した際、大極殿に模造して造營したもの。祭神は桓武天皇で官幣大社、毎年四月十五日官祭が行はれる。

(ホ)智恵院 法然上人の開基した淨土宗の總本山。開

山後幾度も火を發し、その都度灰燼に歸した。現今の佛殿、方丈、庫裡等は徳川家光の建立したもの。山門は日本第一の大門で、徳川家忠の建立、「華頂山」の大額は靈元天皇の御宸筆。本堂は梁行十九間、桁行二十四間、その廻廊の縁は鷹張りとして、左甚五郎の作と傳へられてゐる。

(ヘ)三十三間堂 三、三三三三の佛像がある。中央に本尊一體、左右に各五百體、併せて一千一體の觀音像を安置す。平忠盛が醍醐天皇の勅を奉じて建立した御堂である。

(ト)阿彌陀ヶ峯 豊太閤の英骨を埋めた所。徳川幕府三百年間は荒廢してゐたが、明治十一年太閤薨後三百年なるを機とし、豊國會を組織し、墳塋を治め稍舊觀を復するに至つた。豊國神社の後方平地を抜く四百尺の一丘陵で、數百の石階を上げれば五輪の大石塔に對する。

(チ)豊國神社 秀吉を祀る別格官幣社。その唐門は伏見城にあつたものを移した。維新前迄は僅かに一基の石碑のみであつた。

(リ)泉涌寺 四條天皇以來歴代の御廟所。寺は弘法大師の開基になり、後の山には孝明天皇、英照皇太后の御陵がある。

(ヌ)東本願寺 眞宗の本山で教如上人が慶長年間に徳

川家光の命により佛殿をこの地に建立したのである。蓋し家康が一向宗の横暴を怖れ、その勢力を二分するため本派より更に大谷派を別ち、寺を造營させたのである。現今の堂宇は明治二十八年に竣工したものである。西本願寺と共に同市繁榮の主要素である。

(ル)西本願寺 本派本願寺といふ。眞宗の大本山で我國宗教界の一大重鎮である。開祖は親鸞上人で、信徒の總數七百萬といふ。

(ヲ)北野神社 菅原道真を祀る官幣中社。北野天満ともいひ、村上天皇の御創祀になる。現今の本社は豊臣秀頼の改修になるもの。天満宮の巨額は後西院天皇の宸筆、社壇の大鏡は加藤清正の寄進として名高い。

(ヅ)嵐山 桂川の清流を隔てた小丘陵。この地の櫻樹は龜山上皇が嵯峨の仙洞におはせし時、特に吉野から移植させ給ふたもの。

地文教材指導案

地文教材の取扱に於ては、先づ教師自身地文學に對する研究を深める必要がある。兒童に與へる材料は専門的ならずとも、教師は餘程地文學に對する理解の度を高めておかねばならぬ。次に地文教材の取扱に際しては、その學習要具を出来るだけ多く蒐集すべきである。本曆、統計年鑑、理科年表、溫度計、濕度計、雨量計など、蒐集すべきものは數限りがない。

(カ)桃山 秀吉の築城した伏見城のあつた所。後桃村となつたからこの名がある。明治天皇及び昭憲皇太后の御陵の地。御陵域は前面七十間、奥行八十五間、面積約六千坪、その裏には大正三年四月十一日崩御遊ばされた昭憲皇太后の御靈柩を葬り奉る。又陵下には明治天皇に殉せし乃木大将を祀る乃木神社及び同夫人を祀る靜魂神社がある。指導要點

(一)以上列舉した事項を一々説明するとすれば、その實際は却々容易でない。故に實際取扱には參考書なり、讀物を與へて自由に調べさせるもよい。

(二)京都市の擴大地圖を用意し、その地圖と對照して地誌の研究をなさしめる。

(三)又京都市の擴大地圖をポールド紙に大きく描き、その地點に繪はがきを掲示させる。

指導要點

- (一) 多く復習時の材料だから總括的に學習させる。
- (二) 降雨の原因は理科に聯絡し、地方により雨量の差あるは既習學習上から推究させる。
- (三) 雨量の分布は分布圖を讀ましめて、その大數を把握

させる。

- (四) 最も大切なのは雨量の多少と人生活との關係である。大體雨量と産業、人の氣質、人口の多寡などの關係を利害兩方面より既習事項を中心に學習せしめて、これを歸納させ、その間に地人相關の理を了得させる。

挿繪指導實際案

挿繪を見せてそれに対する説明を與へる時機は、教材の性質によつて一概ではないが、大體本文の説明と併行して挿繪を取扱つて行くがよい。兒童が挿繪の内容に興味を持ち、或は疑問を有してその解決を欲してゐるのに、教師がその心意に觸れないことはよろしくない。兒童は學習の主流を離れて、挿繪にのみ注意を奪はれる結果となるからである。また挿繪の説明に適合する時機に至らないのに、不用意に或は教授進行の都合上から之に説明を與へることもよろしくない。何れにしても兒童の挿繪に對する興味、その心理過程を十分に洞察して、然る後挿繪を取扱ふべきである。尙挿繪は、之を單獨に簡單に通じ一片に片づけてはならない。漠然とした想像に訴へただけでは、兒童はその挿繪から實際を引き出すことが出来ない。時にはとんでもない想像をなしてゐる場合もある。故に挿繪は之を慎重に取扱ひ、挿繪と密接な關係を持つ各種の模型、標本、繪畫などもなるべく多く提示してそれを比較對照せしめ、確實に想像類推せしめ、確實に理解せしめることに努めなければならぬ。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方 二 産業

日立鑛山の挿繪

要旨 「日立鑛山の製鍊所」の挿繪を理解させるを以て要旨とする。

挿繪の説明

- (一) この挿繪は、該製鍊所の規模の宏大なることを知らせるを以て主眼とする。
- (二) この製鍊所は大雄院といふところにある。日立鑛山の本山は圖の左手の方約一里の奥にある。圖の左方にある家は労働者の住宅、圖中の建物中左手前のは事務所、その上部にあるのが鍊鋼爐、鍊鐵爐、熔鐵爐（これを第一熔鐵爐といふ）、右手にあつて大きくみえる建物は鐵索停留場及び鑛舎である。
- (三) 山の上に道のやうにうね／＼とみえるのは煙道、それから大煙突に續くのである。大煙突は、その高さ五一一呎、その基底の直徑は三五、五呎、口徑は二五、六呎であ

る。(どうしてこんな高い煙突が必要かを考へさせる)これは言ふまでもなく煙害をさけるためである。山は煙毒のためには全く禿げて一木もない。

- (四) 大煙突は大正四年三月三日より出煙したもので、それが基底海拔約五百米の山上にあるのだから、可成り遠方からもみることが出来る。従つてこの大煙突は大正七年以來海圖上に記入され、その位置は北緯三十六度三十七分十二秒、東經百四十度三十八分零秒にさだめられた。
- (五) ところ／＼網の目のやうになつてゐるのは、木の技を横へた砂防工事である。
- (六) 山の中腹にある太い煙突は古い煙突で、今日は不用に歸してゐる。その煙突は直徑六十尺、高さ百三十尺である。
- (七) 大煙突の實際を比較的想像させる。

異動教材指導案

地理教材はその大半が動的教材によつて占められてゐる。異動教材は日々刻々に變化して止まないものである。故に地理の異動教材を常に萬全に誤りなく授けるためには、教師の異動教材に對する注意が必要となつてくる。毎日の新聞に注意すること、之は云ふまでもない。經濟欄だけでなく、廣く社會欄にも目を通すがよい。新聞は經濟新聞を可とするが、二二三の郷土新聞をも集めるべきである。尙新聞は時にその數量に於て大きな誤謬をなすことがある。故に必ず二二三の新聞

記事と比較してその正確を知る程度の熱心さが欲しい。又経済界の動き、社会の動き、即ち大局を把握するために、信用ある新聞の社説や評壇に注意することも肝要である。而してその調査の結果は、之を切抜帳に保存するやうにしたい。この切抜は児童にも作業させて、學級新聞として學習材料に利用して行く方法をとる。もとより異動教材を調査するには、單に新聞だけでなく、經濟雜誌、官報、社會年報、年鑑類など廣く一般に注意すべきである。特に毎週水曜日の官報には、種々變つたことが發表されて地理學習上参考とすべきものが多い。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第四 中部地方 四 都邑

名古屋市

要旨 名古屋市の現況について授くる。

資料研究

(一)東京驛より二三哩の地點にある。往昔は那古野と稱し、人煙稀なる郊野であつたが、慶長十二年徳川家康の子義直を尾張に封じ諸侯に命じて名古屋城を築かしめてからは、東海の樞要に當り、今では中部地方第一の都會として發達するに至つた。明治六年には人口尙十三萬に充たず、四十年には三十五萬、大正九年の第一回國勢調査には四十三萬を算したが、十四年の第二回國勢調査の結果は一躍七十七萬の大發展をみた。

(二)更に昭和四年末の人口及び戸數は次の如くである。

	總數	戶數
東區	二四一、〇九〇	五〇、三六七
西區	一九〇、四六三	三九、八六二
中區	三三八、九二六	七五、一五六
南區	二三一、三五九	四八、七九二
全市	一〇〇一、八三八	二一四、一七七
(三)生産總額		
農産	三、九九、四〇圓	畜産 一、五七、四三圓
水産	一、七二、八六圓	工業 三、七、六〇、一〇七圓
計	四、〇四、九七、三六圓	
(四)貿易額		
	輸出	輸入
内國	四、九八、一三圓	二四、四八、八三圓
外國	五〇、〇三、四五圓	八五、〇八、四六圓
計	九、〇一、六三圓	二九、五三、三三圓

(五)諸車 (昭和五年三月末現在)

馬車	二、五一二	牛車	四四	荷車	二六、一六一
自動車	乗用 七三一	人力車	五九二		
	荷積用 二六一				
自轉車	乗用 二六八	計	一三五、五八三		
	荷積用 一〇五、〇一四				

實地見學指導案

實地見學は、之をなるべく頻繁に行つて、實地見學に對する學習態度を確立せしむべきである。實地見學を合理的に効果あらしめるためには、教師は學習前に見學場所の實地踏査をなし、見學要項を作製しておかねばならぬ。もとよりその見學要項以外に、児童の自由觀察をも許すべきは言ふまでもない。實地見學には博覽會、工場の見學、修學旅行、遠足、郷土に於ける各種市場の見學などの場合がある。尙實地見學に當つては、児童に前以て必要なる豫備知識を與へておくべきである。尙實地見學に要する學習用具をも十分に調査して、萬遺漏なきやう注意しなければならぬ。實地見學後の整理を缺くべからざること、今更いふまでもないことである。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 X X 工場實地見學

要旨 郷土の工場を見學させ、その地理的事項を理解させるにある。

備考

(一)異動材料は児童自身に調査させる。年鑑類、新聞、經濟雜誌、各種の新聞より切抜かせる。所謂作業學習をさせる。

(二)時間が餘れば、累年の異動を調査させる。而して如何なる速度で都市が膨脹してゐるかを悟らしめる。

準備 ノート、鉛筆、寫真器(教師用)、卷尺その他。

見學事項

- (一)工場各部見學。
- (二)分業的なることに着眼させる。
- (三)男女職工の仕事の相違。

- (四) 工場の位置その他。
- (イ) 裏に川の流れてゐること。川はこの工場にとつて如何に利用されてゐるか。舟楫の便、汚濁物の流失。
- (ロ) 川の對岸は草原で、煙毒の害も少きこと。燥音を立て、も附近に人家がないから差支ない。
- (五) 事務所の見學。
- (イ) 各種統計グラフ。

地理實習指導案

地理實習の意義に就いては、既に一般に明白なるものであるから省略する。實習の種類としては、圖上測定、分布圖の作製、統計グラフ、旅行案内による實習、實地觀察、模型製作などがある。次にはその一例を示してみる。

實際例

學年 尋常第五學年
 要旨 旅行案内による實習をなさしめる。
 實習要目

- (一) A地の交通系統を調べさせる。實習結果はノートさせること。
- (二) 郷土を中心として、鐵道線の名稱、起點、終點を調べさせる。
- (三) 郷土よりA地へ行くには、三等列車にて幾時間か、

- (ロ) 製作品はどの地方に送られるか。
- (ハ) 年度額を記帳させる。
- (六) 荷造工場の見學。
- (イ) 荷造仕上げ。荷札に注意。
- (ロ) 毎日何回づゝ如何なる地方に送られるか。
- (ハ) その他自由觀察。

り、その哩數は幾許か。又その運賃は各等如何。尙通過する主要なる都邑を挙げしむる。

- (四) 航路についても(三)と同様の實習をなさしめる。
- (五) 或る都市に旅行するに當つて、汽車、電車、自動車、飛行機、汽船の便否の比較。運賃、時間、などより比較對照せしむる。
- (六) 遠足旅行の計劃。これは實際に遠足、旅行させる場合に兒童に計劃を立てさせることもあり、或は假説旅行として計劃させることもある。郷土を中心として計劃を立て

させるのはいふまでもない。尙この場合は、最初、その日程、旅行費などを規定しておく。兒童は先づ主なる都邑を調べ、その遊覽物、或は觀察物を調べ、その遊覽、觀察に

要する時間なども考へねばならぬ。そこに汽車時間表との連絡をとることが必要となる。尙團體割引などは計算が面倒となり、算術科の領域に入るから之を省くがよい。

四 地理教授實際案

奥羽地方地勢教授案

地勢教材取扱上の主要點を簡単に述べる。

- (一) 山岳教材に於ては高度、走向及境界、傾斜及分水界、斷續、植物分布、山岳成因の諸點に主眼をおき、之を他の要素と聯絡させる。
- (二) 平野教材に於ては、その廣狹、地質と地味、地形と勾配、天産物、平野と文化との關係に着眼すべきである。
- (三) 河川教材に於ては、水量の多少、水流の緩急、河流の方向、流域の廣狹及生業、水産の有無に主眼點をおく。
- (四) 湖沼教材に於ては、その位置及高度、その面積及水深、水質及魚族等に主眼をおき、その人生と關係するところを推究させる。
- (五) 海岸教材に於ては、海岸線の長短及屈曲、海岸の地形と深淺、海底の状態、港灣の有無良否、後方平野の狀況等を明かにし、その他の地理的要素との聯絡關係を考察させる。

實際例

教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方 二 地勢

要旨

本地方の地勢の特色を明かにしてその人文發達に及ぼせる影響を悟らしめる。

準備 奥羽地方地圖、同地勢地圖、奥羽地方断面圖。

資料研究 (略)

指導方法

(一)兒童に自由に學習計畫を立てさせる。但し左の注意を要する。

(1)地勢上の特色を中心として學習計畫を立てさせる事。讀圖によりて地勢の大觀を會得せしむ。

(2)教科書を熟讀玩味せしめ、地圖との對照を忘れぬ様に。教科書及參考書の板書は不可。

(3)學習計畫の立たぬ者には暗示を與へる。

(二)机間巡視をなし學習過程の檢閲及指導。

臺灣地方氣候教授案

氣候教材の取扱に於ては次の諸點に注意する。

(一)緯度、海流、地勢及び風向、水陸の分布などと氣候との關係を考察させる。

(二)地圖を利用し、殊に等溫線圖、雨量分布圖、海流圖などを活用する。

(三)氣候教授は概して抽象的に陥り易いから、具體的説明をなすやう注意する。

(四)郷土の氣候を實驗觀測せしめ、巧にこれと比較對照させて理解を與へることが大切。

實際例

教材 尋常小學地理書卷二 臺灣の氣候

(三)學習結果檢閲前に、兒童相互に批正させる。

(四)個別學習の指導及檢閲の終つた後整理を行ふ。整理に於ては次の事項に注意する。

(1)地勢上の特色を中心として。

(2)學習結果は兒童に發表論議させる。

(3)本地方と關東地方との地勢比較表を作らせ、又奥羽山脈を中心として東西兩側の地勢比較表を作製せしめ、その異同點を列舉せしめる。

(4)適當なる時間に本地方の地勢圖を描かしめること。

但し名稱を記入せず、而して描圖完成後は其れによりて地勢を讀ませる。

要旨 臺灣の氣候を調べさせ、熱帶的の氣候及び生物界の大體を知らせる。

準備 各地の溫度降水量。熱帶植物圖。

資料研究

(一)北緯二十三度半の緯線が本島の稍中央を通つてゐるので、南部の約三分の二は熱帶圈内に入つてゐる。その上に暖流も通つてゐるので、北もこの影響が大きい。しかし同緯度の印度アラビヤ、アフリカに比べると溫度は低い。これは島地であるため。

(二)夏は内地の溫度と大差はないが、冬は極めて温く二月が東京の五六月と丁度同じ位である。夏の期間は極めて長く、五月頃から十月頃まで続く。次の表の如く一年の溫度は殆んど大差ないのである。

地名	一月溫度	五月溫度	十月溫度	年平均
臺北	一五・三	二四・〇	二二・九	二二・六
臺中	一五・七	二五・〇	二三・七	二二・一
恒春	二〇・三	二六・三	二五・二	二四・三
長崎	五・四	一七・八	一七・九	一五・六
神戸	四・五	一七・五	一七・四	一五・〇
東京	三・〇	一六・五	一六・〇	一三・九

(三)しかし降雨は季節的の變化が著しく、一年を乾季雨

季の二つに區分する。但し北部と南部とは正反對である。

地名	一月雨量	五月雨量	十月雨量	十二月雨量
臺北	八七耗	二三三耗	一二八耗	七四耗
臺中	三五耗	二四六耗	二四耗	一二三耗
火燒寮	七四一耗	二二八耗	八一九耗	八一五耗

(四)溫度高きため生物は熱帶性に屬し、殊に植物はその色彩が明かである。低地には榕樹・檳榔樹・林投樹・竹類・紗欄・籐・芭蕉等が繁茂し、水邊にはマンゴロープが成長する。甘蔗・バナ、パイナップルを初めパイヤなどの熱帶植物が成育する。山地は植物の分布が垂直的になつてゐる。例へば阿里山には樟の如き暖温性の木が多く、漸高くなると温帯地方の檜の密林があり、新高山の頂には寒帯性の植物が多い。

指導方法

(一)臺灣の山脈・河川・平野・海岸など前時間に調べたことを説明せしめる。

(二)臺灣の氣候について知つてゐることを話させる。

(三)動物植についても同じ。

(四)溫度の上からその氣候を調べさせる。戸外の溫度を測り、臺灣の何月頃の氣候に相當するかを知らしむる。

(五)雨量についても數字的の研究をさせる。

(六)動植物について郷土のそれと比較させる。

關東地方産業教授案

産業教材の取扱に當つては、次の諸點に着眼しなければならぬ。

(一)産業地及産地の位置・範圍を明瞭にすること。
(二)産業の大小、産額の多少は、産業地の區域の廣狹、産物の性質及び需要供給の關係に照して具體的に取扱ふべきである。

(三)産業の勃興した原因、産物の産出原因を訪ね、その歴史的發達を明かにしてその現況を知らしむることが大切である。

(四)産物の特徴とその用途を直觀的に實際的に知らしむる。

(五)産物の販路を明かにして、特に海外との貿易關係を重視しなければならぬ。

(六)最近の産業界の變動、國民經濟生活の狀況並に貿易政策の概要を知らしめ、經濟的發展の緊要なることを自覺せしめる。

實際例

教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方 三 産業

要旨 本地方の主要産業である農・工・鑛・水産業の現況を明かにし、之等と地勢・氣候・交通などの地理的關係を學習せしむる。

準備

關東地方地圖、關東地方田畑分布圖、東京及横濱を中心とする主要工場分布圖、一米及麥の地方別産額比較表、金・銀・銅・石炭の地方別産額比較表、水産物の地方別産額比較表、銚子港、日光鑛山製所、常盤炭田の石炭積出し等の繪畫・寫眞・鑛山製鍊系統表。

農産物標本 米・麥・大豆・葉煙草・蕎麥。

工業物標本 生絲・綿絲・羊毛・羽毛・二重・御召・絹織・甲斐絹・八丈絹・風通・伊勢崎銘仙・琥珀・節絲織・綾絲織・秩父銘仙・米子・綴子・看光縮緬・帶地などの絹織交織・モスリン・フランネル・ラシヤ・セル・毛布・人造肥料各種。

鑛産物標本 金・銀・銅・鑛・銅製鍊順序・褐炭。

水産物標本 鰯・鱈・海苔。

資料研究 (略)

指導方法

(一)枝葉に亘る取扱を排し、大局に眼を注がしむることを肝要とする。

(二)産業と氣候及び地勢は密接不離の關係にあるから、教師はこの關係を基礎として學習を進めて行く。

(三)學習環境を整理する。

(1)地圖・繪畫・産額比較表・標本等を教室内の適當の位置にならべる。

(2)郷土の産業に就いて既有觀念の整理を行ひ、之を學習の出發點とする。

(3)前課の「地勢」に就き復習する。

(イ)關東平野は我國第一の大平野なること。

(ロ)河流は灌溉・運輸・發電・飲料水等に利用されること。

(ハ)氣候温暖にして、且つ地味肥沃だから各種の産業勃興し、従つて人口多く交通も便利なること。

(四)個別學習中教師は机間巡視をなして、適宜に輔導してやる。

(五)整理學習は大體次の如く行ふ。

(1)兒童の學習順序に即して、多くの兒童にその學習結果を發表せしめる。

(2)質問に答へ、他の兒童に解決し得べきものは之を説明せしむる。

(3)次の如き問題により總括的に整理する。

(イ)關東平野は日本の産業上如何なる重要なる位置を占めてゐるか。

(ロ)本地方の養蠶製絲業・鑛業・水産業は、日本全國の其等の産額と比較し如何なる地位にあるか。

(ハ)東京市民が本地方の産物を手に入れるまで如何なる經濟的、交通的機關を経るか。

(ニ)次の事項に就いて附説する。

(イ)河が土地の動脈として農工業の生命たる所以。

(ロ)本地方が氣候地質上より養蠶製絲業に最も適する

所以。

- (ハ)教科書に表はれた以外の主要工業の現状。
- (ニ)銅の製錬順序。
- (ホ)石炭の良否を決定する標準。
- (ヘ)海流と魚族との関係。
- (ト)東京が商工業の大都市となつた原因。
- (七)本課に使用する地圖は専ら第五圖の「關東地方」で

九州地方交通教授案

交通教材の取扱に於ては、次の諸點に注意しなければならない。

- (一)総合的に有機的に取扱ふこと。例へば水上交通、陸上交通の如きも之を連絡的に取扱はねばならぬ。
- (二)交通機關の設けられた主要目的を考察させ、それが産業・貿易・政治・軍事・遊覽などに如何なる關係あるかを知らしめる。
- (三)交通機關の發達と、自然及人文との關係を考察させる。
- (四)我國は四面海をめぐらしてゐるから、従来よりも海上交通を重視すべきである。
- (五)特に二點間の最短距離を知らしめること。これは旅行案内などによつて實習せしむべきものである。
- (六)交通發達は日進月歩であるから、教師はその異動に注意することを怠らざること。
- (七)なるべく旅行・遠足の機會を與へ、交通機關の尊き所以を感得せしめる。

あるが、農業には「關東地方田畑」、電力供給には「東京に至る水力電氣の路」また其他必要に應じて第六圖の「關東地方部分圖」を使用する。

(八)集散地・炭田・漁港・淺瀬などの地理的術語の意義を理解せしむること。

(九)關東地方の産業分布圖を作製せしむること。課外作業として府縣別農産及工産比較表を作らしめる。

實際例

教材 尋常小學地理書卷一 第八 九州地方 三 交通
 要旨 本地方の交通線發達の現況を知らせ、その東西兩斜面に於て發達に相違あるを注意させ、特に北部地方に諸港の發達せる理由を推究せしめ、位置・地勢並に産業との關係について考察させるものである。

資料研究

(一)挿繪「九州山脈を横ぎる肥薩線の一部」は、向つて左の方に熊本縣人吉町がある。汽車がまさに入らんとするトンネルは、人吉驛より數へて五番目のもので、人吉と吉

松(宮崎縣)間は二十一哩二分の里程であるが、その間に二十一のトンネルがある。人吉より第五のトンネルをすぎ、て線路が環狀をなす所に見える驛は大畑驛である。人吉・大畑間は五哩九分、勾配は四十分乃至三十分の一で、難工事の難であつた。環狀をなす上下線の高低の差は實に一七七呎である。圖中最高所にみえる驛は矢岳驛で、この驛を南に進めば矢岳トンネルに入る。矢岳トンネルは九州第一のトンネルで全長六・八七七呎、四分の一の勾配で、下り列車は五分、上りは七分を要する。

(二)門司・長崎を經由する主なる航路をあげる。

航路	起點	終點
北米航路桑港線	横濱	香港
南米航路東岸線	神戶	ペノスアイレス
歐洲線	横濱	アントワープ
南米航路西岸線	横濱(西)	香港
横濱メルボルン線	横濱	メルボルン
アフリカ航路東岸線	神戶	ダーバン

寄港地	會社
神戶・長崎・上海	日本郵船
横濱・長崎・香港・シンガポール・ケープタウン・リオデジャネイロ・サントス	大阪商船
神戶・門司・上海・香港・シンガポール・マラツカ・ピナン・コロンボ・アデン・スマタラ・ポートサイド・マルセーユ・ジブラルタル・ロンドン	日本郵船
神戶・門司	日本郵船
神戶・長崎・香港・マニラ・ダヴァオ・サウスデービー島・タウンズビル・プリズベンス・シドニー	日本郵船
門司・香港・シンガポール・コロンボ・キリンチニー又はモンバサ・ザンジバル・ダルサラム・ベイラ・デラゴア・ベイ	大阪商船

南洋航路	ハワイ線	神戶	スラバヤ	門司(香港・パタピヤ・チエリボン・サラマン)	南洋郵船
大連線	神戶	大連	門司	大阪商船	
神戸上海線	神戶	上海	門司(往航)	日本郵船	
北支那線	神戶	天津	門司(復航)	近海郵船	
青島線	神戶	青島	門司	大阪商船	
朝鮮西岸線	東京	仁川	門司又は下關(往航)	朝鮮郵船	
カルカッタ線	横濱	カルカッタ	〔横濱・名古屋・大阪・神戸・門司・香港・シンガポール・ペナン・ラングール〕	大阪商船	
ボンベイ線	神戶	ボンベイ	〔門司・上海・香港・シンガポール・ピナ・ン・コロムボ〕	日本郵船	

指導要點

- (一)地方的な鐵道は兒童に示す必要はない。鹿兒島・長崎・日豊・筑豊の諸線を學習させ、他の小鐵道は各自旅行案内によつて知らしめる。
- (二)九州南北に於て鐵道網の發達状態に著しい差の生じたことは、位置・地勢・産業などの諸方面より推察させる。
- (三)本地方の鐵道中横斷鐵道の微々たることは、既習事項

近畿地方都邑教授案

都邑教材の取扱に於ては、次の諸點に注意すべきである。

- 項奥羽地方とも關係して、地勢と交通線發達との密接なる關係につき有機的に考察せしむる。
- (四)門司・長崎が本地方水陸交通上の二大門戸である所以、殊に門司港が最近著しい發達をなした理由を考察させる。
- (五)郷土より九州地方の都邑に旅行すると假定して、その日時・運賃・哩數等を調べさせる。

- (一)都邑發達と自然との關係を考察させる。
- (二)都邑は文化の發達に伴つて如何にその發達が促進されてゐるかを推究せしむる。
- (三)自然と人文との關係を正しく考察させる。
- (四)各都市の特徴、個性を把握、各都市の有機的活動状態や活動發展の氣を知らしめる。
- (五)更に將來都市の發達、その經營に着眼せしむること。

實際例

教材 尋常小學地理書卷一 第五 近畿地方 五 都邑
 要旨 近畿地方の都邑發達の状況及びその原因、日本に於て有數なる都市發達地である事、その我國の經濟・産業に及ぼす影響を考察させるを以て要旨とする。

資料研究

京都 支那交通の遺蹟に充つ。又大阪・奈良盆地と近江盆地との接觸交通の要路であつた。京都は日本文化政治の長い中心地であつたが、遲々として近代都市發達の經路を辿らなかつた。即ち京都は經濟都市ではないからである。陶器・絹織物・漆器・製茶等の家内工業の京都は、機械主義的大量生産を目した都市に凌駕された。人口は七十二萬六千。奈良 山地と平野の境に聚落が發達する。之は奈良に於て實證される。奈良は近代的都市ではない。歴史的都市である。人口は五萬四千九百。

大阪 日本第二の都市である。大阪は世界の大坂であり、日本のマンチエスターである。諸侯の臺所であつた大阪は盛衰もあつたが、港としての條件に勝れてゐたため、すぐ盛り返したのである。鐵道の乗降客は
 大阪 一二一、一二八千人
 東京 一五二、八七二千人
 の多きに達してゐる。人口は隣接町村を合して二四〇八、八〇〇人である。

神戸市 大阪と東京を對立させるならば、横濱と神戸とを對立して考へねばならない。二大貿易港であり、日本の玄関である。綿絲・綿ネル・木綿・金巾・銅・燐寸・メリヤス・生糸・花苳・陶器などを輸出する。綿花・鐵板・鐵條・洗鐵・羊毛・豆糟・麻類・米・毛織物・石油を輸入する。貿易額は十二億に達する。人口は約七十五萬一千。港の廣さは三十餘萬坪で横濱よりは少し狭い。川崎・三菱造船所をはじめ鐵工所

が澤山ある。

堺市 大和川の川口に開けたところである。大内氏の領地であつた。足利時代の明との交通貿易はこゝで行はれたのである。八幡船の根據地として日本一の貿易港であつた。豊臣氏の大阪開府と共にその勢ひが大阪に移り、足利氏と運命を共にしたのである。福助たびをはじめとして、清酒・肥料・紡績・綿織物・煉瓦・醤油・刃物・金屬・工業用藥品等を産する。人口は約十二萬四千三百。

岸和田市 五萬三千石の岡部氏の舊城下。大阪の延長として工業が発達してゐる。紡績・白木綿・ネル生地・綿布等の織物業が盛んである。鉛筆・木桶の製造も盛んである。人口は三萬四千四百である。

宇治山田市 神都である。外宮は山田、内宮は宇治にある。人口は約四萬九千五百で、殆んど異動がない。日本に於ける模式的の宗教都市である。二見ヶ浦の参拜者は、神宮の参拜者と共にこの町の經濟力を支へてゐる。

四日市 伊勢灣に臨む開港場である。港内深く深さが適當で、名古屋の缺點を補つてゐる。横濱・神戸・大阪・名古屋

地理 自習 指導案

屋に次ぐ貿易港である。人口は約四萬四千。指導要點

- (一) 都市分布圖のみ方及びその考察。
- (二) 都市發達地と産業は如何なる關係があるか。
- (三) 主要都市の状況について述ぶる。
- (四) 都市發達の原因を明かにする。
- (五) 近畿地方の都市の特徴を考察させる。歴史的都市の多いこと、大阪の如き近代都市も亦遊覽都市を兼ねてゐること。
- (六) 都市の現状、新教材を授くる。
- (七) 將來の都市の消長を推究させる。
- (八) 都邑分布圖を描かしめる。
- (九) 關東の若き都市と近畿の古き都市との比較考察をなさしめる。
- (十) 都市發達と農村との關係を推究させる。都市發達と農村疲弊の關係をなるべく具體的に説明してやるべきである。

地理の自習としては、項目中心の學習法、自由學習、問題中心の學習、ダルトン案などの方法を學ぶることが出来る。

項目中心の學習は、申すまでもなく各項目を中心として順次に學習させる方法である。この學習は容易であり、且つ教科書の要求を遺漏なく學習する事が出来る。しかし主眼點の確立がなく、有機的關係による學習をなすことが出来ない缺點を有つ。次に自由學習は、最も個性に應じた學習をなさしめることが出来る。又自己の趣味的方面を殊に深く學習し、その個性を助長させることが出来る。しかしその反面には全體を通覽しないで局部にのみ偏したり散漫な學習に終る場合もある。次に問題中心の學習は、兒童自ら題材に直面し、自ら學習の中心問題を構成して、その問題を中心として學習して行く方法である。この學習法は、問題を解決するために自ら努めなければならぬので、大いに自己が働くこととなり、最も價値多き方法である。最後にダルトン、プランは、教師が學習問題や學習方案を示し、これによつて學習させ、然る後に兒童に發表させるところの方法である。この方法は學習の目標及び方法が示されてゐるから學習が容易であり、脱線することなく、且つ學習經濟でもある。しかし兒童自身に學習の主眼點を定め、その目標に向つて自ら解決の工夫を積むことがないので、創作的、發展的學習をなさしめることは出来ない。そこでダルトン・プランはある時期に於て學習法の道程として課すべきものであると思ふ。次にはこの方法による一例を示してみる。

實際 例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方 四 交通
要旨 奥羽地方の交通について自習せしめる。
準備 問題を謄寫刷にする。
問題

(一) 本地方の交通は何故に南北に便利にして、東西に不便であるか。

(二) 南北を通ずる鐵道は、交通・軍事・商業上よりみて如何に重要なるか。

(三) 本地方の重要な鐵道の線名、起點、終點を調べよ。

(四) 鐵道の開通のみによつて發達したと思はれる都邑は

どこか。

(五)太平洋岸は海岸屈曲に富むにかゝはらず、何故に大港市の發達をみざるか。現在に於ける重要な寄港地はどこか。またそれらの寄港地の中にて割合によい港はどこか。その良き理由を述べよ。

(六)日本海岸に於て最もよい港はどこか。主なる寄港地はどこか。

地理豫習指導案

地理の豫習は、一應はその家庭でもなさしむべきものであるが、それでは教科書の精讀みとなり易いものであるから、學習時間の幾分を割いて豫習せしめなければならぬ。申すまでもなく地圖を中心として豫習せしめる。又方便物を出來るだけ多く適切な機會に與へて、以て直觀の具たらしむべきである。程度が進めば地人相互間の關係を有機的に學習せしめる。尙分解的局部的に着眼せしめず、全體的綜合的に豫習せしめることが大切である。或はダルトン・プランの學習方法により、教師が問題を提出して豫習させることもよい。この方法によれば、學習の目標と方法が確立され、學習中心が把握されて容易に豫習の實を擧げることが出来る。次には豫習指導の一般方案を示してみよう。

實際例

(一)學習時間前の豫習(家庭豫習をも含む)

A 地圖及び教科書による豫習

(1)初學年
(イ)教科書を十分に讀んで地圖と引合はさせる事。
(ロ)地圖の輪廓を描かせること。

(2)高學年

(イ)教科書を熟讀して地圖と照合させる。

(ロ)學習要項を發見させること。その學習要項をノ

ートさせる。

(ハ)地圖の輪廓を描かせる。

(ニ)参考書を参考して豫習させる。

B 實物標本類の準備研究

(1)數日前より實物標本類の名稱と觀察の要點とを揭示

し、家庭にある實物類は之を學校に持参させる。か

くて地理學習の雰圍氣を作る。

(2)その實物は學習材料陳列所に陳列する。

(3)相互研究を奨め、疑問點は揭示板に書かせる。

(二)學習時間中の豫習

A 既習事項の復習 舊觀念の整理。もとよりその日の學

習材料に關係あるものについて整理する。

B 家庭豫習を命じた場合の處置。

(1)豫習してきたか否かをしらべる。

(2)豫習結果の整理。

(3)その間に實物標本類を觀察させる。

(4)兒童の質問に答へる。

C 學校で豫習させる場合。

(1)既習事項の豫習的復習。

(2)大體を通覽させる。

地理復習實際案

地理學習に於ては、その復習を重要視すべきである。殊に記憶的方面の事柄については、復習の機會を教師が與へてやらねばならない。學習時間に於ては新教材の取扱に追はれて復習の時間を割り出すことが却々困難であるから、家庭に於て或は學校の自習時間に復習するやうに指導しなければならぬ。尙復習は特定の時間にまとめて行ふこともよろしいが、新教材を取扱ひながら、それに關係した既習事項を復習せしめることも忘れてはならぬ。又一時限の終りに於ては、整理の段階に於て必ず復習を課すべきものである。次には復習の一般方案に就いて示してみよう。

實際例

- (一)口頭による復習
- A 學習順序により板書をみながら復演させる。
 - B 學習順序により空に復演させる。
 - C 學習順序を單なる方法で復演させる。
- (1) 假説旅行體に、地圖をみせて。
(2) 或は個々のものにつき發問する。
- D 地圖を指しつゝ復演させる。

地理考查實際案

地理の成績考查は、別に特定の時間に於てなす必要はない。平素の學習活動の状態をみることも考查であり、兒童のノートを檢閲することも亦地理の成績考查である。また問題の口答筆答をなさしめることもその一法である。何れにしても常に成績考查を深めて、その教授力の徹底如何を考察し、指導の萬全を期せなければならぬ。次にはその一例を示してみよう。

實際例

學年 尋常第五學年
教材 尋常小學地理書卷一 第二 關東地方
要旨 關東地方の學習の後、その成績考查をなす。
考查

E 相互質問的研究

- (一)筆記による復習
- A 地圖を描かせる。
 - B 塗板に描圖して説明させる。
 - C 補充的完成的に筆記させる。
 - D 問題について筆答させる。
- (二)砂模型の製作。
(三)標本の精細なる觀察。

- (一)地理的識見に關する考察的方面の考查
- (イ)海岸線の長短は人生に如何なる利害があるか。
 - (ロ)關東平野の成因を問ふ。
 - (ハ)温泉の種類及び温泉が人體に及ぶ効果。
 - (ニ)本地方の養蠶製絲業に適する所以は。

(ホ)東京が商工業上の大都市となりたる地理的原因を問ふ。

- (一)東京と横濱との經濟的關係を問ふ。
(二)地理的事實現象に關する記憶的方面の考查
- (イ)關東地方の縣廳所在地。
 - (ロ)關東地方は行政上如何に區別するか。
 - (ハ)如何なる山脈があり、如何なる方向に走つてゐるか。
 - (ニ)關東平野には如何なる産業が發達してゐるか。
 - (ホ)海岸地方には如何なる産業が行はるか。
 - (ヘ)通信機關としてはどんな種類のものがあるか。
- (三)地理實習に關する方面の考查
- (イ)關東地方の行政上の區分地圖を色別にして描かせる。
 - (ロ)人口密度比較圖表を作らせる。
 - (ハ)府縣別農産比較表を作らせる。

(四)地理的能力の應用方面に關する考查

- (イ)郷土より觀て關東地方の位置を考へさせ、郷土より東京までの距離を第三圖「日本帝國總圖」によつて實測させる。
- (ロ)郷土に最も近き停車場の鐵道線路は附圖上どれに屬するか、又その驛に於ては旅客の外、常に如何なる貨物を取扱つてゐるかを調べさせる。
- (ハ)旅行案内によつて東京より神戸まで、或は東京より青森までの哩數、時間を檢察し、汽車の速度を算出させる。
- (ニ)東京より名古屋へ行くに、東海道線によるのと中央線を利用するのでは、距離、時間に於て何程の差があるか。
- (ホ)東京より房州北條へ行くに、鐵道によるのと東京灣汽船によるのと、時間、賃銀等に何程の差があるか。
- (ヘ)東京より京都へ至る最少限度の時間を計算せよ。

地理讀物指導案

現在各教科に對する讀物は數多く流布されて、その選擇に迷ふほどであるが、地理の讀物は至つて尠いやうに思はれる。しかし地理に關する讀物は、地理學習上必須なるものであるから、教師はよろしくその蒐集に努むべきである。地理讀物

としては、年鑑類の如きもその範囲に加へて差支ないものと思はれる。何れにしても讀物は、地理學習は趣味を加へ、地理研究の興味を附與するものである。次には讀物に對する一般方案を示す。

實際例

學年 尋常第五學年

教材 尋常小學地理書卷一 第三 奥羽地方

要旨 學習に際して地理讀物の指導に當る。

方法

(一)讀物によつて月山、磐梯山、猪苗代湖の研究をならしめる。その結果をノートに記せしむる。

- (二)讀物によつて本地方の牧畜業の現況を研究させる。
- (三)各鑛山の研究。
- (四)原町の無電通信を讀物について調べさせる。
- (五)本地方の交通機關の特色を讀物について調べさせる。
- (六)最近の年鑑によつて、各都邑の人口を調べさせる。

地理學習指導案の立て方

(一)立案の根本概念 敢て地理とは限らない、いかなる指導案でも之を立てるからには、基本になる中心概念がなくてはならない。私の抱懐する中心概念は、前々からいふ様に自學、即ち自律的學習といふことで人格の本質から考へた概念である。而して此の概念を生かすために、次のことに注意したいのである。

(一)生活學習 生活學習といふことは、この地理でいへば、目的として材料として方法として、子供の地理的生活を基とし、それを指導して價值的な地理を學習させることである。

(二)個性的學習 子供は夫れ／＼個性をもつてゐる。小學の頃にはそれがハツキリ外部に現はれることはないが、而してやがて現はすべき個性をもつてゐることは事實である。従つて地理學習においても、その個性を地理學習によつて養つて

やるとか、乃至個性に従つて、學習させてやるといふことを考へなければならぬ。

(三)全體的學習 新しい哲學、新カント派にしよ、文化哲學にしよ、全體といふ事を口にしないものはない。同時に心理學においても心を個々に分析して、一つ／＼の作用を検索しようといふ様なことは、古い考へ方である。何にしても心は全體と部分と離すことの出来ない關係になつてゐる。かういつた意味から、地理學習においても、全體を考へつゝ部分を扱ふといふこと、一般教科と深い關係を保ちつゝ學ぶこと、乃至心身の各機關によつて學ぶ事にならなくてはならない。

(四)作業的學習 形式的に耳より、又目よりのみ入る知識は子供の身につかない。ついたにした所で働かない。生命のある知識は、意志により作業により情意を起して成る知識である。これでこそ人格の陶冶になる。かういふ意味から出来るだけ作業を、此の學習にも課すべきである。

(五)公民的社會的學習 この言葉は少し妥當でないが、要は子供が地理を學ぶのは、單に孤立せる個人として、立派な人になるのではなく、社會公民として立派なものになるのである。従つて社會における人の關係を知らせると共に、方法としても人と共同し社會的に學習させようといふのである。

(六)體験的學習 地理だけに限つたことでないが、とにかく浮ついた知識を得させることは、教育の目的ではない。地理教育の要旨には

地理は地球の表面及人類生活の状態に關する知識の一斑を得しめ、又本邦國勢の概要を理解せしめ、兼て愛國心の養成に資するを以て要旨とす。

かうなつてゐるが、私は之を解して主知主義に陥りたくない。言ひかへると覺える知識は、少くとも人格に即するもの自我の内容を深めるものでほしいのである。地理學習によつて、人生觀を養ふものであつてほしいのである。これでこそ

體験的學習であり自學的學習といへるであらう。

以上は極めて簡單であるが、私の教育觀から出た地理學習上、特に注意すべき重點である。

(二)指導案の種類 案は人によつて體裁なり詳密さ加減を異にしてゐるが、私の教育觀や、實際からは大體次の様にしてゐる。即ち其の一は略案であつて、極めて大體に其の經過を記述し、特に注意すべき教材について、解説なり注意なりをかいておく。其の二は詳案であつて研究授業とか、參觀者に自分の意見なり經過なりを詳密に知らせるために書くものである。

(三)立案についての要點

(一)教材の調査 地理に限らず、總べて子供にある材料を教へよう、學ばせようとしたら、教師が先づ十分に材料を調べなければならぬ。單に教科書だけでなく、それ以外に亘つて深く廣く調べて、決して遺憾のないだけにしなくてはならない。そして更に其の材料の中心點を明確にしておく必要がある。

(二)學習方法の考慮 材料がよく調べられたら、いかに之を子供に學ばしむべきか、方法を豫定しなくてはならない。昔はいかに教ふべきかを考へたが、今後はいかにして學ばせるかを考へなくてはならない。

(三)學習用具の整理 地理は只教科書だけで學べるものではない。地圖・模型・標本其の他種々雑多なものが要る。従つて彼等の環境となる學習用具を、十分整理するのである。

(四)學習指導過程

(一)學習事項の指示 いかなる事項を學ぶか。前もつて示す必要がある。さうすると子供は、それについて自然と學習の意識を其の方面に向け、學習動機を喚起するからである。

(二)學習事項の豫習 これは家庭でさせる場合もあるし、學校で行はせる場合もある。とにかく自力で出来るだけ環境を整理して學習させるのである。この場合には自分一人で行ふ場合と、共同して學習する場合があるが、私の經驗で一般の場合としては獨自學習を先にし、共同學習は後にするがよいと思ふ。但し材料によつては始から共同の場合もある。例へば郷土の地理を實地について學習させる場合などそれである。

(三)檢討 子供たち自身で研究したものについて發表させ、それについて良否を考へさせていくことである。従つてかういつた場合には、檢討以外に補説していくのである。

(四)補説 子供だけで研究しただけでは足りないことがある。教科書だけによつてする場合など、特にさうである。従つてかういつた場合には、檢討以外に補説していくのである。

實際例

教材 地理書卷一十九頁より二十三頁まで。

要旨 關東地方の交通の一斑を郷土に比較聯絡して知らせ

東京地方が日本交通の中心にして、こゝより全國に亘り、世界各國に及んでゐること、及び交通と文化との關係並に交通が益々發達して止まざる現狀を會得させるのである。

教材觀

關東地方の交通機關は、日本の中心であるだけに一番よく發達してゐる。子供等はよし東京に行かないにしても、東京の事は目に耳に親しんでゐるから郷土の次にこゝを學ぶのは意義がある。まして交通と文化の關係、まして日本を中心の交通を知る事は日本現時の進んだ交通狀態を知る意味に最も深い關係があるから材料として貴重なよ

要項

- 一 交通と文化との關係
- 二 東京横濱地方の交通機關

い材料であると共に周到に取扱ふべきものであると思ふ
方法観

自學的に學ばせたい。そして自學の意味を完からしめる
ためになるべく材料を調べ、環境を整理して具體的に學習
させ、その間に、趣味をもちつゝ意味を會得させたいと思
ふ。

學習用具

關東地勢圖、日本交通地圖、飛行地圖、東京驛繪葉書、
東京地圖、横濱港圖、地下鐵繪葉書、アフト式圖、碓氷
峠繪葉書、外國行汽船圖、世界航路圖(日本中心)、無線
電信局圖。

時間三時間

指導過程

- 一 目的指示 數日前に行ふ。
- 二 豫習 家庭又は學校で獨自的に又は共同的に學習させ
る。方法は地圖その他を準備して、先づ教科書を通讀し
て見る。次に一節づゝ上部の見出しを基にして内容を調
べる。更に友達と共同して調べたり問答などして見る。
終に要點を記しておく。或は交通地圖を書かせる。
- 三 研究の發表 次の様な問答で研究を發表させる。
 - 1 交通と文化の關係はどうか。

2 日本で交通の發達してゐる所はどこか。どんな機關
か。

3 關東地方の陸上の交通はどうか。

4、同じく海上の交通はどうか。

5、通信の有様はどうか。

四 不審事項の問答

不審事項は指導の如何によつて存外よく尋ねるものであ
るから始から其の習慣をつけるがよい。もし充分な不審
事項があれば、次の補説事項の説話は大に省かれること
になつてしまふ。

五 補説と問答(出来るだけ子供に調べさせる)

- 1 各自の縣より東京に至る順序(距離・方向・時間・運
賃等)
- 2 交通と文化との關係
- 3 東京地方の交通機關(汽車・電車・自動車・汽船・飛行
機・郵便・電信・ラヂオ等)
- 4 陸上の交通
東海道線(複線・速度・回数・沿道・設備・景色・汽車生活
特急車)
東北線
常磐線

中央線(笹子トンネルの話、電化のこと、トンネルの
多し事)

高崎線、信越線(碓氷峠のこと)

5 海上の交通

南米航路、北米航路(時間・速力・運賃・距離等)

支那航路。

印度・ヨーロッパ・オーストラリア航路。

汽船生活のこと(設備其の他生活一般)

横濱港の有様。

6 航空路(時間、運賃等)(補充)

7 通信

郵便・電信・電話・海底通信・ラヂオ。

8 交通の今昔と將來の豫想。

整理

1 地理帳の整理

讀圖能力の養ひ方

地理學習に於ては、地圖が學習の中心であり、出發點であり、又歸結點であらねばならない。兒童は多く皮層的に文字
讀解即ち記憶だけの學習に満足し易いものであるが、この點學習指導者の最も注意を要するところである。直觀に訴へて

附言

2 交通地圖の作製(個人々々又は共同的に製作させる)

右は極めて概略に其の過程を書いただけである。何にしても本
當に自學させるには實際のものから學ばせねばならぬ。交通な
ら實際其の土地に臨んで調べるのが意義があるのみならず、本
義であるけれども、かういつた科目はそれは出来ない。又参考
書があれば、澤山の参考書から調べるがよいが、といつて今日
は、それが無いから教科書と地圖を中心にするより外に道はな
い。
何にしても今の教科書は全く抽象的に骨だけ書いてあるから所
詮豫習といつても骨組だけしか調べられないから、之を基にし
て第五の補説の所で問答しつゝ繪畫なり標本を見せつゝ具體的
に問答し、その間に理法なり、意味なりを自然に會得させるよ
り外に途はない。終に右の豫習は五年の始では、豫習方法を具
體的に一學期位充分教へてやる必要がある。

—東京高師調導 小林佐源治—

想像類推を働かず地理教授に於ては、何うしても地圖中心の學習によつて地理的現象の觀察吟味をさせねばならぬ。その觀察吟味を徹底せしむるために、地圖讀解力の深化と云ふことが必要となるのである。單に文章に書かれたものを皮層的に記憶しただけでは、地理の實際知識としては無價値である。私達が日々の新聞によつて社會事象に觸れたとしても、その事象が適切に實際の土地と結びつかない場合が多い。これは類推力の不足から來るものである。讀圖力の養成に無關心だつた點に要因する。實に地圖を讀むと云ふことは、國語科に於ける文によつて自己を讀むが如く、地圖から受くる深さ、理解の深淺の度は人によつて千差萬別である。

單に地圖の表面に表はれてゐる山脈や河流や鐵道などの諸記號を漫然と理解さすだけではいけない。彼の戰術家が地圖を讀んで地形を知り、考察判斷を的確に下すが如く、眞の讀圖力は直觀を通して想像、考察、類推を働かし、實際の土地を立體的に腦裡に把握せしむるものである。兒童にこの讀圖力の深化を計らしめるためには、先づ教師自身が常に地圖に親しみ讀圖能力の充實を測ることである。その指導に於ても、その讀圖力を十分に實際に活動せしめ、自然人文相互の地理的現象が一枚の地圖によつて深く實際的に理解されるやう指導することを忘れてはならない。

讀圖能力養成に就て先づ肝要な問題は、地理書附圖の活用であらう。地理書附圖はその名稱の如く全く教科書につけたりの如く思惟されて、甚だしく一般から輕視されてゐるやうに思はれる。その使用法が忘れられ、例へば使はせるにしても、通り一片のお役目的に片づけられて了ふ。従つて兒童も教科書や大地圖にのみ頼つて、地理書附圖を輕視し、その活用するところを知らない。一般には大きな掛地圖を教室の前面に掲げて、長い竹竿を持つて教授を進む。この方法は教師が問答開發式や講演式の教授法によつて一齊教授を施すには便利であるが、勿論兒童に讀圖力を深化せしむるものではない。又この大掛地圖によれば、地圖に接近する兒童は地圖を詳細に讀むことも出来るが、地圖から速く離れた席の兒童はその讀圖が甚だしく不明瞭である。尙大掛地圖は時間がすまば直ちに教室から運び出されて了ひ、兒童は平常時に於ても地圖に親む機會を與へられないこととなる。即ち手近に必要に應じて使へない點、日常携帯に不便なる點が、掛地圖使用の缺點であらう。

この大きな掛地圖を使用すると云ふことは、一はその學習法にも起因する。講演式や問答式などの學習形式ではその使用は止むを得ない事である。併し問題中心、兒童中心の獨自學習に依らしめるとすれば、大きな掛地圖よりも地理書附圖に接せしめることが肝要である。否地理書附圖によつて常に親しく學習せしめ活用せしめることが、獨自學習の根本要訣である。第一に自習時間や地理の時間に地理書附圖を十分活用するの時間を與へてやる必要がある。地圖に親ませるだけでなく、發見的に地圖を讀ましめる讀圖力の養成に心掛けねばならない。尙地圖に對する趣味性の喚起に努めて、家庭に於ても日常之に親しませる良習慣を培養すべきである。又讀圖力を獨自的たらしめる爲には、地理書附圖だけに止めず開成館や三省堂から發行された地圖を學級に備へつけねばならない。勿論經費上の問題を伴ふことであるから絶對的なことは云へないが、要するに地理書附圖の活用と云ふ點に指導の着眼を持つことが肝要である。

二

次に注意すべきことは地理書附圖の活用法である。先づ地理書附圖は平常五年となる以前に於ても之に親ませる方法を採るべきである。理想としては尋三頃から地理書附圖を與へて、その地理的材料に密接な交渉を持たしめるがよい。尋常四年となると、その讀本の内容の中には日本地理、世界地理に關したことが多く散見し、地理書附圖によつてその學習を密接ならしめる必要を認める。従つてこの學年頃から努めて附圖を與へ、地圖の見方に慣れしめておくべきだと思ふ。この方法に依れば尋常五年になつて急激に讀圖の指導に腐心する努力も省け、教科書に從屬する傾向も矯められ、一方尋常四年に於ては學習をより充足せしめる所謂一舉兩得の結果となるのである。

言ふまでもなく諸記號の讀解も出來得べく尋常四年頃から漸次に指導するがよい。地理附圖第一圖を十分理解させ、尙裏圖との對照比較に指導の方法を考究するところあらねばならない。裏圖は表圖に比較して讀圖力の必要を要し、記號

も違つてゐる。教師はこの點に注意し、表圖と裏圖を比較對照して讀解に慣れさせて行かねばならない。殊に裏圖は色彩が施されていない關係上注意を惹き難く、兒童の興味をも惹かない缺點がある。尙その掲載位置が一定してゐないところから、うつかりすると裏圖を見落して下ふ。裏圖は決して表圖に劣らぬ價值を有するものであるから、教師は常に附圖の巻首の目録に注意して、裏圖を見落さしめないやうに心掛くべきである。尙裏圖活用の實際的方法としては、裏圖に着色せしめる方法がある。悉く着色せしめる必要はないが、山や河、平野と火山、海と湖沼などに着色せしめることは、地圖を精密に觀察せしめその地理的事情を理解する上に最も有効であらうと思ふ。兒童は興味を以てこの作業に従事し、その地理的事情の印象を深くすることが出来る。尙裏圖を鮮明にし、一目瞭然たらしめる良結果を得ると共に、時代の變遷による新材料、例へば鐵道の開通、國土の増減などはこの場合に訂正補充することも出来る便がある。

尙讀圖上誤謬に陥り易い點、即ち縮圖の割合に對しても常に注意するところあらねばならない。例へば異なつた場所へ描かれてあつても、それが同一の縮尺であれば廣さの比較に誤解を招く事はないが、例へば關東・中部・四國・九州諸地方と臺灣・北海道・樺太・朝鮮諸地方との比較の場合は誤解に陥り易い。前者は夫々一百万分の一の地圖であるが、後者は夫々三百万分の一の地圖である。従つて後者は前者に比較して、その廣さが餘程小さく見誤られるものである。教師はこの點に注意して、縮尺の割合を常に兒童の腦裡に把持せしめねばならない。次には所謂メルカトル式地圖に依らしめる場合には、素りに圖上で面積の比較をなさしめないがよい。例へば地理書附圖第二十一圖のシベリヤの如く、南北の兩極は、それが兩極に近づくに従つて次第に實際より大きく描かれてゐる。この廣さをそのまま無責任に看過するとしたらとんだ誤解に陥つて下ふ。注意すべき點である。又反對に經緯線に基きて描圖したものは、面積地形は正しいが、方角に於て誤解を招き易い。この點にも同時に注意しなければならない。

尙地圖上の彩色は綠色の部分が必要しも平地平野にあらず、すべて高度を以てその彩色の標準としてゐる點を含ませねばならない。又讀圖上一般に陥り易い長さや面積との割合にも十分理解を深めておかねばならない。

郷土地理の扱ひ方

「郷土は世界の縮圖である。」と云ふ言葉の如く、郷土は地理學習の基底であり、出發點である。然しこの郷土と云ふ意味を限定して、自己の村、町、市、學校を中心として半徑二里の範圍とか、一日にして往復出来る範圍の土地とかと郷土範圍を縮小することは、郷土地理の使命に反することだと思ふ。兒童が直觀し得る郷土範圍は之を出来るだけ廣い領域に亘らせたい。兒童が實地學習をなすに可能なる土地はすべて郷土と見做してよい。單に行政区劃や距離の如何によつて郷土の範圍を限定することは宜しくない。又實際に於て郷土を自己の村、町と限定するとすれば、多くの場合地理的各方面の基礎觀念を養成するには不可能である。狭い一郷土に山あり河あり平野あり火山あり温泉あり、更に鑛山あり工場あり鐵道あり汽船ありと云ふ譯には行かない。狭い郷土のみの直觀によつて、未見未踏の地を想像類推せしむることは到底困難である。従つて兒童が交通機關を利用して、遠足し旅行し直觀の出来る所はこれを郷土として差支へないと思ふのである。否郷土の範圍を擴張してこそ、兒童は各方面に有力な地理的基本觀念を獲得することが出来るのである。

言ふまでもなく、郷土即ち環境を理解すると云ふことはすべての學習の根柢をなすものであるから、尋常五年になつて突發的に之を課すべきでなく、低學年に於ても郷土地理の學習に着眼するところあらねばならない。即ち合科的に郷土地理の觀念を培養してかゝらねばならない。中にも國語讀本の中には、一般地理的材料も多いが、郷土地理的材料も決して少くはない。前者もその都度地理に關する豫備學習を施すべきは贅言するまでもないが、後者に關しては一層直觀に訴へて郷土地理の基本觀念を養成しなければならぬ。次には國語讀本中の郷土地理的材料とその學習指導の要點に關して簡單に列記してみよう。勿論學習事項は、各郷土の文化的事情によつて一定しないものであるから決定的な斷定は下されない。その點に關しては、各土地の事情に即した學習細目をその材料によつて按配しなければならぬ。

巻	課	題目	讀本中の學習要項	地理の基本觀念養成事項
一	二二	ハコニハ	山—高きところ 川—低きところ 橋	校庭、山川、家庭の泉水などの 觀察
三	十	四 方	日に向つて(前—東 右—北 後—西 左—南)	磁石によつて方角を知らしめ、苦 によつて東西を知る方法も授く
三	十	私ノ村	岡、天神林、役場、學校、川、 新道、田	地圖の讀方、村の有様、村と農 業
四	七	私どもの町	電燈、町役場、警察署、商店、電話 工場、鐵道、停車場、郵便局	町の有様、町の商工業、通信交 通
四	二一	汽車のたび	鐵橋、河、トンネル、海船、軍 艦、兵營	人と自然との關係を知らしめ、 軍事に關することも授く

大體以上の如き形式で出来るだけ綿密な一覽表を作つておくべきである。勿論國語科の領域から脱線する程度の本末を誤つた方法に陥ることは宜しくない。讀本の材料に關聯して兒童生活の環境の整理發展を計る、と云ふ點に着眼すべきである。尙讀本中の郷土地理材料は尋常三年までに終つてゐるのであるから、尋常四年ではそれまで養成し來たつた郷土地理觀念の整理補充に指導の要點をおくがよい。

次に兒童を郊外に伴ふて實地學習をなさしめる場合、教師は如何なる用意を必要とするか、その點に關しては先づ場所の選定と云ふ點が問題となる。何の用意も豫備知識もなく漫然と兒童を引率して行くのでは、時に偶然的な効果はあるかも知れないが、多くの場合無駄な努力徒費に終るものである。學校に於て一定した學習豫定室を製作しておくこともよい。併し教師はそれ程の既定的な豫定案に盲従するより自ら努力を惜むことなく、實地を踏査して、場所の研究と學習順序の豫定にまで調査を進めておく必要がある。尙學習の目的・場所・觀察の要點に就ては成るべく兒童と相談し、計劃させ、その説をも採用し、學習の場合、注意散漫に流れざるやう前以て十分注意するところあらねばならぬ。學習用品も忘れ物のなきよう用意せしむる。教師は小黑板を携帯するが便利である。

さて目的地に到着すれば、十分に觀察させ、考察させ、對象の有機的關係を明確に直觀によつて把握させる。勿論觀察考察は自由に個人的になさしむべきである。教師も個別的に指導すると共に、時には圓陣形或は四字形を作つて分團的に説明し指導する。學習の結果は要點だけ雜記帳に記させるもよい、或は綴方能力を藉りて文章に綴らせるもよい、或は圖畫によつて地圖をも描かせる。地圖には言ふまでもなく符號を用ひさせ、歩測・目測・實測によつて描寫させる。

併し折角の實地學習をそのまゝ無責任にも放任するが如きことがあつてはならない。こゝに整理應用の必要が起つて來る。整理應用の方法としては、郊外で觀察考察した結果を精密に整理して文章を綴り、或は要點のみを表記し、圖畫として表現し、或は模型を作るなど色々な方法がある。要するに地圖を見て直ちに實際の地理的現象を想像類推し得る能力培養と云ふ點に指導の着眼をおかねばならない。尙この實地學習は一時的でなく継続的に系統的に次第に學習を深みへと指導することが何より肝要である。殊に氣象に關するもの、例へば温度或は雨量の如きは毎日個別的に測定せしめて、各兒童に統計表を製作せしめるやうにしたい。要するに一應郷土地理を學習した後と雖も、絶えず反覆實測せしめて、その地理的基本觀念を愈々確實ならしめることが肝要である。尙教科書の學習に移つて後も郷土地理の學習は決して無駄ではない。

新しい地理學習のさせ方

「地理教師見て來たやうな嘘をつき」と云ふ川柳の如く、實に地理に於ける想像ほど不精密なものはない。地圖の上で想像類推を働かし、後實地に就て直觀してみるとその間の相異は實に雲泥の差である。従つて狭い郷土の直觀世界を出来るだけ擴張することが肝要である。遠足、旅行、工場や博覽會の實地見學、繪葉書、繪畫及實物標本類の蒐集、尙最近は教材映畫に依りて直觀的に學習させる方法が盛んに採り入れられつゝある。又實地に直觀を生かすことの出来ない場合には、止むなく地圖によつて想像的に學習させねばならない。この地圖の讀解力を深め、教科書の文章を皮層的に記憶するだけ

でなく、地圖を眺めて人文地文の現象を立體的に活動的に想像出来るだけに指導しなければならぬ。贅言すれば寧ろ從來の學習方法を逆に、地圖を主として教科書を従とする指導方針を採らねばならぬ。

次には兒童自身に材料の主眼點を發見せしめねばならぬ。教師が無意味に注入的に主眼點を明示するは宜しくない。地理は全國共通的に編されたものであるから、材料は過多であり、勢ひ收得する知識は雜駁となり易い。従つて教師は教科書を熟讀して材料の價値を研究し、主眼點を確立して學習の輕重點を明瞭にすることが肝要であらう。學習經濟上比較的重要ならざるものは、讀解の時に注意する位の取扱をなしていゝ。尙學習の順序方法は教科書の記載的羅列的方法を排し、各事項に聯絡を有する有機的方法に依らしめねばならぬ。そこで統一さるべき中心問題を把握せしめて、兒童各自が材料を研究して纏めて行くと云ふ方法を採らしむべきである。そして最後に彙類的に整理する。初めから教科書の記載順によつて學習せしめることは、甚しく無味乾燥な無價値な方法と云はねばならぬ。

具體的に學習させると云ふ點も忘れてはならない。抽象的・皮相的な注入では兒童は眞の理解に達することは出来ない。説話に於ても實際事物に例をとつて興味的に具體化することが必要である。尙地理科に於ては推究的學習の重要なことは贅言するまでもない。地理的理法の原因結果、因果關係を推究的に學習せしめなければならぬ。併し獨斷や牽強附會は大いに慎むべきところである。次には推究的學習と共に比較研究に依る學習も大切である。郷土との比較、既習事項との比較によつて想像類推を働かすことは勿論であるが、又差異點の比較對照と云ふ點も忘れてはならない。例へば

日本海方面(山陰)

- イ 地勢がけはしい。
- ロ 川が短い。
- ハ 冬季雨雪が多い。
- ニ 海の波が荒い。

太平洋方面(山陽)

- イ 小平地が開けてゐる。
- ロ 川が長い。
- ハ 氣候が温和。
- ニ 海上の波が靜か。

* 港灣が甚だしい。

の如き方法によつて比較對照して學習せしめるのである。

尙作業重視の學習は、兒童は兒童の理解と記憶を助け、地理的生活をなす基礎と習慣とを作るに有効である。この作業的學習に關しては節を新にして述べることにするが、又一面記憶的方面も決して一概に輕視さすべきではない。併しこゝに云ふ記憶とは單に器械的・盲目的記憶ではなく、理解的な關係的な實際的な記憶の意である。教師は兒童にこの理解的な記憶を與へるに適切な學習をなさしめねばならぬ。又地理學習に於ては、兒童の心理的立場、即ち兒童の心理的發達の程度を考へ、兒童の經驗行動を尊重して學習をなさしめることが肝要であらうと思ふ。

* 良い港灣が多い。

地理各學年の主眼點

尋常五年の地理學習に於ては、郷土地理の基本觀念を着實に延長する目的を立て、自己の府縣地理の學習に主眼點をおくべきである。換言すれば郷土の範圍を擴張して地理の基本觀念の不足を擴張充實させるのである。自己の府縣と四圍の府縣との關係的位置及び交通・都邑・産業の有機的關係を知らしめて、町村民としての自覺を與へることをその目的としなければならぬ。郷土地理の學習の後日本地理の學習に進むにも、教科書の順に盲従せず、郷土を中心として關係的、直觀的な學習に入る方が心理的である。この學習法は出發點を誤らないやうに注意しなければならない。又地理書卷一の「日本」は餘りにその區域が廣汎に亘り學習上困難であるから、卷二の「日本の總説」に合併したがよいと云ふ説もある。然し全體の概括から入つて、各部分の研究を進め、再び全體の連觀に歸する方が自然的な學習が出来ると思ふ。従つてこの「日本」の概説に主眼點をおき、兒童の理解を深めて部分への意義ある出發點たらしめねばならない。

次に尋常六年に於ては、各地方別に概論的に學習し來たつた日本地理を總括的に詳細に纏める點に主眼をおかねばならない。我國を一丸としてながめしめることによつて、我國の國勢の理解を深めしめねばならない。尋常六年に於て學習せ

しめる世界地理は、世界の形勢を知らしめ、主なる諸國の特徴及び我國との關係に就て學習せしめることをその主眼とし
てゐる。即ち世界地理の學習と云つても日本地理の延長と見て差支へないのである。この我國と諸國との關係、日本を世
界的な見地から見るに、各洲各國の特徴を把握することをその主眼點として學習せしめねばならない。併し高等小學に
於ける世界地理學習は、尋常の世界地理より範圍を擴張して、程度を進め、地人關係の合理的學習を重んじ、科學として
の地理と云ふ點に主眼點を置きたい。尙高等一年の終りにも「世界と日本」と云ふ題を特設して、世界の形勢を知らしめ
ると共に、我國の現状を理解させ、一層國民としての自覺を深めしめねばならない。

最後に高等二年の地理は、材料が復習的であり新鮮な興味と生氣に缺け、器械的に流れて甚だ無趣味な學習に陥り易い。
又學問的、論理的な取扱ひに流れて、兒童の心意を活動せしめることが不可能であり、材料過多の弊に陥つて有機的關係
にまで深まつた學習をなすことが出来ないやうである。然らば如何にして高等二年の地理學習に生氣と興味を附與するこ
とが出来るか。先づその主眼點としては、地球の表面と人類生活の状態について纏まつた知識を修得せしめることである。
次には地人相互の關係に就て關係的、推究的の學習をさせ、最後に地理上より見たる我國の特徴を十分理解させることが肝
要である。言ふまでもなく、日常生活に關係づけ、實地見學を頻繁に行ひ、絶えず新鮮な材料を加味して興味的ならしめ、
材料過多の弊から脱出しなければならぬ。要するに兒童の實生活に着眼して、實際社會に直接的な知識を與へること
を、その學習の主眼點としなければならない。

地理實習の指導の仕方

(一)距離と面積の測定 距離の實習に於ては、郷土からの距離、川の流さ、山脈の長さ、都邑と都邑との距離、鐵道線
路の長さなどが興味があり、又効果も多いやうである。その方法としては、圖上を糸で測定し、縮尺の割合によつて測定
した距離から實際の距離を算出せしむるのである。勿論正確な答を要するものでなく凡そでよい。鐵道線路の長さなどは

自由に一區劃を計つても旅行案内によつて正確な數量を對照することが出来るのであるから、最も興味的である。面積測定
に於ては、面積測定器になる方眼入りの方形定規を使用せしめるも一方法である。面積測定に於て注意すべきことは、縮
尺の割合は長さなることを知らしめ、實際の面積は長さの二乗倍なることを理解させる點である。勿論算術科を合科的に
學習せしめねばならない。

(二)分布圖の作成 地理附圖に載つてゐる分を十分活用させる。一應彩色させて理解を深めるがよい。更に附圖にない
ものも教師と兒童との協同によつて作成して見るがよい。米の分布圖、都會分布圖、動物分布圖、植物分布圖なども一應
實習せしむべきであらう。

(三)統計圖表 方眼紙及び方眼塗板を利用して描かしめる。その表示法には、點圖法、線法、地圖法、象形法の四種が
ある。統計圖表實習を旺盛にするには、先づ統計そのものを求めねばならない。教師は常に最新なる統計材料を求め實習
させることに努めねばならない。

(四)交通に關する實習 旅行案内を各兒童に所持せしめるか、或は學級に備へ付けるがよい。旅行計劃を立てさせ、目
的地に行くには如何なる鐵道や航路によるか、何哩或は何溼あるか。何時間を要するか、賃銀は幾何か等を実際に計算せ
しむる。又鐵道各線の名稱、起點終點、通過する主なる都邑、府縣名などにも注意せしむる。

(五)實地觀察による實習 この點に關してはその實習の種類を列記するに止める。(一)寒暖計による温度の統計(二)雨
量計による雨量の統計(三)物産標本の鑑識とその特徴の把握(四)物産陳列所の見學(五)商店工場の見學(六)博覽會の見學

(七)遠足に於ける實地見學(八)郷土に於ける物産の蒐集調査(九)郷土に於ける日用品の産地、到着順路の調査。
(六)模型製作による實習 普通は砂模型・粘土模型などの實習をやらせるのであるが、時には校庭に大きな模型を作らせ
てみるも面白い。

又教室内で大黒板を平面に置き、或は黒布を敷き、その上に白墨或は白糸で地圖の輪廓を採り、山脈には砂を盛り、高

き山には石を置き、川には線を布き、米の産地には米を並べ、良港には船の模型を置くと云つた方法を探るも面白い。この方法は至極簡単に、又取換も容易であり、全級児童を活動せしむるに足る可なりの大舞臺である。

地理直観方便物の蒐集

地理科の如く學習の對象が常に兒童の未見未踏のもの、即ち直観によつてその實際を想像類推せしめる教科には、殊に直観的方便物の蒐集に努めねばならない。單に多く集めると云ふよりも、直ちに實際を想起し得るだけの最も有價値な方便物を蒐集することに努めねばならない。尙折折方便物を蒐集したとしても、その取扱上の不足を來たしては何の價値も、益するところもない。つまりその方便物の整理によつて、兒童を常に推究への理想に指導するところあらねばならない。手近に容易に求め得られる方便物は、努めて郊外教授を盛んにし、或は旅行などの場合に、教師なり又兒童自身によつて蒐集せしめるがよい。

次に蒐集し用意すべき主なる方便物を挙げれば、先づ第一に地圖が必要である。地圖の中でも本邦全圖、本邦各地方地圖、地文圖、交通圖、世界圖、各大洲地圖、主要國圖、郷土教授に必要な地圖、其他陸地測量部の五萬分又は二十萬分の地圖などは是非用意すべきものであらう。尤も最後の地圖は自己の府縣内のもの位で差支へあるまい。次に機械器具類として蒐集すべきものは、地球儀・三球儀・磁石・寒暖計・雨量計・模型砂箱・幻燈機械などを挙げなければならぬ。標本としては動物・礦物・原料製造物などを蒐集する。繪畫寫眞の類は、都市・港灣・山岳・名勝舊蹟・各國の人種・風俗・生業などを示すものを蒐集すべきである。尙統計圖表も出来るだけ多く新しきものを蒐集することが肝要である。

言ふまでもなく是等の方便物は、多く經費の都合上蒐集を止むなく中止せねばならぬ場合もある。標本・機械類などの蒐集は中でも困難である。併しこれも教師の熱誠努力の如何によつて自ら蒐集の困難に打ち克つことも出来る。或は兒童を介して父兄を説き時には家庭訪問によつて説き、幾分の補助を得るに努むべきである。又方便物各種の生産會社なり工

場に、學校として寄附を依頼すれば、止むを得ざる品の外は大抵惠まれるものである。徒らに拱手傍觀する態度は教師としての恥と知らねばならない。又この種の百方依頼することによつて、思ひもかけぬ完全な最も價値ある方便物を得る場合もある。即ち繪葉書、寫眞などはその例で、營利商人の賣り捌く單に美麗を目的としたものより實際を目的としたものを手に入れることも出来る。要するに教師の努力であり、意氣である。統計圖表の如きに至つては、教師が常に新聞、雜誌の諸事象に細心な周到な觀察を續け、自ら或は兒童と共に製作すべきである。或は又繪葉書などの蒐集の一例として、これを兒童の各家庭から持ち來らしめるも面白い。各家庭宛へ各地からの繪葉書の來たものを兒童を介して蒐集するのである。時には世界偏奇の地の珍しい繪葉書などに接することもある。方便物の取扱上の注意に就ては、こゝでは省略する。

地理教授法の参考書

社會事象は日々急激な速度で動いて行く。地理教授はと變轉極りない材料に惱まされるものはない。一日注意を怠れば既に事實よりも歴史を教へることとなる。従つて實際指導法の研究も必要であるが、又社會事象に關する新知識、即ち鐵道案内や毎日年鑑の如きものゝ研究も輕視してはならない。次には極く廣い範圍に亘る、兒童の分野にまで亘る地理參考書を紹介しよう。

學校地理學習五年六年	齋藤英夫著	東京目黒書店	各一、二〇
家庭地理	齋藤英夫著	東京目黒書店	一、八〇
時勢に鑑みたる地理教授	小澤善吉編	日本出版	一、一〇
地理の研究	大淵善吉編	大阪駿々堂	〇、二五
旅行案内	北垣恭次郎著	東京蘆田書店	一、七〇
地理の日本			一、七〇
文庫			〇、二五

趣味の日本地理	橋本政彦 共著	東京三友社	一、九〇
小學生の地理	田居滋 著	東京弘成社	〇、八五
鐵道旅行案	龜井忠一 著	東京博文館	三、二〇
教科摘要學生の日本地理	龜井忠一 著	東京三省堂	一、五〇
教科摘要學生の世界地理	龜井忠一 著	東京三省堂	一、一〇
新しき世界への地理學習	村井金三郎 著	大阪交盛社	〇、四五
開成館模範日本地圖	開成館編輯所 著	東京開成館	一、三六
開成館模範世界地圖	開成館編輯所 著	東京開成館	一、三六
地理教授辭典	川岸晋次郎 著	東京、大阪寶文館	二、五〇
毎日新聞社編纂	大阪毎日新聞社編纂	大阪毎日新聞社	一、〇〇
朝日新聞社編纂	大阪朝日新聞社編纂	大阪朝日新聞社	〇、八〇
時事新報社編纂	時事新報社編纂	時事新報社	一、〇〇
兒童の天文學	西田與四郎 著	大阪東洋圖書	一、八〇
兒童の地理學	清水半吾 著	大阪東洋圖書	一、八〇
地理學通論	山崎直方 著	東京開成館	二、〇〇
修正地理學の學習指導	鶴居滋一 著	東京明治圖書	〇、七〇
書に於ける地理學の學習指導	清水中 著	東京明治圖書	五年、五〇
基礎に於ける地理學の學習指導	田中 著	東京明治圖書	六年、五〇
高等小學地理學の實際	富士德二郎 著	東京教育出版	五年、三九
研究大日本地理精説	栗原寅次郎 著	東京大同館	各二、九〇
研究改造世界地理精説	栗原寅次郎 著	東京大同館	各五、八〇

日本産業地理精説	栗原寅次郎 著	東京大同館	三、八〇
改造外國地理	長谷川與三 著	東京博文館	二、五〇
帝國産業大資料 上下	廣島高地理研究部 著	東京、大阪寶文館	各六、〇〇
新地理書挿畫解説 五年、六年	増澤淑著	東京明治圖書	各二、六〇
文化地理新教授法	菊地勝之助 著	東京教育研究會	二、五〇
中心地理新教授法	清水甚吾 著	東京東洋圖書	二、八〇

地圖の選び方と使ひ方

地圖は地理學習の出發點であり、その中心點である。地圖中心の學習の肝要なることは、今更暇を要するまでもないところである。従つて讀圖力の養成と云ふことが勿論必要ではあるが、先づ教師は兒童に提示するところの地圖の選擇に十分の用意を持たなければならぬ。如何に教師の教授が巧妙でも、その説話が堂に入つてゐても、その方便物たる地圖が不適切なものであれば、折角の教師の努力と効果は半減されて了ふ。故に教師は教授法の研究と共に地圖の選擇を輕視してはならない。

然らば如何なる地圖が最も價值ある適切なるものであるか。先づ古きを排して常に新しき地圖を選擇すべきことである。今頃歐洲大戰以前の地圖を使用してゐるところは皆無であらうと思ふが、なるべく時代の變遷に伴つて地圖の革新を計らねば兒童に時代進歩の實情を理解せしめることが出来ない。領土の變化などは色彩を塗り換へればいゝなど、輕便策を採ることは宜しくない。又新地圖を購入了からとて、直ちに舊地圖を廢棄する必要もない。その新舊地圖兩者を同時に兒童に提示して、その比較對照せしめることが肝要である。舊地圖と雖も決して生命なきものでなく、その利用の範圍は教師の研究の如何によつて無限に擴大されるものである。最近の地理學習に於ては教師用地圖を中心とするもの

次には餘りに精密にすぎたものを排する點に注意すべきである。

ではなくして兒童自身の地圖及附圖を中心として學習せしめるのであるから、精密にすぎるものは實際上何らの價値も認められない。否却つて煩雜にすぎて明快に指示する事が出来ないものである。教師用地圖はなるべく簡單明瞭にして、その要點を的確に指示し得るものがよい。高價な舶來品などは却て教育的に價値が少いものである。尙斯かる簡潔なる地圖が手に入らない場合には、教師自身が描圖したものを使用して差支へない。言ふまでもなく、略圖程度のもので結構である。簡略な地圖、大體を理解し得るものがよい。併し簡略と云つても山脈の有様、土地の高低位は多少想像出来る位の工夫をなす必要がある。

次に地圖の取扱に就ては、一般に面倒がられてゐるやうである。整理が出来ないで不統一に流れてゐるとして地理の時間となつてあつて出し、急に地圖が見出されないで到底その時間に合はないと云つた結果にもなり易い。で止むなく別の在り合せの地圖でお茶を濁すと云ふことになる。兒童の迷惑は一通りでない。で地圖の整理と利用と云ふ點に平常注意して欲しい。世界地圖及郷土地圖を平常教室或は廊下に掲示しておくことは勿論であるが、その他の地圖は叮嚀に巻きこんで廊下の壁に掛けておくがよい。言ふまでもなく世界地圖と日本地圖とは別々に掛けるがよい。世界地圖は洲の順に日本地圖は地方順に順序を一定して一列に掛けておくのである。尙卷いた外側には、其の地圖の名稱と番號とを大きく書き地圖を掛ける場所にも一々番號を打つて置くやうにする。この方法によれば、教師は一々紐を解いて中身を調べる手數も省け、使用後の整理も整然となる。教師が多忙な場合には、番號を指示して地理當番に用意を命ずることも出来る。

尙教師も兒童も地圖を叮嚀に取扱ふやうに、習慣づけることが肝要である。教室に平常掛けてある地圖に悪戯書きをしたり、紐を切り取つたり、主要都市にインクで丸をつけたりする兒童の悪戯は決して皆無とは云へない。一度悪戯されたら取返しがつかないのであるから、前以て十分注意すべきである。教師自身も注意を一點に集注せしむるために、不用意に地圖を鞭でビシヤ／＼叩く人もあるが、これは亂暴である。保存にも堪えない。又その地圖の掛け方が一定せず、向ふの隅や此方の隅と變更するやうではいけない。

五 地理教授法最近の進歩

教授法刷新の方向

教育教授は教育研究の進歩と時勢の要求に應じて刷新されなければならない。現今各教科の教授法は鮮かな兒童本位の教育改造運動によつて刷新されつゝある。讀方も算術も、地理も國史も修身も皆此の兒童本位の教授法へと改造の道程をたどつてゐる。然らば兒童本位の教授法とはいふ内容を持つてゐるものであらうか。此の主張は必ずしも新しくないけれども、今日の兒童本位の唱ふる内容には新しい處がある。即ち

- (1) 今日の兒童本位の教授法は兒童の生活そのものを展開發展させようと專念するものであつて、教材は兒童生活の發展の爲の材料であるとし、教授法の爲に兒童の學習を犠牲にするようなことは徹底的に解除して、一にも生活發展、二にも生活充實と努むるのである。
- (2) 従つて教授の實際手段は兒童の生活の中に指導の手筈を求めてそれを引出し助成發達させようとするのである。
- (3) 見方をかへて之をいへば、概念演繹の教授法を廢して事實から、或は兒童の具體的經驗生活から出發し、兒童の發達程度に應じた歸納的方法に進むのである。後ほど地理教授の實際について申上ければ、一層明瞭になることであるから、今はこれだけにとゞめることにする。
- (4) 日課表に定められた時間のみを教授の時間とするのではなく、勿論その教授時間は主要な部分にはちがいが無いが、兒童博物館、校外教授等其他各種の施設によつて所謂環境による自然の化育を重んじて教育しようとするのである。

然らば地理教授法刷新の實際はどうか、これについては、節を新にして述べよう。

地理教授の地に即すべき方法

扱て前にも述べた様に「概念演繹の教授法はすたつて、事實から歸納的に進まうとする」ことは現今地理教授法に於いても顯著な刷新の方向である。

元來地理教授は言葉を暗記させれば事完しとすべきものでない。聞いて學ぶといふことは事實多いのであるが、見て學ぶ地理がなくてはならないのである。見て學ぶのみならず、歩いて學ぶ地理、生活經驗に訴へて學ぶ地理になつてはじめて生きた地理となるのである。従前の地理教授は理解し、知的活動に訴へればそれでよかつたのであるが、今日の地理教授はそんなことでは満足してゐない。どうしても地理を學んだ上は「將來何かなすあらんとする意氣を養ふまでに至らねばならないとする」に到つた。茲に於いて聞いて學んだ地理は耳の鼓膜を動かすにすぎなかつたが、今日の地理教授は手も足も目も心も働かして全我の活動に訴へようとするのである。

そこで教授法も著しく變つて來た。而し地理教授法の發達に關係ある今一つの重要な原因がある。それは地理學研究の最近の進歩である。私は地理學がどういふ發達歴史を有つてゐるかについてこゝに述べる追もないが、従來の地理學は貧弱なる材料を基にして地人相關の理法を發見することに急ぎすぎた憾があつたのである。處が極く最近の地理學は地理的現象に深く着眼する様になつて地理理法の思索よりも先づ、地理區の研究に取かゝる様になつたのである。併し地理區の研究といつても分布圖を作ることだと早合點してはいけない。地理區、地理的現象、地理法の研究に進まうとするのであるが、此處で特に注意しておかねばならぬことは、此の地理區研究の情勢が、地理教授法の進歩に甚だよい影響を與へた、さうして従來稍々もすると忽かせになつてゐる地に即することの大切なことを思ひつかせたのである。

従來は位置、地勢、區域、氣候、産業、交通、都邑等といふ様に或抽象概念を定めてその點から土地を研究してゐたもので、地勢とか産業とかいふ言葉にとらはれ時には地圖に即するよりも此の種概念を授けることが大切なかのやうに考

へられてゐたものである。

教師と地圖との間に此の種概念が障壁を作つてゐて、土地に即すべき地理教授が、先づ此の概念に束縛せられねばならなくなつてゐたのである。例をとつていふならば、我々は最初から抽象的な「中部地方の地勢」といふ立場にとらはれて土地を見るのでなく、「甲府盆地に於ける土地の様子と人の活動情況」といふように小さい地域について其の地理を研究しなければならぬ。かういふ具體的な事實を綜合して、而して後に中部地方の全體概念に到達しなければならぬのである。かうして出來上つた中部地方各小地域の知識を先づ求める。それからその雑多な知識をどうして整理したらよいかといふに、こゝで始めて位置、地勢、氣候、産業、交通といふ工合に統整したらよいのである。

吾々の考からするならば地理教授は大體左の四階程を経過すべきものであると思ふ。即ち

(A) 學習せんとする土地と兒童の生活と關係をつける段階——今學習しようとする土地へはどうして行くか、その土地に關係ある直觀物、過去の經驗等を憶起して地圖について當つて見させる。かうすることによつて心持でも兒童は其の土地へ行つた様な親しみを持つのである。

(B) 研究の範圍を定め全體の見通をして地理區を定める段階——分水嶺を地圖について觀得したり、其の地方の骨格たる山脈の方向、平地の配置を大觀する。その上に人口、都邑、産業、交通等の分布圖を示して土地繁榮の様子を觀取させ候、産業等を考慮して、或地理現象の小地理區を決定する。此の間に全體の地圖をかゝせたり各種の直觀作業をやらせる。

(C) 小地理區に見られる地理現象に着眼して地人相關の理法を取扱ふ段階——小地理區に行はれる地人相關の理法を取扱つて其の地に於ける地理理法を判然たらしめるのであるから、地理區内の産業、交通、地候、都邑等各方面の材料が地を中心に綜合的に取扱はれる。従來の地人相關の取扱といふのはこゝに於いてはじめて生きて來るのである。各小地理區の學習研究の間にそれ／＼直觀及作業を盛んに行はせる。

(D) 各小地理區に於いて教授した知識事項を統整し、之を作業化し或は考察的の取扱をなす——以上、(A)(B)(C)(D)の四段階の取扱が、今日最も進歩した又最も合理的なる地理教授法であると信するのである。

翻つて従来の地理教授法を見るに此の、(A)(B)(C)の三段階、即ち地理研究に於いて最も重要な三つの過程を通過せずして時には教師すらも通ることなく他人の研究によつて統整せられたまゝを何等消化することもなくて傳達しようとしてゐた。地理の教師は五萬分の參謀本部の地圖などはどしどし着色して土地そのものゝ研究をしてその知識を位置、地勢、産業交通といふ様に整理してその上に右の様な指導經過により教授しなければいけないのである。

今此の立場から地理教授法各種の意見を批評して見よう。

(一) 讀圖主義の地理教授——讀圖とは山の形や川の方向ばかりを研究するものではない。その土地に働ける人類の活動を觀取しその上で地理現象に着眼して地理理法を考察するのでなければならぬ。それも慢然と讀圖するといふのでなく、地理區を定むる爲に先づ地形區、氣候區、産業區、交通區等の研究をするのであるから、此の點に於いて我々の考へに近い所があるのである。地圖を重んずるといふことは土地に即する教授法の重要な手段であるからである。

(二) 地人相關の綜合的取扱——前述の、(C)の段階に於いて一言しておいたから新に申す程でもないが、従来の地人相關の取扱は小地理區の研究をおろそかにして先づ概觀的な地勢、氣候、産業、都邑を考察し、其の不確かな學習の上と言葉の關係をたよりにして「此の地勢力と産業とはどんな關係があるか」といつた様な方法をとつてゐたのであるが、之には甚だ無理が伴つてゐた。土地をはなれて地人相關の理法のみを論ずることは地理研究ではない筈。どうして先づ地理區に即して其の小地理區の地人相關を見るのでなければいけないのである。

地理教授の兒童に即すべき方法

地理教授は前述の様に土地に即して行はなければならない。何といつても先づ小地理區の取扱をして其の上に統整的取扱をしなければならぬのであるが、之を實施するに際しては兒童に即すべき方法を用ひねばならないのである。所謂兒童に即する方法とは、(一)兒童の程度に適合すること、(二)兒童の生活に接近すること、(三)兒童の興味に適合することであつて、之が爲には次の様な各種の方法を行はねばならないのである。

(1) 學習に作業的方法を採用する——地理學習に作業的方法を多く採用するといへば描圖、模型製作、レッテル採集、計畫的學習活動、實地觀察等をやらせることになるのであるが、それは今日言はれてゐるだけであまり多く行はれてゐない何故盛んに行はれないかといふに、其の第一の支障は教授時間が不足するといふことであらう。「そんな方法のよい事は十分承知してゐるが、教授時間數に制限されてやつてゐられません。」とは屢々耳にする事である。毎週二時間の教授時間では實際模型製作などはやつてゐられない。私の學校では作業時間を特設してゐるのであるが、それでも一々模型を作るような事をやつてはゐられない。私は複寫用紙を利用して描寫、略圖を用ひて描圖しながら學習する様にしてゐる。例へば奥羽地方を教授するには先づ製圖用の半透明の用紙に奥羽の輪廓をうつしとらせ地理ノートの上に炭酸紙と此の輪廓圖とを重ね上から輪廓を複寫させる。こゝにいふやり方であるから描圖時間が極く短くて一地方を學び終へる迄に地勢圖、人口分布、都邑交通圖、主要産業圖、氣候圖、各小地理區圖等十數葉の地圖をノートに描き乍ら學ぶ。描圖しながら學習するのであるから兒童は理解が早く興味が多くて、地理の時間が待遠しくて仕方がない様である。

(2) 研究的方法を採用する——兒童が目的活動をするのでなくては本當の興味はわき起るものでないから、學習は常に目的活動をやらせねばならない。即ち我校では作業的方法又は研究的方法によつて其の目的活動を遂行させようとするのであるが、例へば奥羽地方の指導に於いて小地理區を阿武隈川流域、福島縣海岸地方、仙臺平野及其の海岸、北上川流域平野、岩手縣海岸、三本木原、陸奥灣岸、山形盆地等小地理區を定めて之に適當の參考品畫圖類を準備しておいて各々研究にとりかゝらせる。場合によつては研究を分擔させそれを發表させて後教師はその補正によつて全體に押及ぼす

といふ方法を行ふのである。

(3) 生活地理の方法を採用する——我々地理教育は或意味に於いて生きた社會的教科であると信ずる。故に社會の産業、交通、其他各方面の經濟活動人文活動の挿繪、幻燈、掛圖、統計圖を用ふるはいふ迄もなく常に校外に於いて系統的に自然人文の各方面の直觀教授を行ふ。

又スクラップを教室におき、商品レッテル、物産、各種原料等の兒童が主催する展覽會を開催する。斯くして兒童の地理生活は教科書の暗記などといふ方向ではなく、生きた地理を學びつゝ進むことになるのである。近頃起つた問題にも「櫻桃の産地」といふのがあつた。兒童は早速八百屋へ行つて各種の櫻桃のレッテルを集めて來た。そして山形、福島、諸縣に優良櫻桃の多い事を知り私から其の産額、販路、櫻桃と氣候風土の關係を説明してきかせたことがある。

又六月中旬から七月初旬まで兒童博物館で原料及工程の展覽會があつた。食料、衣料、ゴム、硝子、陶磁器、鐵類をはじめ數百種の原料と工程、産地が一目瞭然と陳列された。かうして生きた地理生活が充實して行はれるのである。以上地理教授の兒童に即すべき二三の方法をのべた。尙教師の修養についても一言すべきであるが、今回は之にて擧筆する。

昭和九年九月二十日印
昭和九年九月二十日發行

刷 勞作主義地理教育
行 定價金壹圓廿錢也

著者 宇野 誠 一

發行者 東京市淀橋區柏木一丁目

水 木 嶽 龍

印刷者 東京市小石川區八千代町三二番地

白 形 茂 任

不許
複製

發行所

東京淀橋區
柏木一丁目

高 踏 社

振替東京七四四五七番
電話四谷一七〇七番

著者 水木 高京東
官教前

複式教育の新研究

複式教授の準備の仕方

複式學級經營の實際

複式教授案の立て方

複式教授の仕方と觀方

著者 水木・藤田・林 小 高京東
官教小附

菊版約二百頁上製
定價金壹圓貳拾錢
複式教育に關する諸問題を懇切丁寧に説述したるもので、複式教育の絕對唯一の好伴侶也

菊版約二百頁上製
定價金壹圓六拾錢
複式教授の準備につき、理論と實際の兩方面から詳述したるもので、複式教授の虎の巻也

菊版約二百頁上製
定價金壹圓四拾錢
複式學級經營の理論と實際を徹底的に究明したるもので、本書によりて複式經營は完璧也

菊版約二百頁上製
定價金壹圓六拾錢
複式教授案の立て方を詳細に手の届くやうに説述したるもので、類書なき天下獨歩書也

菊版約二百頁上製
定價金壹圓四拾錢
複式教授の計畫と參觀の要領を説述したるもので、一讀以て本書の徹底裏りに一驚すべし

東柏 京木 淀一 橋目 高 踏 社 電話四七〇七 電話四七〇七 電話四七〇七 電話四七〇七

